

・景気の現状に対する判断理由等

景気の現状に対する判断の理由及びそれに対する追加説明等について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている やや良く なっている	－	－	－
		商店街（代表者）	単価の動き	・少し一服気味であるが、単価の高い商品の動きが良くなっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・若干だが販売量が増えている。しかし、景気回復の実感というまでは至らず、雰囲気という感じを脱していない。これまでも北海道は本州に比べて景気回復が遅れて来るため、今回の景気回復が本物であるならば、実感できるのは夏の終わりである。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が気温上昇にともない大きく伸びている。また、催事場など、季節商材以外の売上が増加している。さらに、複数の商材を購入する客も増加している。美術品購入も前年を上回ってきた。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・気温の上昇とともに、顧客の消費に対する意欲が高まっている。来客数の増加に加えて、買上客数も堅調に推移しており、春・夏物衣料が本格的に動き出す来月に向けて、さらに購買意欲が高まっていく。
		スーパー（店長）	単価の動き	・夏物関連の消費動向は月末の気温上昇で一気に動いたが、天候不順の影響から、月全体を通しては前年を下回っている。ただし、前月同様に高単価商品の動きが依然活発であり、今後もこの傾向は持続する。食品は、品ぞろえの充実や商品単価の上昇もあり、気温に左右されずに来客数、売上ともに前年を上回っている。気温が上がれば、こうした動きはさらに顕著になる。
		スーパー（役員）	来客数の動き	・今年は春が遅く、気温の低い状況が続いていたが、今月後半に入り最高気温が30度を超えるなど、一般的な春がないまま、すぐに夏になりそうな状況であった。客単価は前年比99.9%と、この数が月変わりなく前年並みを維持している。来客数も前年比99.5%となっており、悪かった4月よりも2.5%程度上昇している。
		自動車備品販売店（店長）	来客数の動き	・4月以降、来客数が前年を上回っている。購入が集中している商品は特にないが、全体的に売上が伸びている。
		その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・やっと寒い春が終わりそうだ。高齢化の象徴かもしれないが、気温の上昇と天候の回復で来客数がかなり上向いてきている。
		高級レストラン （スタッフ）	販売量の動き	・ランチタイムは団体客と子供連れの家族が多く、満席の状態である。ディナータイムは年配のグループ、夫婦での観光客が目立ち、好調である。今月の売上は前年を15%上回っている。
		観光型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・近隣のアジアからの観光目的の旅行者数は、ほぼ前年並みに回復している。また、5月は国内の大型イベント、学会があったことで国内客も好調である。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・客単価が少し上がっている。価格の高い商品への問い合わせも多い。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・競合他社に対抗する夏の新商品の販売量が想定を超えて好調である。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・当社観光施設の利用客は、26日現在で前年比120%と好調であるが、営業部門全体でみた売上は前年比110%にとどまっている。人は動いているが、お金の使いどころを絞っており、積極的な購買や飲食には結び付いていない。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・低温、長雨から天候が回復すると同時に来客数が増加し、活性化している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・前年と比較して、旅客、車両ともに輸送量が増加している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・分譲マンションの価格はここ数年で最も安定している。分譲マンションの供給が絞られていることで、需要が供給を上回っている状態が続いており、客からの値引き要請がないことが理由として挙げられる。
	変わらない	商店街 (代表者)	それ以外	・夏物商戦の最も重要な月に入る時期だが、全国的にかなりの気温差がみられる。北海道はかなり気温の低い日が続いており、夏物の始動が遅れているが、一方関東方面は気温が高くてニットの動きが激減するなど、非常に天候に左右されている。
		商店街 (代表者)	お客様の様子	・気持ち的には景気は良いと感じているが、実質的には中身がともなっていないように感じている。
		商店街 (代表者)	来客数の動き	・天候不順の影響もあり、一般の来街者数は連休明け以降も目立って増加していない。また、他地域では台湾及びタイ方面からの観光客が増加しているとの情報もあるが、当地域では台湾からの観光客も含め、確認できる限りにおいて買物客の中に外国人が占める割合は少ない。
		商店街 (代表者)	来客数の動き	・来客数、売上ともに前年よりも数字を落としている。
		一般小売店 [土産] (経営者)	来客数の動き	・今月も経済の動きというよりも天候の悪さが大きく影響している。当社は昆布専門店ということもあり、固定客が多いが、売上はようやく東日本大震災以前の水準に戻ってきた。
		一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・5月は月半ばまで気温が上がらず、寒い日が続いていたため、客が外出をして飲食するには適さない気候であったが、後半に入って気温が上昇するとともに少し良くなってきた。
		百貨店 (売場主任)	販売量の動き	・まとめ買いが非常に少なくなっている。客は必要な分だけを吟味して買う傾向にある。
		百貨店 (販売促進担当)	販売量の動き	・気温が上昇傾向にあり、期待感はあるものの、中旬までの低温の影響による不振を取り戻すほどの力強さに欠ける。ただし、天候要因に左右されにくい食品は好調が持続している。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・販売量は4月より若干の上乗せがあったものの、前年比93%と来客数の落ち込みもあり、低迷した状態が続いている。
		スーパー (店長)	販売量の動き	・4月は調子が良かったが、5月に入りゴールデンウィークが寒かったため、本来ならば客が集まる時期になかなか客が集まらなかった。天候にかなり左右されている。
		スーパー (企画担当)	来客数の動き	・例年にない低温続きで行楽商材の動きが鈍い。一方で、低価格競争も厳しさを増しており、巷で言われるような政策効果の実感はあまりない。
		衣料品専門店 (店長)	お客様の様子	・これと違って良くなる条件が見当たらない。
		衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・道内の雇用状況、給与、年収が改善されていない。
		衣料品専門店 (店員)	単価の動き	・春が遅く、5月なのに雪が降り、桜の咲く時期も遅れている。5月末にようやく暖かくなり、客単価も上がってきたものの、関連商品の販売がともなわなかった。
		家電量販店 (店員)	お客様の様子	・5月前半は気温が上がらず、来客数が前年より減っている。ゴールデンウィーク期間中や直後も雪が降り、白物家電売場を中心に来客数が減っている。
		家電量販店 (地区統括部長)	販売量の動き	・寒い春が続いていることの影響を受け、エアコンを中心とした夏物家電の販売が非常に悪く、家電全体の足を引っ張っている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・年初は来客数、販売量に勢いがあったが、ここ最近では寒さの影響でもないだろうが、来客数、販売量とも減少している。中古車は高額車が売れている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・低燃費車を中心に動いている。今月は法人の受注も若干だが良くなっている。
		乗用車販売店 (従業員)	競争相手の様子	・3か月程前から段々と良くなっているが、その3か月前と比べて今月はそこまで特に良かったというわけでもない。周りをみても車の売行きは大体横並びで変わらない。
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・新型車を投入した一部の販売会社を除けば、受注量、売上とも大きな変化はない。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・良くも悪くもなっていない。気温が低めだったため、当地域の農業に影響が生じれば、景気が悪くなる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・例年はゴールデンウィーク終了後に来客数が落ち込むところだが、今年はゴールデンウィーク期間中が悪く、終了後の来客数が例年よりも多かった。ただし、ゴールデンウィーク期間中が天気に恵まれなかったことの反動なのか、景気の高揚感によるものなのかは判断が付かない。集客アップは売上面では有り難いが、輸入食品の仕入価格が高騰しており、料理やバイキングの値段に付加しにくいいため、収支面では苦しい。マンションや住宅の新築や改築が目につくなど、住宅関連については消費税増税前の特需が生じているようだが、飲食店への影響はよく分からない。	
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・報道などでは好景気で株価上昇などの記事が毎日のようにみられるが、現実には宿泊客やレストランの来客数が減少している。円安により材料費も高騰している。	
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・外国人旅行者はここ2～3か月急伸しているが、国内旅行者が伸びず、全体として3か月前とほとんど変わらない。むしろ外国人観光客の消費単価が低くなっていることで売上は低迷している。	
		旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・前年に比べて海外旅行が低調で、国内旅行が幾分良くなっている。全体としては微減となっている。	
		タクシー運転手	販売量の動き	・今月はゴールデンウィークがあるため、期待していた。しかし、観光客の入込はみられたが、天候が悪かったため、地元客の出が悪かった。3か月前と比較すると約1%の落ち込みであったことから、全体としては変わらない。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・注文数、問い合わせ件数とも、ほぼ前年並みである。	
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・株価が順調に回復して円安も進んできたが、ここに来て株価が乱高下していることで、客が不安なムードになっている。	
		やや悪くなっている	商店街 (代表者)	お客様の様子	・天候不順が続き、観光客のキャンセルなどでホテルや飲食関連が不調である。また、衣料品関連も初夏物の動きが鈍化している。
			百貨店 (売場主任)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中のイベントは非常に集客があったが、買上にはつながらなかった。上旬及び中旬は寒さの影響で羽織物、ジャケットの動きが前年の2割増しであったが、ニット、カットソー等の単品の動きが前年の8割台であり、非常に気温に左右された。
			コンビニ (エリア担当)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間中の来客数は前年比で1割の減少となった。低温が続いたため、飲料水やビールが大きく減少しており、行楽需要や花見需要も取り込めなかった。
コンビニ (エリア担当)	来客数の動き		・天候が良くなっても、来客数が回復してこない。		
旅行代理店 (従業員)	販売量の動き		・オホーツク管内はゴールデンウィークにも降雪があるなど、降雨と寒い日が続いていた。畑地が乾かないため、ビートやたまねぎなどの作物の作付けも遅れており、全体的に停滞感がある。		
タクシー運転手	来客数の動き		・5月はゴールデンウィークのような大型連休があるため、タクシーの売上が1年を通して悪い月である。今年の売上はほぼ前年並みであった。		
タクシー運転手	来客数の動き		・現状の景気動向については、持ち直し傾向ということが言われているが、当社の状況をみると、4～5月にかけて需要が非常に落ち込んでおり、大変厳しい。		
悪くなっている	美容室 (経営者)		来客数の動き	・年度替わりの時期が過ぎ、停滞気味となっている。	
企業動向関連 (北海道)	良くなっている	建設業 (従業員)	取引先の様子	・北海道内の建築鉄骨加工業は新幹線関連工事等、数件の大型工事の影響で秋口まで仕事が埋まっており、新規工事を受ける余裕がなくなってきた。	
	やや良くなっている	食料品製造業 (経営者)	それ以外	・大企業の景況感とは裏腹に、諸物価の値上がりにより、一般市民の生活必需品に対する節約志向が増している。	
		金属製品製造業 (役員)	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量がやや増えてきている。また、見積件数も微増ではあるが、増加傾向にある。	
		通信業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量の増加はもちろんのこと、これまで下落が続いていた単価もわずかだが回復してきた。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	コピーサービス業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・客先が製品の機能やニーズ解決を優先する傾向があり、価格は最後となってきている。ある程度は利益を確保できている。
		食料品製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・販売量について、3か月前と比べて特に変化がない。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・一部の高額商品の好調に続き、家具インテリア業界にも上向きの動きが出てきた。円安の長期化は国内製品の価格競争力の向上に寄与する。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・オホーツク地区は異常低温と降雪の影響で、秋まき小麦の生育が遅れているほか、ばれいしょの植付けやビートの移植作業も2週間程度遅れており、収穫時期の作柄への不安が強まっている。
		金融業（企画担当）	それ以外	・建設関連は、公共工事の本格化や消費税増税前の住宅着工の増加などから堅調である。ただし、人件費の上昇や資材価格の値上がりで、収益が圧迫されている。個人消費は、高額品などが売れ始めているが、天候不順などで全体としては横ばいである。
		司法書士	取引先の様子	・国の経済対策は都市部では浸透しているようにみられるが、地方都市やそれ以外の地域では景気回復の実感がなく、回復には相当の時間が必要である。
		司法書士	取引先の様子	・消費税増税などを控えて、建物新築のため土地取引が増えるとの予想もあるが、動きは鈍い。実需としての景気回復の兆しがみえない。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注価格が回復する気配が一向にない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・レンタル出荷は増加傾向にあるが、レンタル料は上がっていない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	・期待されていた公共工事の発注が、参議院議員選挙の影響なのか遅れ気味である。本格的な稼働が参議院議員選挙後に集中することが予想され、取引先も困惑している。消費税増税にともなう駆け込み需要もいまだ顕著には表れていない。
やや悪くなっている		食料品製造業（団体役員）	受注量や販売量の動き	・桜の開花の遅れや天候不順により、消費需要の落ち込みがみられ、業界での受注量が減少した。円高や株価の乱高下で景気の動向に不安定があり、中小企業では景気が悪くなっている。
		司法書士	取引先の様子	・土地の売買、建物の新築が相変わらず減少気味である。
悪くなっている		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・今月は連休があり、当社及び客先の稼働日数が減少したこともあり、商品の売行きは激減した。
雇用関連 (北海道)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・中途採用のニーズが増えている。なかでも営業職の求人が増加傾向にある。雇用形態では、依然としてパート・派遣のニーズが高いが、契約社員での採用ニーズも高まっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	・観光客が増えているためか、飲食店や小売店の販売が好調のようである。ただし、地元経済が回復している印象はなく、輸入コスト増による食料品や身の回り品の値上げの影響が懸念される。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・ほとんどすべての業界で求人意欲が堅調である。特に建設業や運輸業は人手不足などで広告出稿頻度が上がっている。また、飲食店や生活関連サービス、小売などの個人消費関連の求人件数の多い状態が続いている。北海道に多いコールセンターの増員の動きもみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年を13.7%上回り、39か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年を12.7%上回り、39か月連続で前年を上回った。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・小売業での求人の増加が目立った。チェーン展開の大手スーパーやコンビニの新規開店などがあり、各業種で増加した。建設業では建築分野で技術者のほか、職人や作業員の求人の増加がみられ、消費税増税を見越した前倒し的な発注が増加しているとうかがえる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・住宅建設の動きが活発で、建設業や建設資材業者などの建設関連求人が増加している。また、観光シーズンに向けて、観光関連求人も増加している。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人倍率が少し上向いたが、実感できない。また、求人が増えても労働賃金に動きがないため、景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・型枠、鉄筋、とび、土工など、建設関連の求人増加に対して求職者が極端に少ない。特に技術や資格を持っている若年層の応募が厳しい状況にある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・募集広告の売上が前年比117%と今月も続伸した。ちなみに2009年5月期と比較すると、約2.2倍の売上となっており、特に非正規社員に限ってみれば、地域の雇用環境はこの4年間で劇的に改善されている。業種別にみると、環境衛生が前年の2倍強、医療、土建、不動産、加工・製造・卸、自動車は前年を30～50%上回った。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・4月の新規求人数は前年を1.4%上回り、新規求職者数は前年を5.2%下回った。月間有効求人倍率は0.69倍となり、前年の0.64倍を0.05ポイント上回った。しかし、正社員求人の占める割合は47.4%と求職者と求人者の間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから依然として厳しい状況にある。
	やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・今年に入ってから各業種とも急激に求人数を伸ばしてきたが、5月に入って急激に失速し始めた。
	悪くなっている	—	—	—

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連	良くなっている	通信会社（営業担当）	乗客数の動き	・携帯電話そのものは既に需要期を終わり、落ち着いている。だが、車の需要や周りの様子を見ると、先行きの不安が払しょくされ、経済効果の上向きが期待されるような動きがある。
(東北)	やや良くなっている	商店街（代表者）	乗客数の動き	・まだまだ、アベノミクス効果による景気の上向きは見られないというのが東北地方の状況である。ただ、少しは春らしくなったことや、景気に期待感が持たれているというマスコミ等の報道により、少し心に余裕が出てきているようである。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・最近では若い男性が高額品を購入するという状況が続いており、必然的に客単価が上がっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・単価の動きについて、通常、5月であれば3,200円位であるが、微々たるものだが50円ほど増加している。また、単価に加え販売量の動きも良くなっている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	単価の動き	・やや良いとしたものの、3か月前の2月は震災後最も悪い月であったので、今月は震災後の平均的な水準に戻ったというのが実態である。株価上昇が伝えられているが、客の様子からは、むしろ以前に増して生活を切り詰めている様子がかがえ、常連客の来店頻度が間遠になっている。一方で、相談内容は健康増進のためというより、より切実な内容が増えており、客単価はやや上昇している。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	お客様の様子	・客先を訪問すると、天候の変化とともに徐々に反応が見られるようになってきている。カーテンの付け替えや、押入れの整理などをしてほしいという客が出てきている。
		百貨店（総務担当）	お客様の様子	・高額品、特に高級時計等の売上は前年を比較的上回っている。一方で、主力となる衣料品については、天候の影響やマーケットの競合関係によって、伸び悩んでいる部分もある。客の様子という意味では、高級時計の動きから判断すると、景況感は少し上向いている。
		百貨店（企画担当）	販売量の動き	・高額商品の動きは、海外ブランド、宝飾時計を中心に引き続き好調に推移している。衣料品については5月に入り寒暖の差が激しく、上昇方向には向かないものの、雑貨が帽子、傘などの季節商材を中心に好調で、全体を押し上げている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（経営者）	お客様の様子	・天候に大きく左右されるが、そのことを除けば良くなっている。美味しいもの、珍しいもの、話題の機能や素材の新商品などが活発に売れている。客はどこにでもある安い商品よりも、付加価値の高い商品を買求めている。
		スーパー（物流担当）	販売量の動き	・3か月前に比較して、来客数及び買上点数は前年比で良くなってきている。1点単価は3か月前より下がっているが前年比では良くなってきている。依然として客の購買動向は特売チラシ等に影響されているが、価格依存度の少ない生鮮の構成比が上がってきており、少しではあるが景気は良くなっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上は101%とほぼ前年並みだが、買上点数が104%と好調である。客単価も2%上昇と好調を維持している。買上点数が伸びているのは、気持ちの余裕が出てきている証拠ではないか。買い控えて守る姿勢から、少し先行きの明るさを期待しての行動かとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前月から今月にかけて、来客数が前年比で1～2%回復している。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは天候が悪く落ちたが、それ以降は順調に来客数、単価共に上がってきている。客の購買意欲は前年よりも上がっているようである。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・やはり、消費はマインドの面が大きい。ニュースを含め、円安ドル高による株価上昇など、景気の先行きに明るい兆しがみられることにより、来客数増、高単価商品の購入につながってきつつある。
		衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・来客数が若干ではあるが戻ってきている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・景気への期待感からか、来客数が良くなっている。
		家電量販店（店長）	来客数の動き	・3か月前よりも来客数は微増となっている。慎重に商品を選択しているが、高額商品を購入予定の客が増えていることは確かである。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型軽自動車の予約受注が好調である。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今まで購入を渋っていた客が購入を決断するようになってきている。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・6月に新型の軽自動車が発売になるため、客が多い。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・金額のはる商品を買求める客は少ない。ただし、小間物を買いくる客が増えており、来客数の動きは良い。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・まだまだ景気の良さが顕著にみられることはないが、週末は販売量がここ最近にないほど多く、忙しい日もある。2、3月はそういったことがなかったことから、中央の景気の良さが徐々に地方まで届いているといえるのかもしれない。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	販売量の動き	・ようやく品物が動くようになってきている。ただし、夏物の販売はこれからである。節電やエコスタイルが定着しつつあるが、どれだけ売上につながるかは全く分からない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・売上高の前年比が3か月前と比較してやや上昇傾向にある。
		高級レストラン（支配人）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク以降に例年みられる下降線が穏やかで、北東北の復興イベント多数で活気があった前年に遜色ない動きがある。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・連休明けということもあり、前月にみられた今後に期待するような雰囲気も落ち着き、ちょっとペースダウンしている。来客数、客単価共に低調な状態に戻つつある。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク明けは売上、来客数共に伸び悩んだが、その後、回復の方向に向かってきている。今までだと伸び悩んだまま月末を迎えるパターンであったが、今月はそのようなこともない。景気は良くなりつつあるようである。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・特にレストラン関係及びデパート地下のデリカ各店では、今までとは逆に、利用人員は減少し、消費単価は上がっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・割烹旅館を別に経営しているが、ゴールデンウィーク中はほぼ満室状態であった。そして、その後の反動もなく、他の平日も利用が伸び、ここ数年来の売上を確保できている。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・これまでの震災手控えムードから脱却し、積極的な営業投資を行っているようである。
		タクシー運転手	販売量の動き	・客はこれまでどおり乗ってきている。また、客の話を聞いても、景気が悪くなったという話はさほど聞かない。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・株価が高くなっていることを受け、景気が少しずつ上向ってきている。
		テーマパーク (職員)	単価の動き	・景気への期待感か、明らかに3か月前にはなかった商品購入の勢いがみられる。土産店でのまとめ買いや高額商品の売行きも好調である。
		観光名所(職員)	来客数の動き	・ここにきて来客数が非常に伸びてきている。大手の団体が募集する募集物ではなく、個人客もしくは友人たちと動くような小団体が増えてきている。それに伴って売上も増加している。
		遊園地(経営者)	来客数の動き	・ゴールデンウィークが散々の天候だった前年より大幅に復調している。ただ、まだ力強さまでではなく、震災前には戻っていない。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・自動車部品工場に勤めている客が、少しだが昇給したのでパーマをかけたいと訪れた。今までは節約を第一にされていた方なので、久々にいらっしゃって嬉しかった。全体ではなくても少しずつ景気が上向きになっているようである。
		その他サービス [自動車整備業](経営者)	単価の動き	・前年に比べて、1人当たりの販売価格が伸びている。
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・今月はイベントや天候に恵まれて、例年になく人出は多くなっている。しかし、売上は期待したほど良くはなく、例年並みである。今回の好景気はムード先行型ということを確認した次第である。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・大型店は好調だといった話を聞くが、中小零細店には対岸の話に聞こえる。ゴールデンウィークは好天に恵まれたため、身の回り品を扱う店は良かったとの声もあるが、飲食店は競争の激化から苦戦とも聞かれる。商店街全体としてはあまり変わらない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・天候不順により桜の開花が遅れ、ゴールデンウィーク後半は盛り上がり欠けた。しかし、震災以来減っていた県外中学生の修学旅行が目立って増えてきているという明るい話題もある。
		一般小売店[書籍](経営者)	単価の動き	・天候不順による田植えやその他の農作業の遅れによるためか、学校行事、その他の影響か分からないが、客単価が低下傾向にある。
		一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き	・桜の開花が連休とずれたため、観光客もあまり来なかった。
		一般小売店[カメラ](店長)	来客数の動き	・来客数の減少傾向が続いているが、高額商品の販売は横ばいで推移している。低価格商品はスマートフォンの影響で苦戦している。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・ここ数か月の傾向であるが、時計、宝飾、ブランド品など高額品の動きが顕著であり、震災後の見舞金による特需とは違う底堅い動きになってきている。また、天候も落ち着いており、婦人服及び紳士服の動きも良い。
		百貨店(経営者)	お客様の様子	・2月も後半からの寒波により季節商材が苦戦したが、5月もなかなか気温が上がらず季節商材、特にミセスの初夏物アパレルが苦戦している。食品もデイリー商材は、客が価格にシビアになっており苦戦している。
		百貨店(売場担当)	来客数の動き	・当店ではアベノミクスなどの経済政策の影響は全くみられず、依然として景気は良くない。来客数は前年比で100%は超えているが、これは、前月の気温が例年になく低かったことで、顧客、フリー客共に来店が少なかったことの反動といえる。しかしながら、後半の食品催事が開催された週は、気温が一気に20度を超えたことで来店が高まり、ようやく夏物が動き売上が伸びている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは寒かったものの、天候が安定していたためまずまずであった。その後も来客数は安定している。ただし、単価は微減である。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・今月は低調である。平均1品単価は3か月連続で前年割れし、来客数の伸びも前年並みである。買上点数が前年を若干上回り、売上はやっと前年をクリアしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・競合店間のチラシ価格ディスカウントが続いている。来客数は前年ベースで推移しているが、買上点数が減少傾向にあり、客の買い回り傾向がより強くなっている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数も買上点数も、3か月前からそれほどの増減がない。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・円安の影響で、各メーカーの値上げラッシュが続いている。サラダ油、小麦粉、輸入フルーツなど、輸入品の高騰による若干の値上がりで、客の買い控え等が発生しており、来客数は通常であるが、買上点数がやや下がっている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・競合店出店による来客数の減少が依然続いている。客単価は前年比で100%近くを推移しており、景気変動はあまりみられない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数の伸びがない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数は前年比で微減が続いている。ゴールデンウィーク後半の天候不順が響いたこともあるが、競争環境の変化が一巡するまでこの傾向は続く。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・報道から景気に対する期待感はあるものの、今年の春以降の売上は、天候の動向を見ても特に大きな変化は見られない。また、競合他社の相次ぐ出店に伴い、厳しい状況が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・株高と円安の影響が地方にはいまだ見えてこない。ただし、新規事業である発電関連の事業が稼働すれば景気上昇の機運が見え、人、物、金が動く可能性がある。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・もう春だというのに、この時期での来客数が少なすぎる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・気温の低い日が多く、春物を買にくる客が少ない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・5月からクールビズを開始した企業も多いが、スーツやビジネスシャツは前年までに購入した人も多く、購入客が減少している。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・テレビの売上はまだ戻ってきていない。白物家電は特にエアコンを中心に伸びており、前年を上回っている。単価も上がっており、話題の商品や新製品の人気商品もあるので、景気が上向きのような気もするが、家電業界としては前年を上回れず苦戦している。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・前年のエコカー補助金による先食いの影響を受け、新車の受注、販売台数共に10%強の前年割れとなっている。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・例年と比べ、5月連休後の動きが良い。新規来客数も減ってはいない。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・土日の新規来店客の数が全く変わっていない。
		乗用車販売店（店長）	お客様の様子	・経年車であっても車検を通して乗る顧客が多くなっている。新車ニーズも小型車が中心で販売単価も低く、本業の儲けに繋がりにくい。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・今月はイベントを開催したが、前年と比べ来客数が10～15%ほど減少している。
		その他専門店〔パソコン〕（経営者）	販売量の動き	・この時期にきて幾分動きがあるが、半期で平均的に推移している数値の底上げには今一つ足りない。
		その他専門店〔酒〕（営業担当）	来客数の動き	・連休中は天候が悪く例年より売上が悪かった。また、地元の農家では田植えの時期ということで飲食店も客が少ない時期でもあった。ただし、県外の動きは比較的良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	お客様の様子	・石油製品関連は、アベノミクス効果の反作用としての価格上昇局面を迎えており、末端価格の上昇傾向が出ている。それに伴い、消費抑制の心理が客に働いて消費の伸び悩み傾向が出てきている。現時点で、冬場の暖房用需要が終わり、当県特有の放射性物質の除染作業に伴う軽油の需要が続伸していること以外は目立った動きはない。ただし、大河ドラマの関連で会津若松近辺の観光客が増加しており、その地域の観光需要は伸びてきている。総合すると、一部に明るい状況が見えるが相対的に価格上昇が悪影響を及ぼす懸念が強い状況である。
		高級レストラン（経営者）	競争相手の様子	・客の様子が明るく、少しずつ景気が良くなっているのが分かるが、会社の売上等の数字には反映できておらず、特別良くなったという実感はない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・当社はどちらかというと低価格の外食であり、牛丼を始めコンビニとかなりバッティングするので、来客数も増えていない。
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ここにきて、週末と平日の来客数の変動が大きくなってきており、月間ペースでの集客が減少している。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・東京から来るこまち号の乗車率はアップしているし、県内でもいろいろなイベントがあるが、当ホテル及び物販の売上には直接は結び付いていないように見受けられる。大勢の客が来ているのは間違いないので、どこに流れているのかの分析が必要である。
		都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・宿泊部門は、大型の全国大会を始め、大会や学会の件数も多くかなり期待していたが、会場周辺のホテルに吸収され、それ以外のホテルへの波及効果はほとんどなかった。一般宴会及びレストランはほぼ予算通りに推移している。
		旅行代理店（店長）	お客様の様子	・年明け前後から受注は好調であったため、現在の状況と大きな差は無い。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・平成25年度予算が可決したが、それを実行する行政側が積極的ではない。国の予算が実行されない民間企業も共倒れになる。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客の設備投資意欲も大分改善されつつあるが、全体を見ると上向きとはいえない状況である。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・客との商談からはあまり好感感はうかがえない。円安株高の報道にあるような景気の良さもうかがえない。報道でいわれている景気の良さは夏の参議院選挙までの期限付きとも取れ、本格的な内需拡大までには程遠い状況である。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・キャンペーン内容や販売メニューも同じという理由もあるが、各コース別の販売数や売上が3か月前と全く同じで変化が見られない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・顧客訪問の際に話を聞いても、大体は景気は変わらないと話しており、経費削減を考えているようである。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・休日の来客数が若干少なく、一般客の動きが鈍いようでもあるが、ほぼ前年並みの状況が継続している。
		美容室（経営者）	単価の動き	・来客数は前年と同じような状況が続いている。回転率も同様である。
		設計事務所（経営者）	お客様の様子	・先月と変わらない状況である。
		住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・受注は安定しており、大型物件も多い。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	来客数の動き	・4月と5月の受付件数が大きく予算割れしており、前年実績の90%の伸びにとどまっている。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・県内では、電力関係会社の業績悪化に伴う消費の低迷が顕著になっている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・連休の反動か、閑散としている。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	来客数の動き	・商店街全体においても土日に人出がない。来客数の減少もあり、店頭販売が伸びない。
		百貨店（売場主任）	来客数の動き	・来客数が前年より減少しており、特に土日の伸びが良くない。高額品も特に目立った動きはなく、日常すべての買物に慎重さがうかがえる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（買付担当）	販売量の動き	・最近の株価の乱高下に加え、市内の商業施設等の変化があり、来客数、売上共に苦戦している。
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・食料品価格におけるデフレは止まらず、川上はインフレ、川下はデフレ状態が続いている。地域の消費者は安いディスカウント商品を求める傾向がある。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・競合店の出店、また価格競争により来店頻度が減少傾向にある。最近、この傾向は更に強まってきており、チラシ価格強化と主力商品の価格強化、ポイントなどの販促強化と地域全体が大競争になってきている。
		コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・売上、単価共に前年より5%ほど減少しているが、来客数の落ち込みが一番大きく、前年比6%以上の減少となっている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・郊外の大型ショッピングセンターが先月リニューアルした影響で、特に土日の来客数が減少している。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・5月中旬は非常に肌寒い日が続いたので、スーツ等の販売が伸び悩んでいる。震災特需に沸いた前々年以来、クールビズ等々により、販売量及び来客数を見てもスーツが伸び悩む状況が続いているが、今月は輪をかけてひどい状況になっている。
		自動車備品販売店（経営者）	お客様の様子	・繁忙期はずだが車検の入庫台数、補修車の入庫台数は激減している。エコカー補助金による買換えの影響をまともに受けているためとみられる。
		住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・売上は前年をクリアしていないのに、仕入れ値についての値上げ通知が次々きている。
		その他専門店「靴」（従業員）	販売量の動き	・4月中旬から気温が低かったり雨の日が多かったりすることもあるが、悪い要因はそれ以外にあると考えている。紳士靴、婦人靴、スニーカー、子供靴、すべての部門が悪い。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数が少ない。予約数も3か月前より2、3割程度少なくなっている。
		一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・当エリアではアベノミクスは全く機能していない。報道などで景気が上昇している等の話を聞く度に、「私の所には恩恵がきていない。むしろ、円安による材料や燃料の高騰で頭が痛い」とか、「経費がかさんでも景気が悪ければ値上げできない。前よりも売上が下がって、利益も下がったのではぜいたくできない」という町の声聞き入れて分析しているのか不思議に思っている。「エリアで需要と供給がまかなえれば、農産物の生産者も少しは助かるのに」などという極論も聞こえてくる。良い話が全く聞こえてこない。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・震災復興の特需も少なくなっている。また、destinationキャンペーンの最中にもかかわらず、客足が伸びない。市内では全国大会が多々開催されているが、1人1室利用であることや、市内のビジネスホテルが増加していることにより、我々のような郊外の観光旅館に足を伸ばすことがない。かろうじて顧客に助けられるが、付帯売上は伸びない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・土曜日などは予約も満室にならない状況である。4～6月までdestinationキャンペーンが開催中であるが、旅行エージェントと契約の無い中小旅館にはあまりプラスの影響は出ていない。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク期間は国内旅行需要が増加しているとの情報もあったが、在庫上限が決まっている商売なので、全体の取扱量が増加したとしても当館の売上が増加するわけではなく、例年と同様である。5月全体としては前年より悪い結果となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・震災被災地のため、前年は来客数、売上共にかつてないほど好調であったが、現在はいずれも前年をやや下回っている。来月以降の予約状況も若干下振れの傾向となっている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・販売状況は、個人旅行も団体旅行も震災復興需要が一旦落ち着いており、前年との比較ではやや悪くなっている。
		タクシー運転手	単価の動き	・連休中にお金を使ったせいかわからないが、客足は減っている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・連休が続いたので多少期待した面はあったが、連休で出費がかさんだためか、連休後はがくっと客の数が減っている。全体的に前年を下回っている状態である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪くなっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・客の動きがだんだん鈍くなってきているのが現状であり、5月はかなり悪くなっている。単価、買上点数も減ってきており、厳しくなっている。
企業 動向 関連 (東北)	良くなっている	出版・印刷・同 関連産業（経 理担当）	受注量や販売 量の動き	・株高となり、景気上昇の期待感が出てきている。今まで静観していた小規模の商店なども広告のチラシを作成するようになってきている。
		建設業（従 業員）	受注量や販売 量の動き	・公共工事を中心として受注量が拡大傾向にある。
	やや良 くなっ ている	農林水産業（従 業者）	それ以外	・前年は果物農家の収入は震災前の7割程度であったが、風評被害の賠償請求をしているので、前倒しをして生産資材を購入する農家も見られる。
木材木製品製 造業（経営者）		受注量や販売 量の動き	・住宅部材の需要が順調である。	
土石製品製 造販売（従 業員）		それ以外	・少しずつ株価も上昇し、夏のボーナスにも反映されるようである。新規発注などはさほど多くはないが、社員の給与や賞与の増加などから景気の上向きが見て取れる。	
一般機械器具 製造業（経営者）		受注量や販売 量の動き	・自動車部品については、期初に計画した水準を上回る受注が入ってきている。さらに、輸出環境も改善されてきている。	
電気機械器具 製造業（企 画担当）		受注量や販売 量の動き	・円安の影響及び携帯電子機器用部品の需要の増加が好調の主な理由である。	
輸送用機械器具 製造業（経営者）		受注量や販売 量の動き	・売上高は右肩上がりになってきたが、海外とのコスト競争は一層厳しく、生産性向上に注力していかなければ利益に繋がらないのが現状である。	
建設業（企 画担当）		受注量や販売 量の動き	・官庁工事の出件数が増えており、量的には上向きに向かっている。	
通信業（営 業担当）		受注量や販売 量の動き	・前年同期に比べても、ある特殊要因により傾向は上向きになっている。	
通信業（営 業担当）		取引先の様 子	・円安の進行により、自動車関連下請企業の業績が好調と聞いている。	
金融業（広 報担当）		取引先の様 子	・取引先において、売上が改善しているようである。	
広告代理店（ 経営者）		受注量や販売 量の動き	・チラシや土産品の包装紙の注文が増えている。	
その他非製 造業〔飲 食料品卸 売業〕（ 経営者）		受注量や販売 量の動き	・首都圏向け、県内向け共に出荷状況が良い。全体的に飲食店向けの出荷が好調で、県内については、大型観光キャンペーンの経済効果を直接受けているという手ごたえがある。	
		変わら ない	食料品製 造業（ 経営者）	受注量や販売 量の動き
食料品製 造業（ 経営者）	受注量や販売 量の動き		・デスティネーションキャンペーン期間中ということもあり、売上は前年より若干プラスになっている。	
食料品製 造業（ 総務担 当）	受注量や販売 量の動き		・受注量が依然として回復しない。	
食料品製 造業（ 総務担 当）	受注量や販売 量の動き		・出荷量や市場の動向は変わらない。	
繊維工業（ 経営者）	取引先の様 子		・ムード的には良いようだが、実態はまだまだである。	
電気機械器具 製造業（営 業担 当）	取引先の様 子		・地域中小企業の受注量は増えていない。横ばいもしくは減っているところが多いので、景気は下向きととらえている。	
建設業（ 経営者）	受注量や販売 量の動き		・工事量は増えてきているが、資材の値上がりがある。資材の値上がりは来月以降も続く見込みであり、経営的には不安である。	
輸送業（ 経営者）	受注量や販売 量の動き		・予想通りで推移しており、大きな変化や変動は無い。	
通信業（営 業担 当）	取引先の様 子		・アベノミクス効果を感じられない。	
金融業（営 業担 当）	取引先の様 子		・円安株高でマインドは改善してきているが、実態面で資金ニーズが出てきているわけではない。	
経営コン サル タント	取引先の様 子		・居酒屋では価格志向の店よりもメニューの質を重視する店の入りが良くなっている。	
公認会 計士	取引先の様 子		・クライアントの月次、決算状況を見ても、ここ2～3か月は足踏み状態が続いており、目立った業績の変化は見られない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		コピーサービス業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量はここ数か月、前年に比べ伸び悩み、むしろ下回っている。特に、コピーサービスの仕事の下回っている状況が続いている。	
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	取引先の様子	・客単価が前年比で5%くらい、買上数量も10%くらい減少しているとの話を聞く。価格競争だけが先走って、販売になかなか結び付かないのが現状のようである。	
		その他企業〔企画業〕（経営者）	取引先の様子	・取引先の住宅会社が事業清算を余儀なくされた。復興需要はあったものの資材費や労賃の上昇を販売価格に転嫁できなかったことが主因である。また、大工の人手不足から工期対応にも難儀したようである。これは1社だけの問題ではないとの声が業界から聞こえている。	
		その他企業〔工場施設管理〕（従業員）	取引先の様子	・取引先の様子に変化は無く、3か月前と変わりが無い。取引先の出入り数や納品量にも変化が無い。	
	やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・例年よりも、稲作を断念し当方に耕作を委託する農家が多い。農業を巡る情勢が厳しくなっているものとみられる。	
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に役所関係の発注が減少している。	
		広告業協会（役員）	それ以外	・地元広告業界はここに来て足踏み状態になっている。情報通信関係のテレビ出稿がなくなったことに加え、遊技場関連が自主規制などにより出稿をかなり減らしているからである。また大型小売店も前年同期比で落ち込んでいる。	
	悪くなっている	—	—	—	
	雇用関連 (東北)	良くなっている	○	○	○
		やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・固着していた現在就業中の潜在的な求職者から、求人に対する問い合わせが多くなってきている。今までは求人があっても人がいない状態だったが、ようやく動きが出てきている。
人材派遣会社（社員）			それ以外	・前年の同時期に比べ、内定を辞退される企業数が激増している。それだけ、各企業が新卒採用に積極的に動いているという証拠とみている。	
人材派遣会社（社員）			採用者数の動き	・タイミングも考えられるが、人員不足の解消のため求人掲載顧客が採用基準を落とし採用をする動きが出ていることが、リピート掲載の減少からも見て取れる。	
アウトソーシング企業（社員）			それ以外	・例年5月は仕事が途切れるのだが、今年はコンスタントにある。	
職業安定所（職員）			求人数の動き	・新規求人数は前月より減少したものの、前年同月及び3か月前よりは増加している。	
変わらない		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新規採用を考えている企業は増えているが、いまだ採用に慎重で、求人広告出稿に結び付いていない。	
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・株価の上昇、円安など景気上昇の材料はそろっているが、当県の企業では良い動きはほとんど見られない。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・前年度からの大量解雇等の動きは一段落したものの、求人数は増えていない。全国に比して低い雇用失業情勢にある当県のなかでも、当地域は最も悪い地域となっている。	
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・有効求職者数は前年秋以降、前年比増加を続けている。また、好転を続けていた有効求人倍率もやや低下し、足踏み状態となっている。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数はここ1年、約3,000～4,000とほぼ同一で推移している。		
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・前年まで有効求人数は2けたの伸びであったが、今は1けたの伸びにとどまっている。逆に有効求職者数は前年7月以降、前年同月を上回る月が続いている。		
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数はわずかに減少しているものの、引き続き高い水準で推移している。特に建設業、食料品製造業、運輸業、卸売業、小売業が好調である。		
	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・地域性もあるが、除染や建設といった復興事業や福祉事業、運送事業の求人が数多くある。一方で、製造業の求人が皆無に近い。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	人材派遣会社(社員)	採用者数の動き	・恒常的に派遣登録者が減少しており、長期派遣契約が前年を下回る状況が続いている。
		人材派遣会社(社員)	求職者数の動き	・5月に入り、企業からの発注数、求職者応募数共に動きが鈍化している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は依然として高水準で推移しているものの、パート求人も多い。前年比での求職者の減少傾向が続いていることもあり有効求人倍率は高水準となっているが、状況的には緩やかな下向きとなっている。
		職業安定所(職員)	周辺企業の様子	・食品製造、販売業では、原材料や包材に円安の影響があり、収益は減少傾向にあるとのことである。また、半導体デバイス製造業では主要顧客からの受注減や工場売却により、更に厳しい状況にあるとのことである。
	悪くなっている	—	—	—

3. 北関東(地域別調査機関:(株)日本経済研究所)

(—:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)	良くなっている	コンビニ(経営者)	来客数の動き	・以前ははっきりとした目的買いが多かったが、今はカップルや子供連れの家族の来店頻度が上がり、買物を楽しんでいるように見える。売上、客数共に前年同月比で105%と好調である。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・月の契約数が前年の倍近くまで増えている。主な要因は、賃貸住宅、店舗建築の伸びが中心となっているが、戸建て住宅も展示場来場者数が持ち直しており、堅調に推移している。上期の売上数字はほぼ確保できており、来月以降は下期以降の仕事となる予定である。
	やや良くなっている	商店街(代表者)	販売量の動き	・景気が悪いといわれており、アベノミクスで景気が良くなってくるのではないかというなかで、前年同月比でみると思ったより商品が動いている。実際の景気はまだ良くなってきていないが、気分的には良い方向に向かっているということで販売量もやや増えているような感じである。
		一般小売店[家電](経営者)	販売量の動き	・会社等での設備に関する案件が少し出てきている。
		百貨店(営業担当)	お客様の様子	・売上が前年同月をほぼクリアできる状況になってきている。客の様子を見ても、単価の多少高い物を購入しており、客単価がやや上がっている。
		百貨店(店長)	単価の動き	・一部であるが、牛肉、毛ガニ、フルーツといった高額な食品の購入が前月より増え、客単価が上昇してきている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・成績は絶対好調とはいえないが、毎月2~3%の向上が見られる。単品で量販できているというより、多品目で販売量が伸びてきているという状況である。月末にかけて気温が上がったのも奏功している。
		スーパー(経営企画担当)	来客数の動き	・3か月前と比べると、来客数、売上共に前年比では上がっているものの、まだ前年の100%までは回復していない。
		スーパー(統括)	来客数の動き	・わずかではあるが食品、衣料、雑貨共に既存店ベースで売上、来客数が前年を上回ってきている。特に、衣料品は気温の上昇に伴い、機能的肌着やクールビズ商品が伸びている。食品は夏物商材を中心に安定した動きを示し、レジ周りの衝動買い商品やデザート類の動きが特に活発化している。
		スーパー(商品部担当)	単価の動き	・数か月間、客単価の変動があまり見られなかったが、若干ではあるが上昇傾向にある。
		コンビニ(経営者)	販売量の動き	・暖かくなってきたということもあり、清涼飲料水をはじめとした売れ筋商品の売上が寄与して売上が上がってきている。また、競合店との競争についても、多少、解決あるいは回復したような兆しが感じられるようになっている。
		コンビニ(店長)	来客数の動き	・3か月前は来客数が大分減ってきていたが、ここに来て前年並みに戻りつつあるので、3か月前と比べればやや良くなっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (販売担当)	お客様の様子	・今月1か月間の景気の良し悪しについてはどちらともいえない。上旬がかなり悪かったが、中旬以降は客そのものが消費の方向に動いており、しかも今まで比較的使用頻度の低かったクレジットカードが使われ始めているような印象を受けている。客との会話のなかでも幾分明るい兆しがあるのかなという印象を受けている。
		家電量販店(店長)	単価の動き	・テレビに関しては、前年比で90%程度まで回復してきており、50インチ以上の大型テレビへの買換えも発生し、数量比で8%程度まで上がってきている。エアコンについても、家中まとめた入替えが顕著に進んでいる。省エネ機種への関心も高い。
		住関連専門店 (経営者)	販売量の動き	・日々の客の買上点数が前年同月を上回ってきている。月単位の比較でも同様である。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・ゴールデンウィークはここ2～3年の間では最も売上が良く、その後中だるみはあるものの、順調にきている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・5月の前半は観光シーズンで順調に来店数が伸びていた。後半は通常に戻ったが、全体的に来店数が多くなっている。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・客単価は低いままだが、来客数が回復してきている。アベノミクスも影響していると思うが、昨年来取り組んでいる街興しのイベントが効いてきているようにも思う。
		観光型ホテル (営業担当)	来客数の動き	・オンシーズンに入り来客数が増加している。今年はインバウンドが好調で、特にタイからの旅客が多い。ゴールデンウィークはほぼ前年並みであった。
		都市型ホテル (営業担当)	販売量の動き	・県北と県南にあるビジネスホテルだが、3か月前と比べ、どちらも客入り、稼働が良くなっている。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・来客数の動きは単価にも連動してきている。これから景気は良くなる。
		旅行代理店(所長)	来客数の動き	・円安の影響や株価の上昇等により、客が海外旅行から国内旅行へとシフトするだけでなく、全体的に客数も増えてきていることもあり、来訪者数は順調とはいえないものの、右肩上がりに推移している。また、同時に円安効果なのか外国人の来訪が顕著に伸びている。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・旅行需要は個人、団体共にゴールデンウィークから夏に向けて増加する傾向にあるので、やや良くなる。
		通信会社(経営者)	お客様の様子	・多チャンネルサービスの要望が増加しつつある。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・株価の不安定要素はあるが、アベノミクス効果による消費が高まってきていることや、ボーナスに向けて、より消費傾向が高まる可能性があるためである。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークの日並びや円安の影響、スカイツリーの効果などを受け、来園者が増加している。
		美容室(経営者)	それ以外	・今まで温めていた設備投資の案件が、ここにきて融資の相談件数が急に増えてきた状況である。そのうち、美容院の後継者がやっと見つかったというケースが3件ほどあった。
		設計事務所(所長)	来客数の動き	・仕事の情報が今まで本当になかったが、ここにきて一気に複数舞い込んできた。線香花火のようだが、結局外注費がかさんでしまっている。
		住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・当地全般で別荘の見学客が増加している。
		住宅販売会社 (経営者)	販売量の動き	・顧客が消費税増税前に住宅を建てたいということから駆け込み需要と思われるので、いつまで続くかは不安である。
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・ゴールデンウィークは客が金を使わず期待外れであった。
		商店街(代表者)	販売量の動き	・小売店の路面店は苦しい状況が続いている。気候の異変もあるのか、来客数も少なく、年々悪くなってきている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・町の人出は相変わらず少ないが、従来の客が戻ってきたことで下げ止まりの感がある。
		一般小売店〔精肉〕 (経営者)	お客様の様子	・今月は良い天候でにぎやかになると思っていたが、ゴールデンウィークも静かに終了した。まだこちらではアベノミクスの影響はないようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・リフォームや工事関係の引き合いはそこそこ出てきているが、商品の動きは相変わらず鈍い。夏の商戦に向かって季節商材の動きに期待したいが、展示会等の動員も消費者の興味を引く商品もなく、状況は厳しい。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・先月まで見られた高額品の動きは収束してきている。一般消費者の消費行動は依然慎重である。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・主力の衣料品はやや低調の一方で、化粧品や季節商材、婦人靴などの身の回り品が好調である。ただし、店全体の売上を押し上げるには至らず、3か月前と比べてあまり変わらない。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・地方の中核都市ではアベノミクスの恩恵を受けているのは一部の富裕層に過ぎず、大多数の中間層からそれ以下の層での景気は決して良い方向にあるとはいえない。
		スーパー（店長）	単価の動き	・ここ何か月も単価の変化がない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・来客数は前年同月比で微減の状態が続いている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前月比では変わらないが前年比で見るとかなり悪くなっている。特に、たばこ、雑誌の売上が悪い。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・2月と比べると例年5月の客単価は5円ぐらい上がるのだが、今年は横ばいの720円である。株価やポーンズ指標は好感度であるが、消費者に届くにはまだ時間がかかるのか、買物の様子も控え目である。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客にそれぞれの景況を尋ねると、大多数の人がほとんど変わらないという返事である。当店の売上高も業界特有の時期による上下はあるものの、前年同期と変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・地場の製造業と取引のある客に話を聞くと、製造業の仕事量は増加しておらず、従業員の給料が増加するような状況にはないようである。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・毎年のことで仕方ないのだが、5月はゴールデンウィークが終わると観光地の来客数もばったりと減り、当店の車の販売量も著しく落ち込む。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・アベノミクスによる株価上昇が続いているなか、一部メーカーの3月期決算は軒並み過去最高となっているが、消費者への反映はまだまだ先である。全体的にはやや上向き傾向である。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・5月は前年比15%増しの予算を組んでいるが、達成できそうにない。3か月くらい前から景気は良くなってきているが、今月は変わらない。
		乗用車販売店（統括）	お客様の様子	・顧客の購買意欲は落ちていないようである。
		自動車備品販売店（経営者）	単価の動き	・特に変化がないのが現在の特徴である。
		住関連専門店（店長）	来客数の動き	・来客数が前年比98%と苦戦している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（従業員）	販売量の動き	・販売量は前年とほぼ同じである。
		一般レストラン（経営者）	単価の動き	・1か月当たりの平均客単価が少しずつ下がっている。来客数は少し多いようなのだが、客単価が悪くなっている。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・アベノミクスという言葉が先走っているようで、末端には全く届いているような気がしない。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・毎年定期的に来ていた企業の客が今月は来ていない。
		観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの入込が例年よりも悪く、売上が大幅に減少した。景気回復で残業や休日が減少し、旅行者が減ったのではないかと考えている。
		都市型ホテル（支配人）	お客様の様子	・ホテルのビジネス客は東日本大震災前の状況に大分戻ってきているが、観光客はまだ戻っていない。福島第一原子力発電所関連の風評被害の影響がまだあるようである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・売上は前年の95%ぐらいで非常に悪い。アベノミクスといろいろ言われているが、客に聞くと逆にいろいろな値上がりの問題でこれから大変になってくるという話の方が多い。大会社では影響があるのだと思うが、地方都市においてははまだそれほど影響はなく、ほとんど変わらない状態である。
		旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・為替変動が大きすぎ、仕入価格に大きな影響が出ている。
		旅行代理店(副支店長)	お客様の様子	・旅行者が増えているわけではなく、受注も前年と比べ横ばいである。悪くはないが、メディア等で言われているような景気の上昇とはいえない。ただし、ゴールデンウィークの国内旅行者は前年より増えている。
		タクシー(経営者)	お客様の様子	・昼も夜も動きが悪く、売上は前年同月比で13%の減少である。
		通信会社(経営者)	販売量の動き	・「悪い」の延長線上で「変わらない」。中央ではアベノミクスによる景気回復が騒がれているが、関東内の地方都市でさえその流れはみじんも感じられない。地方は相変わらず冷え込んでいる。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・当地域の主要産業としての果樹(りんご、梨、柿など)が、春先に甚大な霜の被害に遭い、被害総額が3~4億円と想定されており、更に収穫期にはもっと大きくなるだろうと言われている。このため、あらゆる面で新たな出費は控える傾向が見られる。
		通信会社(局長)	お客様の様子	・景気回復基調を感じている様子はあるものの、実際の販売増加にはつながっていない。一時的な、嗜好品やぜいたく品などへの消費増加はそこそこあるのかもしれないが、生活上のランニングコストは少しでも節減したいという考えが根強く、節約傾向に変化はない。
		遊園地(職員)	来客数の動き	・昨年末から景気回復への期待感が継続しており、来客数は堅調に推移している。
		ゴルフ練習場(経営者)	来客数の動き	・客は価格に敏感で無駄な購入はしないが、割引など価格が下がると来客数が増えている。
		ゴルフ場(業務担当)	単価の動き	・ゴルフ場なのでプレー代が主だが、プレー代以外の売上が前年を若干下回っている。
		競輪場(職員)	お客様の様子	・一番大きい記念競輪があったが、入場者数、売上共ほぼ前年と同じであった。
		その他レジャー施設[アミューズメント](職員)	単価の動き	・週末、月末、夕方と、それぞれのピークの来客数、売上はそれほど差がないが、それ以外の早朝や深夜、月半ばの来客数が戻ってこない。どちらかというときまだ変化がないという感じである。
		その他サービス[立体駐車場](従業員)	販売量の動き	・来客数、単価共に横ばいである。また、競争相手についても他社の状況をみると台数的にそれほど変わっていないので、すべてにおいて横ばい、変わらないと判断している。
		その他サービス[イベント企画](職員)	お客様の様子	・街中の人の流れを見ても、以前と変わらない。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・仕事の依頼は多く入ってきている。
		設計事務所(所長)	来客数の動き	・週末の来客数が減少している。今月は、イベントなどで呼び込みをしているがかなり苦戦している様子である。3か月前と状況は変わらない。
		住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・地方の当地域では土地を売りたいという人がまだかなりいる。多少売り急ぎという観念もあるのだろうが、結局値段を下げて売れないので、地価下落につながってしまうのではと感じている。現実には決定する売買額は予定よりもかなり低い。地方においては景気の良さは全く感じられない。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	それ以外	・最近、商店街の閉店時間が早くなってきている。昨年は20時まで開いていた店が19時で閉めている。特に、日曜日の夕方になると商店街に人がいない状況である。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・例年5月はゴールデンウィーク等で販売量は少なくなる。
		乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・整備及び車両販売量は、3月を基準に考えた場合、4、5月は売上、販売台数共に下方に推移している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・2～3月の需要期も終わり、エコカーの販売が続いている。収益幅の少ないコンパクトカーの販売中心なので、やや悪くなっている。
		高級レストラン (店長)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間中は来客数、売上共に前年を多少上回ったので期待していたが、連休明け以降は急激に落ち込み、結局売上は前年比で15%程度落ちている。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・まだ来客数の伸びがないので、経営の悪化が見込まれる。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・来客数も落ちているが、円安によるランニングコスト増も会社の運営にかなり影響している。
	悪くなっている	一般小売店〔衣料〕 (経営者)	来客数の動き	・連休以降、客が結構来店していたが、残念ながら経済的に上向くような状況にはなっていない。
		スーパー(経営者)	競争相手の様子	・ディスカウントストアの新店による価格競争の激化で悪くなっている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・毎年大型連休の間はタクシーを利用する客が少ないが、今年は連休後も全くと言っていいほど動きがなく、例年の5月に比べ3割ぐらい売上が少ない。アベノミクスで景気は上向きとはいっても、一部の企業だけで、地方では全く関係なく景気は悪い。
企業 動向 関連 (北関東)	良くなっている	食料品製造業 (営業統括)	受注量や販売量の動き	・富士山の世界文化遺産登録関連で来県者が増加し、その影響で各メーカー共に出荷量が前年を上回っている。
		その他製造業 〔環境機器〕 (経営者)	受注量や販売量の動き	・環境装置の昨年からの計画受注が進んでいるなかで、行政に続き、大手産業廃棄物事業者からの引き合いが続いているためである。
	やや良くなっている	一般機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・徐々にではあるが業種を問わず動きが出始めている。ただし、取引先ごとに大分ばらつきがある。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・マインド面の改善が先行しており、実態経済への波及は今のところまだ見えない。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・それとない期待感も混ぜ込みながら、景況感がやや高揚してきている雰囲気がある。財務体質や経営の改善に取り組みながら、前向きな経営革新的な活動にも、少しの明るさとして手掛けていこうとする動きがある。ただし、資金繰りの困難さはほとんど変わっていない。
	変わらない	食料品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・株価上昇などのアベノミクスの恩恵はまだ直接的に実感できていない。
		化学工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・石油関連製品の仕入価格がどんどん上がっていく。製造原価が上がっているが、製品に転嫁できず収益を圧迫し始めている。
		窯業・土石製品製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・特に大幅に変わる要素は見当たらない。
		金属製品製造業 (経営者)	取引先の様子	・主な取引先の注文が少なくなっており、これからのことが不明で、とても不安である。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	受注量や販売量の動き	・親企業からの注文量が増えない。むしろ減っている。
		電気機械器具製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・メインの取引先の新機種生産が始まったが、製造単価が厳しく、採算に乗せるのに時間がかかりそうである。今月、来月と工数低減の努力をしている。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・十数社取引先があるが、取引先、競争相手の様子を見ると、暇なところと忙しいところが半々くらいで、今のところ変わらないような状況である。
		輸送用機械器具製造業 (総務担当)	受注量や販売量の動き	・大手自動車メーカーからの受注については、3か月前と比べるとさほど変化はない。気掛かりなのは、3か月の見通しで、6、7月の分が当初の見込みよりも若干少ない発注になっているということで、先行きが分からなくなってきたと感じている。
その他製造業 〔宝石・貴金属〕 (経営者)		受注量や販売量の動き	・商談の段階では景気回復への期待感はあるものの、卸売りの段階ではまだ仕入意欲は低い。	
輸送業(営業担当)		取引先の様子	・現状、円安、株高が目立っているが、景気が回復しているようには感じられず、物量が増えてはいない。インターネット通販系のレジャー用品、料理家電の物量が多少伸びている程度で、横ばいの状況である。	
金融業(経営企画担当)		取引先の様子	・製造業は売上の増加が見られない。観光業は今後の富士山の世界遺産登録に期待している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		不動産業（管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・管理費用、修繕費用は下げ止まっているが、当社での利益を上乗せするような状況ではない。	
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・景気上昇の実感がなく、疑心暗鬼の状態である。	
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	それ以外	・今月初めにホームセンターが新規オープンし、地域の活性化を期待したが長くは続いていない。地域の新聞広告は低迷を続け、5か月連続で前年を下回っている。今月のチラシ出稿量は99.6%である。	
		社会保険労務士	取引先の様子	・特に残業が増えて忙しいわけでもなく、売上、利益共にあまり変化はない。	
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・経営者マインドの変化は見られるが、取引実態の変化は見られない。	
	やや悪くなっている		食料品製造業（製造担当）	それ以外	・店で売る商品の原料価格は7%上がっているが、商品の原価はそのままなので、このままではとても厳しい。
			電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は現在決まった仕事がなく、なんとかかき集めて埋めている状況である。周りの金属加工業関係については、元に戻って仕事が出てきている。
			建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・例年と比較しても今年は特に受注、現場共に少なく感じる。
			不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注単価が下がったままの状態回復していない。
	悪くなっている		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の受注量は激減する一方である。
			電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今年に入ってから受注量が減り、どんどん悪くなっている。パートを早帰りさせたり、今まで使っていた内職者を一切使わず、内職のしていた仕事を社内でやるような状況である。回復の見込みは分らない。
			建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・決算における受注額は前年比10%減で、特に、民間の大きな落ち込みが影響している。営業は例年通りであったが、他社との競争で受注価格を値下げした結果である。経費等の節減に努めたことで、何とか黒字決算を維持できている。
	雇用関連 (北関東)	良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・パートの採用が急増し、時給も上昇傾向にある。
やや良くなっている		人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・自動車関連の求人の動きがかなり出てきている。自動車関連の部品、住宅は少ないものの、食品関係や介護、医療、衣料品の動きが若干目立っている。衣料品は販売員、製造加工の一部と全般にわたる動きであり、食品については総菜、製造加工など生産要員としての募集傾向が多い。	
		人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・製造派遣の採用数が増加している。契約終了の予定が延期となり、残業も増えている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・アベノミクス効果への期待感からか、企業の募集が活発になってきている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人、有効求人共に2か月連続で増加した。住宅関連が増えてきている感じがある。ただし、建設関係は不景気の時に人員削減を進めたため、今になって技術者が不足している。また、求人数が増えたといっても、正社員というより非正規雇用の求人増である。	
		変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・50人ぐらいの仕事が入る予定があったが、それがなくなり、このところの景気はやや悪い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求職者数の動き	・求人広告数が増加傾向で、前年比2割増となっている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で大きな変化が見られない。	
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・4月の求人数は前月との比較で大幅に減少した。景気の影響を受けての悪化ではないと思われるが、その影響から4か月上昇傾向で推移していた求人倍率が低下してしまった。そのような中で、正社員求人の構成比は、2か月続けて低下していたが上昇した。しかし、当月だけの判断は非常に難しいことから、変わらないという回答である。	
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・自動車関連メーカー、医療メーカー、介護医療関係、建築土木の求人については明るい状況が見え始めているが、他の業種と中小零細企業においては上昇機運がない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		学校〔専門学校〕（副校長）	求人数の動き	・採用企業数は増加しているように感じるが、例年同様、採用に至るまでの状況は非常に厳しい。企業側は採用後の研修にかかる経費まではまだ難しいようで、ある程度できる人材を求めている状況は変わっていない。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（経営者）	周辺企業の様子	・周辺の中小、零細企業の5月の景気は悪い。求人数も横ばいで、求人広告の掲載企業も少ない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・管内主要企業及びその関連企業で早期退職を募り、12～3月にかけて実施し、県北地区で530名程度の見込みとなっている。4～6月にかけて、更に追加で120名程度の実施予定で動いている。そのため、求職者も増加傾向である。一方、4月の新規求人数は前年同月比で8.6%減となっている。
	悪くなっている	—	—	—

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (南関東)	良くなっている	百貨店（総務担当）	単価の動き	・販売量、売上高の動きが良くなっている。当グループのなかでも、前年同月比で約3～5%の動きになっている。ただし、部門にばらつきがあり、宝飾品等のブランド品を中心に高い伸びを示している。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前月よりも非常に来客数が多くなっている。様々な原因があると思うが、やはりアベノミクスの効果が非常に現れているのではないかと。株価も一時は下がっているが、購買意欲は堅調に推移している。
		その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	販売量の動き	・アベノミクスの効果である。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・団体旅行に関する問い合わせの電話の本数や、見積依頼が増えている。団体旅行の間際の申込みも増えている。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・ゴールデンウィークはすべて晴天であり、当社は観光地のため、今月はとても良い数字となっている。
		設計事務所（経営者）	それ以外	・公共設計を主としているが、それと併せて民間の方のPR、ホームページの戦略等、様々なことをしている。公共からの指名が大変多く、今までは不調だった物件も多く取れるようになった。しかし、大量に出るため、どれを選んでよいのか、先に取ってしまうと損をしてしまわないか、見定めが大変難しい。今はやり切れないほどの指名が入っている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・受注数が例年より増えている。また、来場者数も2～3割増えている。
	やや良くなっている	商店街（代表者）	それ以外	・今年の始めごろに比べると、確かに良くなっている。アベノミクスの影響と、私鉄の相互直通運転開始による新たな人の流入の影響である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・不安がかなりあるが、わずかに良くなる気配を感じている。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	販売量の動き	・薄型テレビはまだ動かないが、白物家電はよく動いている。太陽光発電も仕組み、効果を丁寧に説明すると、納得の上購入してもらえる。細かい仕事は相変わらず多いが当社の持ち味のため、できる限りこたえている。
		一般小売店〔家具〕（経営者）	来客数の動き	・最近、来客数が少し多くなってきている。ただし、成約に結びつくまでには少し厳しい面もあるが、今後、やや値上がり等もあるため、客が増えている。
		一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	お客様の様子	・来客数はある程度増えている。小売はそこそこに健闘しており、その他の外商でもこのところ案件数が少し多くなってきたようである。消費税が来年4月に上がるということで、その前に早めにエアコンやパソコンの買換えをしておこうということで需要が出てくる。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	来客数の動き	・客単価は下がっているが、来客数、売上共に伸びている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般小売店 〔茶〕（営業担当）	販売量の動き	・会社や事業所のお茶等の売上は、ここ数か月横ばい状態だったが、個人向け新茶等の予約の売上は、前年より少し良い。福島第一原子力発電所の事故などの風評被害も落ち着き、個人客も新茶購入に意欲が戻ってきている。
		百貨店（広報担当）	お客様の様子	・4月は天候不順などがあり、前年並みの売上であったが、5月に入り、全体的に売上が上向いている。内容をみると、宝飾、時計では前年比120%以上の売上であり、また、絵画では3千万円以上の作品が売れるなど、特に高額品の動きが良い。定番となった北海道展でも前年比で110%近い売上を記録するなど、アベノミクス効果から消費に勢いがみられる。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・高額品の好調により売上が前年比で増加に推移しているのに対し、減少の続いていた来客数が今月に入り増加に転じた。
		百貨店（店長）	お客様の様子	・高額品は良いが、一般客向けの商品は目立つほどには好調とは言えない。
		百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・株価上昇に伴う資産効果で、宝飾品など高額品が好調な一方、衣料品、衣料雑貨等は大きく伸びてはいない。また、宝飾品と共に好調だった特選ブランドの伸びが落ちてきた。円安に伴う値上げの影響も考えられる。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・衣料品、雑貨等全般で売上が好調に推移している。特に宝飾等の高額品が好調である。
		百貨店（販売管理担当）	単価の動き	・時計や宝飾品など的高額品が堅調に推移しているだけでなく、ファッション関連商材や母の日などのギフト商材も、今までよりワンランク上の商品を選択する客が増加している。
		百貨店（計画管理担当）	お客様の様子	・一部の客ではあるが、高額品の時計やめがね、ゴルフクラブが売れている。結果的にこれらが売上のけん引となり、前年をクリアしている。
		百貨店（副店長）	来客数の動き	・消費者のニーズをつかんでいるサービスや品ぞろえを実施することによって、以前より明確に客が反応するようになった。セールよりも正価での限定販売や特集販売などの企業努力に反応する。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・円安、株高の基調が財布のひもを若干緩めている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・高単価のプライベートブランド商品の売上の伸びが堅調であり、セール品の売上も増加、客の買物動向が明らかに変化している。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・近隣のスーパーが閉店したため、一時的に良くなっている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・夜の来客数の増加や、単価も103%と1品多く買物する傾向にある。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・今までは様子見が多かったが、今月中旬以降は買いたいという意欲を強く感じる。前年比で5月は8%増である。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・力強さはなく、まだ客は慎重である。言葉に踊らされている感じが否めないが、少しだけ消費意欲が高くなっているような雰囲気である。
		家電量販店（営業統括）	単価の動き	・円安によって多くの外国人観光客が買物を楽しんでいる。また、高単価の商品を短時間で購入するため販売効率は良いが、免税手続きの煩雑さが今後、販売量増加の足かせとなる可能性がある。
		家電量販店（統括）	単価の動き	・来客数は前年割れだが、商品単価が上がってきている。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新車の販売で来客数が3か月前よりかなり増えてきており、成約率も高くなってきている。
		乗用車販売店（渉外担当）	お客様の様子	・アベノミクスによる株高、そして新型車効果やエコカー減税、免税継続で新車契約が粛々と続いている。受注残もあり、前年比マイナス5～10%でしばらく続く。
		乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・何が要因か定かではないが、平日にも新車の商談が増えている。
		乗用車販売店（店長）	販売量の動き	・4月の月末はバックオーダーが多く、純受注も前年並みに獲得できたが、株価の乱高下があり、第4週以降は非常に厳しい実績となった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (販売担当)	お客様の様子	・今月の売上は前年比約80%で、2割ほど落ち込んでいる。これは全国的にそうだが、トラック事業としては今一段落で、やはり環境関係の補助金がなくなったことが原因と思われる。ただし、アベノミクスの関係で、ユーザー自体はこれから景気が良くなるので前向きな投資をしていこうと考えている。
		高級レストラン (店長)	単価の動き	・1組当たりの利用単価に上昇の兆しが見られる。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前と比べると、少しは良くなってきている。3か月前は寒い時期の2月なので、年間で一番悪い時期であり、それから比べると5月は伸びてきている。
		一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・前年比でみて、3か月前の2月は1～26日までの売上が98.01%、来客数97.7%であったが、今月は1～24日までで売上102.2%、来客数101.9%という結果になっている。
		一般レストラン (経営者)	競争相手の様子	・同業の新旧店舗の交代が激しいなか、飲食店チェーンが裏通りにも進出してきた。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・やはり3か月前と比べて、飲食している客が増えている。テレビ、マスコミ等ではアベノミクスで景気が良くなっているということで、雰囲気が変わってきたようである。
		都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・例年5月は前半の大型連休は忙しく、以降は一気に落ち着いてしまう傾向にあるが、今年は落ち込みが緩やかである。3か月前から比べても、販売量が確保されていることなどから、景気がやや上向いている。
		旅行代理店(経営者)	単価の動き	・今まで客が宿泊するのは、中の下ぐらいが多かったが、今回に限っては、中を超えて上の中ぐらいの所をほとんどの人が希望している。まだ上の上までにはいっていないが、景気回復の兆しがあるというマスコミ等の話があるのもその内の1つと思うが、皆が大分良くなってきているというのが、底辺の私達にも徐々に伝わってきている。
		旅行代理店(営業担当)	販売量の動き	・他社に対抗した新商品の販売が伸びている。
		タクシー運転手	お客様の様子	・月初めはゴールデンウィークにもかかわらず、利用があり、昼間は以前と変わらず動きが良い。夜の客足は若干悪いものの、深夜、ロングの客が少しずつ増えている。
		タクシー(団体役員)	お客様の様子	・今月は、ゴールデンウィーク後の需要が多少落ちたが、週末になると3か月前と比較しても、深夜の時間帯の繁華街にも多少の需要はある。
		通信会社(経営者)	販売量の動き	・スマートテレビ向けのセットトップボックスの販売が好調である。電話サービスも引きずられて好調である。
		通信会社(社員)	お客様の様子	・大幅な改善はないが、契約申込件数が前月に比べ増加している。また、次月に続く見込み件数も改善している。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・月額料金が上がる有料テレビサービスの加入件数が上向き傾向にある。
		ゴルフ場(支配人)	来客数の動き	・来場数、収益数共に東日本大震災前の数字に戻りつつある。
		美容室(経営者)	お客様の様子	・客との会話のなかで、景気の良い話をよく聞くようになった。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・顧客の会社の売上が上がってきているようである。
		住宅販売会社(経営者)	それ以外	・当社は住宅を主に扱う不動産開発業と総合建設業だが、直接景気が良くなっているとは感じない。しかし、世間のムードは明るさを持ってきているようである。ムードだけではなく、本当にこれから個人消費が増えて、景気が良くなることを期待している。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・マンションの販売センターにおける客の購入意欲が上向いている。
		住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・例年、4月は受注が落ち込むが、今年の戸建住宅の受注量は例年の2倍近くとなっている。5月に入ってから商談数は増加基調が続いており、営業、設計共に活気が感じられる。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・当商店街では大手スーパーが目の前にあり、このところ大型店同士の競争も激しく、価格競争になっている。あらゆる業種で客が価格に敏感になってきている。当地域は新興住宅地で若い人がいるため、非常に価格にシビアであり、アベノミックスの影響はまだまだ先ではないか。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・空き店舗の借り手がなく、2、3年シャッターが下ったままである。個人経営の物販店がこの何年かどんどん減っている。大型店の問題もあるが、後継者がいないのではなく、継がないことが原因だと思う。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・今年は天候不順で夏のように暑い日が続いているが、このような暑い日には年配者が出てこないのが、かなり影響が出てくる。季節に合ったような天候にならないとなかなか難しい。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・売出しの企画を毎月1回ずつ行っているが、やはり来店してはもらえるものの買上比率が減っていることと、点数が少なくなっているという状況がある。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・5月に入ってゴールデンウィークは天候も良く、売上が順調に伸びたが、後半にきて夏日が続いたり、梅雨入りで天候不順が続いたりなど売上があまり良くなく、トータルするとあまり変化がない。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	来客数の動き	・テレビ等では、アベノミックス効果などと非常に良い数字を徐々に並べたり、また日経平均株価が急に下がったりと、まだ本当の安定ではない。ただ周りがアベノミックスということで騒いでいるだけの様な気がする。私どもも末端に効果がくる前にアベノミックスがなくならないことを望んでいる。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	お客様の様子	・客とのコミュニケーションから、変わらない。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・気温が上がってきてUV関連の雑貨など、客は必要な物は買う傾向にあるが、気温に左右されやすい傾向がやはり続いているため、あまり変わらない。
		百貨店（総務担当）	販売量の動き	・個人消費は伸びている実感はない。
		百貨店（総務担当）	来客数の動き	・来客数は依然低調である。経済は上向きではあるが、当店においては目立った効果は表れていない。買上率は少し上向いてはいるが、来店客を増やす努力が必要である。
		百貨店（営業担当）	単価の動き	・店舗の一部閉鎖により営業面積は減少したが、坪単価の売上高は上昇している。総売上は減少したものの、効率面でみると良い傾向に向かっている。また、カテゴリーごとでは、婦人アパレル及び宝飾品の客単価が上昇している一方で、食料品については前年割れの状況が続いている。カテゴリーにより好不調の波があり、全体としては変わらない。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数はまだまだ目に見えて上がっておらず、単価も世間で言うほど上がっていない。カジュアルな婦人服はまだデフレ状態が続いている。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・一部高額品の動きはあるものの、必要のないものは購入しない堅実な動きは続いている。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・来客数も多少減っているが、それ以上に買上点数が減ってしまっているため売上が悪くなっている。競合店の出店による分も入っているが、全般的に良くない。4～5月にかけてあまり良くない状況が続いている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数、買上点数は横ばいだが、単価の上昇がみえてこない。安物買いに集中しているため、曜日別の売上の開きが以前より増してきている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・世の中はアベノミックスで景気が良いと言っているが、小売業では客が様々な店を買い回って、安い所に流れている。デフレから脱却できない状況のため、逆にスーパー側は競合店より1円でも10円でも値段を安くしていかないと、なかなか戦えないと感じている。
		スーパー（仕入担当）	来客数の動き	・円安、株価上昇とアベノミックス効果が出ているように思われるが、実際の給与にはまだ反映されていないため、身の回り品への消費は増えていない。
		スーパー（仕入担当）	単価の動き	・競合各社の価格政策に巻き込まれる形で、チラシ売価が前年より下がっている。買上点数もさほど大きく伸びていないため、売上全体を下げてしまっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数の減少は変わっていない。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・同じチェーンの新店ができてから、来客数が約1割減っており、それがずっと続いている。それ以上減ることもなく、また、回復する見込みもない。住宅ローンの金利が上がる等の報道があったり、先週から今週にかけて株価が上下している。そのようなことから、しばらくの間は楽観ができない。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が3か月前と比較しても同じダウントレンドである。特にたばこ購入者の減少が続いている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・現場から感じる限りでは、依然として節約傾向が続いている。
		コンビニ（商品開発担当）	販売量の動き	・一瞬の販売力はあるものの、長続きしない。
		コンビニ（商品開発担当）	来客数の動き	・来客数は回復傾向になく、ほぼ横ばいの状況が続いている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・買える人は今まで通りまとめ買いをしているが、買えない人は安い物でも慎重に選んでいるため、全体の売上でみると、2月よりは良いが前年比ではあまり変わっていない。アベノミクスの効果が実感としてまだ感じていない。
		衣料品専門店（営業担当）	販売量の動き	・5月は母の日というイベントもあって売上は前年比99%と、あと一歩で前年クリアであったが、惜しくも到達しなかった。アベノミクスどうこうで景気が上がっていると言われていたが、中小企業、末端にはまだまだ影響されていないと感じている。
		家電量販店（店員）	それ以外	・現状、販売店において変わらないというのが正解である。市場の景気も表向きの数字であり、景気回復と言われてはいるが実際には、消費者への負担が増えるばかりである。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車の整備と販売をしている。整備は順調に入っているが、販売については3月は良かったが、4、5月はあまり芳しくない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・前年同月と同等レベルであり、まだ回復傾向になっていない。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	販売量の動き	・来客数が増えても、買上点数が増えない。全く景気の良さを感じられない。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	来客数の動き	・新店が開業し、その売上が横ばいで安定している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	販売量の動き	・昨年にはなかった商業施設が近隣でもオープンしており、そこに取られている感じがする。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・3か月前とはあまり変わっていないが、それ以前に比べると景気の良さを感じる。ただし、2～3月の急激な景気の上昇感を感じられない。法人よりも個人の動きが活発である。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・気持ち的には良くなると思っているが、良いとも悪いとも言えず、微妙である。場所によって悪い店もあれば、平均して少し良くなった店もある。全部で3店舗あるが、悪くないけど、さほど良くもない感じである。周りでは様々な品物が安く売っているが、誰も買わない。ただし、気分は皆、割と良くなるだろうと思っている。気分だけである。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宴会では今までに利用のなかった会社からの問い合わせや申込があったり、しばらく利用のなかった会社の利用が復活したりした。レストラン関係、特にバーは支店長の交際費の額が増えたものと我々は判断しているが、利用が増えた。また、地場の中小企業のオーナー社長の利用が増えた。しかし、レストランで高級ワインや貴重な日本酒を伴った接待利用はまだない。宿泊は個人利用含めて問い合わせがあるが、依然として料金には厳しいものがあり、インターネットを通じて500～1,000円の間で料金を調整して集客に努めている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年同期比で売上見込みが変わらない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・販売量の動きについて、世間ではアベノミクスの影響で良いというような感じを受けるが、我々の業界ではまだそれが反映されていない。特に夏までの団体の動きがさほど良くないので、この点を重視している。ただし、今月はスカイツリーが開業1周年を迎えたので、関連商品や団体の問い合わせが増えていたことだけが明るい材料である。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・加入状況については変化がみられない。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・ここ半年の受注案件量に比べ、若干少なくなっているようである。
		通信会社（局長）	お客様の様子	・繁忙期が終わり、転居もひと段落ついたところでじっくり契約を伸ばすことに注力しているが、報道でのアベノミクス効果はまだ客には実感がないようであり、依然として単価は下がる傾向にあり、量販店への足も遠のき、本当に必要とするもの以外は購買意欲が盛んになっているとは言い難い。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・消費者の購買意欲はまだあるようには感じない。依然として低価格の商品への購買意識が高い。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・新規加入、解約の動向からは特に変化は感じられない。上位コースより料金が安いコースへ流れる傾向は変わらない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・全体的に新規契約数は伸びがみられず、実績も厳しい状況が続いている。
		通信会社（管理担当）	販売量の動き	・春先の横ばい傾向が続く。例年、夏は販売量が落ちることから、このトレンドは変わらない。
		通信会社（局長）	販売量の動き	・販売量の動きが改善している実感はあるものの、景気が上向いている実感はない。自助努力や天候による業績改善の兆しはみられるが、景気判断に影響するほどではない。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・前年の実績と比較し、下回るわけでもなく、上回りもしない。前年の実績は良かったとは言えず、それと比較すること自体、景気は上向きとは言えない。
		パチンコ店（経営者）	単価の動き	・1円パチンコという低玉貸し、4分の1の金額で遊べる5円スロットが、やはり人気があり、その客が増えている。また、近隣で1番大きな店が低玉貸しのコーナーを増大して、客が遊びやすくなっている。そのようなことから単価の動きを大変強く感じている。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	お客様の様子	・先月までのアベノミクス景気での期待、盛り上がりに対して、今月は株価の乱高下もあり、仕入価格、原材料費といった様々なものの値上げの動きが出ており、事業によって良い所と悪い所が二極化してきているような状況である。特に国内需要に根ざしているような所は、なかなか採算が取れず、販売拡大もできないといったような状況が出てきて、客の様子もそれぞれ違ってきている。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	来客数の動き	・3月から5月までの顧客数は前年比でさほど変わらない。しかし、顧客1人当たりの単価は3月とは変わらないが、前年比では少し上昇している。
		設計事務所（所長）	お客様の様子	・今までほとんど民間の話はなかったが、ここにきて新規の民間の相談と共に計画の依頼がきている。やっと動きを感じているが、まだ完全に良くなったとは思わない。
		設計事務所（所長）	それ以外	・予想ではこんなものかとは思っていたが、なぜこんなに停滞しているのか不思議でならない。
		設計事務所（職員）	それ以外	・特に変化は感じられない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・3か月前より若干客の動きが鈍ってきている。5月は毎年契約数が伸びる月だが、思った以上に契約に至っていない。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・契約数も売上も変わらない。ただし、住宅展示場への出店企業が増えており、住宅展示場への来場者数は前年比で増加している。住宅会社、ユーザー共に、消費税増税前の先取りを意識している結果である。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	販売量の動き	・建材関係は、消費税増税前の駆け込み需要による量の増加が若干あるが、3か月前と大きく変わる状況ではない。全体的にあまり動きがない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・一時期のアベノミクスブームのためか、全体的に消費量が増えてきたかのようにみえていたが、ここに来て、また以前と同じような停滞感を感じつつある。現状で景気が良いと思っているのは、来年度からの消費税増税を回避しようとしているマンション販売や新規住宅建築や、円安による価格の上昇前に購入しようとする外車や輸入高級品などだけではないか。消費者も、以前のバブル期とは違い、無闇な散財を避け、来たる好景気の後の不景気に備えているかのごとく、日常生活品への消費は伸びてこないように思える。
		一般小売店〔文房具〕（経営者）	販売量の動き	・前半が非常に良かったが、後半があまり良くはなく、そのためにいくらか前年度より悪い成績になってしまった。どちらかという、前半良かっただけに非常に残念な結果である。
		一般小売店〔祭用品〕（経営者）	販売量の動き	・先月に引き続き、受注がない。
		一般小売店〔靴・履物〕（店長）	単価の動き	・給料は上がらないで、電気料金などが上がっているため、当店が扱うようなサンダル、靴といった物は安くてもよいということで、単価の安い物を選ぶ傾向になっている。やはり景気は悪い。給料は上がらず、公共料金などの物価が上がるとということで、非常に厳しい。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数はほぼ変わらない動きできているが、客単価が下がってきており、1人当たりの買上額、数量も減ってきている。そのため、売上が大きく減っている。また、ゴールデンウィークごろから気温が全般的に低く、衣料品の動きが非常に鈍い。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・5月については来客数が前年比94～95%で、ここ数か月続いている状態だが、特に頻度性の高い商品、衣類で言えば肌着、靴下等、家庭雑貨、日用品関係、また食品では乾物、調味料やそれに類する頻度性の高い物が非常に良くない。また、ゴールデンウィークの天候与件によっても、売上がなかなか厳しい。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・若干ではあるが来客数が落ちている。いわゆる好感を噂されている好景気というのは、まだ末端まで浸透していない。将来においてもどうなるか少し不安である。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・デフレ感が止まらない。前年比単価はマイナス15円で、約5%ダウンである。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・来店客の多くは景気が良くなるのはまだ先のことと冷めた感じであり、以前にも増して買物をためらっているように感じられる。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月は来客数が大変少ない。売上も山がなく、低い数字が多くて苦戦している。この数か月では一番悪い。市場話題より現実的数字は良くない。
		乗用車販売店（販売担当）	お客様の様子	・来客数も減少し、客の購買意欲が低下しているようである。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・購入数が減っている。
		住関連専門店（統括）	販売量の動き	・以前はある程度来客数があったが、現在は減っており、それに伴って販売額も減少している。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	それ以外	・タクシーの運転手に景況感について問いかけても、実感として良くなっているというコメントは1件もなく、自分たちが感じ始めて初めて景気回復なのではないか、という話であった。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク商戦の国内市場は前年比90%を割り込んだ。新商品よりも過去作品のリピーター販売が活発で、盛り上がり欠けている。海外も良い話は聞かない。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けしばらくは良かったが、第3週目あたりからフリーの客が極端に減っている。宴会は横ばいだがフリーの客が急激に減少している。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・アベノミクスの効果はほとんど表れていない。逆に単価は下がる一方で仕入れの値段が上昇しており、収益が非常に圧迫されている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィークが明けたころから来客数が減少している。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		タクシー運転手	お客様の様子	・今月は予想に反して非常に落ち込んでいる。よく客にはアベノミクスで上向いているのではないかと聞かれるが、我々タクシー業界においては逆に、やや悪くなっている。	
		タクシー運転手	お客様の様子	・4月の營收は前年同月比で変動なかったが、5月に入ってから極端な波があり、曜日にもよるが前日の2倍という時もある、半分以下の時もあり、できない日は稼働時間を延ばしてノルマを達成し、末端である当業界の景気回復はまだまだ先のようなのである。	
		通信会社（総務担当）	単価の動き	・円安の影響で商品の価格が上昇しているものが、よくみられる。	
		遊園地（職員）	お客様の様子	・株価上昇など景気回復的なニュースはあるが、客の様子に変化はみられない。	
		その他レジャー施設【アミューズメント】（店長）	お客様の様子	・目的を持って来店する客が多く、単価は高いものの、平日、週末を問わず、全体的に来客数が少ない状況が続いている。	
		美容室（経営者）	来客数の動き	・来店サイクルがだんだん鈍っているようである。	
		設計事務所（所長）	競争相手の様子	・依然として景気は良いようなことを国では言っているが、我々末端の設計業においては、年々事務所自体が増えてきているにもかかわらず仕事量は減っている。競争は依然として激しく、なおかつ単価は逆に下げる方向で動いているため、非常に厳しい。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・今月の販売量は目標数字の約60%となり、前後の月へのずれ込みを考慮しても景気はやや悪く、3か月前と比べても景気はやや悪くなっている。決算期への駆け込み需要があり、その反動が出てしまったようである。	
		悪くなっている	一般小売店【家電】（経理担当）	販売量の動き	・エアコン、扇風機などの季節商材が、下見の段階で実売にはまだなっていない。家電商品は故障が少なくなり、修理依頼がなく、買換え需要が減っている。
	一般小売店【食料雑貨】（経営者）		来客数の動き	・近隣の競合店がオープンする。	
	その他小売【生鮮魚介卸売】（営業）		販売量の動き	・アベノミクス効果で円安が進み、必然的に避けられないガソリン価格や電気料金等の値上げに対して、一番削りやすい食料品の需要が落ちているように思える。	
	企業動向関連 (南関東)	良く なっている	金融業（支店長）	取引先の様子	・円安、株高で企業業績も回復し、個人の消費、投資意欲も徐々に始めている。
			食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・会社関係の注文が増えてきて、徐々に前年比100%達成である。
		やや良く なっている	食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・量的にはともかく、高額な物が動くようである。
出版・印刷・同関連産業（所長）			受注量や販売量の動き	・今月に入り、若干ではあるが仕事の問い合わせ件数が増えてきている。受注に結び付かなくても引き合いがくることは、良くなりつつあると考えたい。	
金属製品製造業（経営者）			受注量や販売量の動き	・5月のゴールデンウィーク明けから受注件数が増え始め、見通しでは受注量も増えている。	
輸送用機械器具製造業（経営者）			受注量や販売量の動き	・トラックの場合、特別なことがない限りは毎年今ごろから上向きになる。今年は急激に円安が進んだこともあり、10月ごろまではやや良くなる。日本のメディアは、アベノミクスはまだ始まったばかりで、株が乱高下したらもう終わりだとか、もっと大事に育てることができないのか。こういう時にもう少し盛り上げるようにすればいいのにと思う。	
建設業（経営者）			取引先の様子	・実質はまだ良くなっているとは思わないが、計画する案件がはじめて、少しは動き出している。	
建設業（経営者）			受注量や販売量の動き	・アベノミクス効果なのか、消費税増税前の駆け込み需要なのか、消費者の消費意欲の高まりが強い。	
建設業（営業担当）			受注量や販売量の動き	・依然として消費税の税率が上がることを予測した顧客の駆け込み発注が続いている。	
建設業（経理担当）			受注量や販売量の動き	・ここに来て、受注までこぎ着けた案件がいくつか出てきた。材料費や人件費等が上昇しているため、採算性は別としても、工事案件は一時より増加している。	
通信業（広報担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べると、わずかながら良くなっているが、前月と比べると悪化している。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（統括）	取引先の様子	・若干、売上が上向いているようである。ただし、設備投資等に跳ね返ってきていないため、まだ本格的な景気の浮揚とは思えない。
		金融業（役員）	取引先の様子	・まだ具体的な行動はないが、各種補助金や設備投資の相談等、前向きな動きがみられる。
		不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・賃貸は相変わらず低迷を続けている。売買では、駅から徒歩7分、120.65平米、接道3メートルの敷地延長物件で希望価額より若干の指値はあるが、賃貸物件を建築して入居者を募集して販売。また、駅から徒歩10分、227.06平米の物件は指値は当然あったが、応じなかったところ満額で建売業者が買付けを入れてきた。3棟建築するようだが、この状況をみると土地価格の上昇が感じられる。
		不動産業（従業員）	受注量や販売量の動き	・個人の土地、建物の引き合いが増加しており、成約率も前年同月比で約3割上昇している。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・新築マンションの工区の販売にあたり、先に販売した工区が販売不振であったため、その反省を踏まえ、価格をやや抑えて販売を開始したが、予想に反して最高価格の最上階の角部屋に人気集中している。一方で低価格帯のファミリータイプの部屋は売行きが悪く、経済波及効果が中間層以下には届いていないようである。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・社内会議での発表の際に、各部署から新規の良い話が舞い込んできている。
		税理士	取引先の様子	・株価の乱高下はあったものの、確実に株価が上昇することは良い材料である。円安も輸出産業には追い風となっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・飲食店等の予約が好調である。前年に比べ売上の伸びが顕著な店がある。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	それ以外	・夜の街中に人が出てきている。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・売上高としてはあまり変わっていないが、長年発注のなかった取引先から受注を受けるなど、気分的には上昇の傾向にある。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	競争相手の様子	・一時、落ち着いていた公共事業の現場が増えてきている。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・マンション市場での通信設備に関する配備関連が、良くなってきている。
		変わらない		繊維工業（従業員）
出版・印刷・同関連産業（経営者）	受注量や販売量の動き			・受注のなくなった事業と新規に受注開始する業務があるため、総じて増減はない。
出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子			・今月は官公庁の年度末の仕事も一段落して新規の発注も少なく、また、一般の会社と学校関連からの仕事も一休み状態でしばらくの間見守るようである。
出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子			・輸出関連の大企業は、為替差益で儲かっているが、我々には全く関係がない。
出版・印刷・同関連産業（経営者）	取引先の様子			・まだ政権が変わって月日がたっていないため、様子見の企業が多い。
出版・印刷・同関連産業（営業担当）	受注量や販売量の動き			・印鑑、名刺印刷の仕事をしている。問屋への支払いが通常15万円くらいあるが、今月は10万円にいかないくらいの金額だったので2月と同じくらいである。当店の場合、注文があってから仕入れるので、問屋への支払いは大体販売額と同じくらいの動きになる。会社の設立も通常6、7件あるのだが、4件くらいしかなかったもので、やや下り気味と感じている。
プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・受注量は微増で推移しているが、円安の影響で原料価格も高騰しているため、利益率に変化はない。
一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き			・例年5月は良くないのだが、今年はそれにも増して悪いような気がする。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気は上向きに推移しているが、現実の問題として、全般的にまだまだ数字にまとまるような実績には伸びていないため、これからどうなるか正念場である。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・報道で伝えられているようなことは、実際には実感が無い。他人事のように感じられる。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	取引先の様子	・前月も同じだが、最近の状況としては、不景気だという言葉は聞かれなくなったという意味で順調にしているのではないのかと、仕事の回り具合からも感じている。
		建設業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・商品がなかなか売れない。売れても価格が安い。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク終了後、取扱量はさほど増えず、今前半の営業は低調に推移した。後半も前半の落ち込みを補うほどの力強さはなく、全体としては沈滞した状況である。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・世間のお金の流れからみると若干景気が良いように感じる。なかなか実態経済が伴っていないような気がする。それほど景気が良いという判断にはならない。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・得意先荷主の新年度の計画で、今期は出荷が徐々に増加する見込みである。増産体制を取って生産をしているようだが、現在は出荷が低調なので今後に期待をしている。
		金融業（支店長）	取引先の様子	・取引先の様子だが、不動産業に関しては消費税が上がるという前提のもとで、商品が売れている。製造業に関しては、今年度に入ってアベノミクスの影響からか、少し雰囲気は良くなっている。ただし、3か月前と比べると受注は、まだ増えていない。また、小売業も今のところそれほど売上が上がっているということはない。
		広告代理店（経営者）	取引先の様子	・例年この時期は新年度になり、客先も仕入先も新たな動きが始まる時期のため、一見活発な感じを受けるが、それは例年のことであり、今期が例年より特に盛り上がっているわけではない。景気上向きと報道されるが、こちらは全く感知できない。
		広告代理店（従業員）	取引先の様子	・世間ではアベノミクス効果といわれ、株価等が良さそうだが、取引先の自動車販売会社で激しく車が売れ出したといった話はない。
		税理士	それ以外	・アベノミクスとは言われているけれども、人口的な対比では圧倒的に多い中小企業に従事している人やその家族の方にはまだきていない。株価上昇などでやや踊っている部分があるだろうが、実態がそうなのかはまだ分からない。一般の店にもあまり客が戻っていない気がする。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・商店街では、夏季賞与を当て込んだサマーセールスの企画に入っている。このところ明るい兆しがみえ始めたが、業績が上向いている企業は限られた業種であり、今回の夏季賞与にはまだ変化は出ないだろうというのが、会合に集まった多くの店主の話である。主婦の財布のひもはまだ固いという前提で、イベント企画を進めている。
		社会保険労務士	取引先の様子	・円安の関係で、かなり利益が良くない状況になっている会社や資金繰りの厳しい会社が、まだまだ見受けられる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・中小製造業には、円安、大手の利益増加の波及は残念ながらきていない。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・アベノミクス効果が反映されず、受注量は思ったほど伸びていない。
	やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	それ以外	・5月より印刷用紙の仕入価格が15～20%値上がりするが、販売価格に転嫁できないことが多く、利益の圧迫は避けられない。
		金属製品製造業（経営者）	取引先の様子	・発注側が2社から購買することを理由に、値下げ要請があり、非常に困っている。
	悪くなっている	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・原子力発電所が停止しているため、そちら向けの商品が全く売れなくなった。福島第一原子力発電所の事故以前には引き合いや受注が多く見込めたが、今はさっぱりである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		輸送業（経営者）	取引先の様子	・得意先からの注文がこのところ少なくなり、遊ぶ車が増えている状況で、大変困っている。
雇用 関連 (南関東)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・5月に入り求人数は少し落ち込んだが、それでも退職者の補充ではなく、増員のための求人も入ってきており、前年同時期と比べれば求人数は多い。
		人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・求人数に関しては、今まで派遣採用抑制を行っていた企業が、再び活用し始めている。また、求職者数も今月後半より増加傾向にあり、雇用関連の動きが出始めている。
		人材派遣会社（支店長）	それ以外	・派遣の受注数が前年同月を上回り、回復基調である。
		人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・求人数、パート、アルバイトを含む直接雇用が増加している。
		人材派遣会社（営業担当）	雇用形態の様子	・無期雇用がやや増えてきている。今までなら有期でオファーするような人にも内定が重複し始め、採用するために無期雇用でのオファーをしているケースがある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	採用者数の動き	・新卒採用においては、総理の就活時期の繰り下げで3年生の3月スタートという発言が重く受け止められている。企業サイドは2015年採用の準備を始めた。結果、インターンシップのプログラムや開催時期の見直しなど、動きが活発で新規提案を求められている。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	求人数の動き	・年始めの求人数の推移に比べて、若干だが増加傾向になっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で2けたの増加が続いている。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・物流関係で運転手や福祉関係の求人が増加しており、企業側に前向きな動きがみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比微増となっており、特に卸売業、小売業で伸びている。一方で、新規求職者は減少傾向にあるため、雇用情勢は改善が期待される。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・これまでハローワークを利用しなかった求人が、若干増えている。
		民間職業紹介機関（経営者）	採用者数の動き	・経済政策によって、一般心理面で近い将来に対する景気回復期待感、円安などによる国内外での業績改善見通しがついてきたため、慎重ではあるが人材の確保に力が入ってきている。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新卒採用が落ち着いてくる5月に入ったが、明らかに求人数が増えてきている。
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・新規求人数が増えており、特に建設、不動産、リテール金融関連が好調になっている。
		変わらない	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子
人材派遣会社（社員）	それ以外		・求人数は各業種共、増えていない。また、現在円安になってきていることや株の乱高下もあって、各企業は今後どうしたら良いのかがはっきりみえないため、景気はまだ良くならない。	
求人情報誌製作会社（広報担当）	周辺企業の様子		・景気の期待感のみで、実際に業績が上がったという話は聞かない。	
職業安定所（職員）	求人数の動き		・正社員については横ばいだが、パートタイムの求人数は若干増加の方向に動いている。	
学校〔専修学校〕（就職担当）	求人数の動き		・今年度の求人獲得状況は、それほど大きな増減はなく、変化はみられない。	
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・今月は倒産が4社、廃業が2社、かなりの大口の募集が3社大幅減少した。それに対して新規が32社、大口が1社である。全体的に数量は少しは出すというぐらいであり、かなりきつい。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (東海)	良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・買物をしている人の顔が笑顔になってきている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・この秋の式年遷宮を控え関連行事が相次ぐ。加えてテレビ報道の機会も多いので、観光客も前年比で20%増えている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	来客数の動き	・遷宮の年なので、門前町を中心に客は増えている。
		百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・客単価の上昇により売上高が増加している。また、外商部門における上顧客の売上高も前年を上回っている。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・客の購買ニーズは、必ずしも低価格ではなく、上質で良いものへと変化している。背景には、ボーナスの増加予想による見込み消費や、今後の消費税増税を見据えた駆け込み需要といった要因もあるが、世の中のマインドの好転が大きいと考えられる。
	やや良く なっている	一般小売店〔酒類〕（経営者）	来客数の動き	・飲食店への来客数が増えている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・今年の母の日は予約注文数が前年の2割アップ、来客数もまずまずであった。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前に比べるとやや良くなっている。男性客と女性客で買物の仕方に違いが出ている。女性客は良くなっているが、男性客が心配である。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・昼間は70代～80代の来客が多い。出張で来る客は少ない。1人で来店する70代の男性は購入していくが、夫婦の客はあまり買わない。昼間の売上は伸びないが、夕方来店するサラリーマンは購買意欲があり、毎日の予算達成に寄与している。
		百貨店（経理担当）	お客様の様子	・美術品、宝飾品等の高額商品や景気に敏感な紳士洋品の動きが良い。
		百貨店（経理担当）	競争相手の様子	・3か月前までは、地元の百貨店の間では前年同月比の売上にバラツキがあったが、足元では、ほぼ全ての百貨店で前年同月を上回っている。
		百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・宝飾・時計などの高額商品が好調に推移している。他方で、食品、化粧品や雑貨等は、景況感の改善による効果が少ないと感じる。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・式年遷宮に向けての準備でにぎわっている。
		スーパー（店長）	それ以外	・客1人当たりの平均買上点数が、3か月前より約1点増加している。
		スーパー（営業企画）	単価の動き	・一部の高額品が動き出している。アップグレード業態の数字が良くなってきている。
		スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・GMS、SMは、全体では前年を下回っているが食品など前年並みに回復したカテゴリーが増えている。EDLP（エブリデイロープライス）や価格対応型プライベートブランド商品が好調で、低価格商品の好調さに加えて、通常商品の販売も上向く場面が増えてきている。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・車の代替えを検討する客が増えてきている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・販売量の動きが少しずつ上向いている。
		乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・全体的には良い感じであるが、若干の渋みを感じ判断がとて難しい。動きは悪くなく、仕入れ相場も高く推移しているが、それにも関わらず販売量が良いわけではない。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・新車の営業所が7店舗あり、良いところと悪いところがあるが、全体的には目標を100%達している。
住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込みと思われるリフォームや新築需要が出始めている。公共工事も新築、大規模改修が増えてきている。		
その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・株価上昇などの好景気感が、財布のひもを少し緩めている。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		都市型ホテル (支配人)	来客数の動き	・宿泊需要が伸びている。レストランの来客数も、波はあるものの増加傾向にある。
		都市型ホテル (営業担当)	お客様の様子	・円安、株高に伴って、製造業を中心に法人宴会の利用が好調に推移している。3か月前と比べると、新規の問い合わせが10%増の状況にある。
		旅行代理店 (経営者)	お客様の様子	・夏休みの旅行の計画を立てる方が多く、円高でも、アメリカ・ヨーロッパ方面が人気である。
		通信会社 (企画担当)	お客様の様子	・新規契約数は、伸びているとまでは言えないものの、客の反応は良くなっている。解約数も落ち着いてきている。
		ゴルフ場 (企画担当)	来客数の動き	・天候にも恵まれたが、今月の入場者数は、先月よりもさらに大幅に、予算比、前年比を上回っている。ここ数か月の入場者をみただけでは、景気が上向きであると感している。
		美顔美容室 (経営者)	お客様の様子	・4月からのキャンペーンで、新規客からのインターネット予約が入っている。
		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・購入時の借入金利上昇を心配し、購入を急いでいる状態である。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕 (経営者)	お客様の様子	・ゴールデンウィーク前後から、急に土地に対する反響が増えており、それに伴い契約数は伸びている。
	変わらない	商店街 (代表者)	販売量の動き	・例年ゴールデンウィークは販売量が増えるが、今年は、購買意欲はあるものの、販売量は増えていない。
		商店街 (代表者)	販売量の動き	・商店街の週末の人出は多少増えてきているが、ただし、客単価が上がってこないで販売量は横ばいである。一方で、法人需要は多少上がってきている。
		商店街 (代表者)	販売量の動き	・来客数は伸びてきているが、客単価が伸びてこないため、販売額の増加に繋がらない。
		商店街 (代表者)	お客様の様子	・最近株高が下がっているため、マインドとしては良くない。
		一般小売店〔高級精肉〕 (企画担当)	販売量の動き	・食品は景況感にかかわらず安定しているが、お中元ギフト商戦が始まるので、よい結果が出そうである。
		一般小売店〔結納品〕 (経営者)	販売量の動き	・アベノミクスと言われているが、まだまだ個人消費は上向いてきていない。
		一般小売店〔薬局〕 (経営者)	来客数の動き	・ドラッグ業界は、3か月前にはインフルエンザ、アレルギー性鼻炎などの流行期でそこそこ忙しかったが、4～6月は気候も良くて暇になる月で、最近では来客数、売上ともかなり落ちている。また、理由はわからないが前年よりも悪い。
一般小売店〔食品〕 (経営者)	お客様の様子	・株高、円安だけが全面に押し出されている。景気が良くなる感覚に陥りそうになるが、振り返ってみると、客は相変わらず買得品を慎重に選択していることに気付く。何とか今月は現状維持の数字で終わりたい。		
一般小売店〔時計〕 (経営者)	来客数の動き	・客単価が低い。		
一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	お客様の様子	・贈答品店では、お祝い、お返しが必要が減っている。一方で自分や家族に対するご褒美やプレゼントが増えてきているが、件数が違うため、全体的には減っている。		
百貨店 (売場主任)	お客様の様子	・改装した食品フロアは好調だが、以前より、他のフロアへの波及効果が薄れてきている。		
百貨店 (経理担当)	お客様の様子	・宝飾品等の高額品は少しずつ回復している。ただ、物産展で集客を図っても衣料品や雑貨への買い回りが少なく、必要な物以外は買わないという傾向がまだ見受けられる。		
百貨店 (営業企画担当)	単価の動き	・単価の高い商品の動きが良くなってきているが、競争が増えた影響もあり、来客数は伸び悩んでいる。売上は前年を超えているものの、楽観できない状況が続いている。		
百貨店 (販売担当)	お客様の様子	・天候不順で買い悩む印象はあったが、購入意欲は高まっている感じがある。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（経営者）	お客様の様子	・売上が伸びないため、店舗を貸している100円ショップやゲームセンターも、採算が合わず借りる売場を縮小している。経費を減らして収益性の向上を目指しているが、これは客数が伸びず同業との競争が一段と激しくなっていることの表れである。全体的には景気が良くなっている実感はまだまだなく、中小企業の経営は苦労している。一般家庭の収入も増えず、円安に伴う商品の値上げの分、支出が増えている。今月の景気は変わらずで、良くなるのは次月以降である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・1品当たり単価の下落が止まらない。スーパー同士の競争激化で、これからさらに下がる可能性がある。購買点数でカバーするものが増えておらず、客単価は下がっているため、来客数が増加しても売上としては厳しい状況である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・客単価は前年比97%前後で推移している。買上点数も前年より減少し、無駄な物は買わない、安くなった時に買うという傾向が相変わらず強い。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・4～5月の売上高は前年とほぼ同じである。買物の傾向としては、菓子、酒類などの嗜好品の購入金額は減り、生鮮品の割合が増えている。1人当たりの購入金額は増えていない。
		スーパー（店員）	販売量の動き	・天候が良好で価格の大きな変動もなく、売上の推移は春とあまり変わりはない。
		スーパー（販売促進担当）	競争相手の様子	・衣料や住居が特に悪く、今月も前年の97%と前年割れで推移している。近くに開店した大型商業施設の影響は先月よりも改善傾向にあるが、天候不順の影響が大きい。
		スーパー（販売担当）	販売量の動き	・あまり変わらないため、何とも言えない。
		スーパー（支店長）	お客様の様子	・末端の動きや購入状況は、テレビなどで言われているほど変化があまりみられない。
		コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・好景気への期待はあろうが、まだ末端までは来ていない。しかし、株式の保有者や年金受給者が多い年配者が買物や旅行をしているのは、先行きに対する安心感が出てきているからであり、これが現役世代に回ってくることを期待する。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・売上は上昇傾向であるが、今月も前年をクリアできていない。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数も落ちているが、弁当、おにぎりといった主力商品の落ち方が非常に大きい。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客単価の伸びが鈍化傾向にある。しかし、販売量・来客数は微増で回復傾向にあり、営業数値を何とか維持している。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・大型連休があっても、都市型店舗では来客数、物の動きともに良ならず、売上は4月と変わらない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・ここしばらくは来客数が変わっていない。買上点数等も大きくは変わっていない。
		衣料品専門店（販売企画担当）	単価の動き	・客単価は上がってきているが、注文数量は減っているなど全体としては変わっていないが、内容には変化がある。高級ゾーンが売れている反面、安い物の販売数量が減っている。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・高額な商品も普通に売れていくが、販売数が減っている。
		家電量販店（店員）	単価の動き	・売上が増えているわけでもなく、単価が横ばいか下がっている。世間で騒いでいるほど、景気の良さは売上に反映されていない。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・ガソリンスタンドなど安いところで車検を済ませる人がまだ多い。
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・業界や企業の大きさによっては景気が良くなっているようだが、多くの業界や企業では、大した変化がないように見受けられる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・総合リース会社契約の法人需要が伸びている。このところの円安・株高の流れを受けて、これまで代替せずに再リースで使用期間を延長していた車で、代替需要が少し現れてきた感じがする。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・ずっと景気が良いと言われているため、陰りが見えてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (従業員)	お客様の様子	・ボーナスキャンペーンを前倒しで行っているが、客の動きは鈍い。必要に迫られて購入する客以外は来店しない。サラリーマンの客から明るい話題が出ないばかりか、法人顧客からも買換えを控えている様子がかがえる。ただし、きちんと整備をしようという客が増えており、今までは安い車検専門店を利用したりノーメンテナンスであった客から、整備や点検、車検の注文が増えてきている。
		乗用車販売店 (総務担当)	販売量の動き	・新車販売ではエコカー補助金がなくなった影響で前年比では販売台数が減少しているが、予想していたより落ち込みが少ない。
		その他専門店 〔雑貨〕(店員)	お客様の様子	・客が、他店との様子や店内の広告をしっかりと見ている。
		一般レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・ゴールデンウィークの反動で後半は苦戦を予想したが、そこまで落ち込むことなく進んでいる。
		一般レストラン (従業員)	お客様の様子	・消費者はゴールデンウィーク中にお金を使い、ゴールデンウィーク後は外出を控えるので、ゴールデンウィークを過ぎると極端に売上が落ち込み、来客数も激減する。
		観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・宿泊者数は前年同期の90%～95%で、悪い状態が続いている。アベノミクス効果はみられない。昼食、夕食もほぼ前年並みで変わっていない。
		観光型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・インバウンドが活発化してきたので力を入れている。その結果、前年の倍近くの利用者を獲得したが、予約ではさらにその倍の数を受けている。比較的新しい国々からの予約は、受注しても本当に催行されるのか見当がつかず不安が大きい。半数近くがキャンセルとなり、空いた穴を埋めきれぬかどうか心配である。
		都市型ホテル (経営者)	単価の動き	・客単価の動きが、景気上昇とは一致しない。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・個人の客を中心に活気付いてきてはいるが、確実な販売増加とは言えない。
		旅行代理店(経営者)	来客数の動き	・輸出産業は円安で潤っているように見えるが、大半の中小企業はその恩恵を受けているには思えない。名古屋にも格安航空会社が就航し、まだまだ低価格競争は続き、空港でも人件費の切り詰めが進んでいく。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・5月に入って、景気に対して落ち着きがみられる。
		旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・ゴールデンウィーク明けの客の動きがやや良くなっている。夏休みの海外旅行が順調に増えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・新聞やニュースからは景気が良くなったと聞くが、人出はまだ増えていない。客の中でも、良くなったと言う人より、変わらない、悪くなったと言う人が多い。飲食店の経営者の話では、来客数が少なく売上が増えないとよく聞く。
		タクシー運転手	お客様の様子	・月初めに寒い日もあったほか、ゴールデンウィークで色々な出費があった。金曜日以外は、繁華街も悪い。
		タクシー運転手	来客数の動き	・タクシー利用者は、1日トータルで見ると変わらないが、昼間の買物客の利用は減少し、夜の繁華街での利用は増えている。
		通信会社(営業担当)	それ以外	・テレビ等で株価の上昇等が騒がれているが、国民の生活レベルに変化はない。国として新たな施策を推進するにあたって、その財源をどう確保するのが不明確であり、期待を感じることもない。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・販売数と解約数からみて、低迷状態が続いている。
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークを含め、1日当たりでは伸びがなく、トータルは前年並みという状況である。大きな変化はなく低位安定である。
		観光名所(案内係)	お客様の様子	・若者が増えてきていることは見受けられるが、中高年が出てきていない。
		その他レジャー施設〔劇場〕 (職員)	単価の動き	・平日の夜など売れない日時の割引販売をしている。
		理美容室(経営者)	来客数の動き	・来客数としては変わらないが、景気が良くなる気がする。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		美容室（経営者）	お客様の様子	・ゴールデンウィークについて、客の話を聞くと、出掛けた人は少なく、せいぜい近場や日帰りぐらいで、レジャーにはお金を使っていないと感じた。	
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・昔は、新築の際には新しい家具を買い揃えることが普通であったが、今はそれがない。	
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・耐震補強工事に対して消極的であった客が、リフォームを兼ねて実施を考えるようになってきた。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・特に上向きの要素はみられず、横ばい状態である。	
	やや悪くなっている	一般小売店〔自然食品〕（経営者）	お客様の様子	・比較的単価の低い商品はよく動くが、単価の高い商品は購入を見送る傾向にある。	
		百貨店（販売担当）	販売量の動き	・景気回復の兆しがあったゴールデンウィークは、期待外れで例年より悪いくらいであった。5月中旬にはカード優待の催しを行ったが、こちらも期待外れで、その後、株価の乱高下があり、消費は簡単には上向かないことを実感した。	
		スーパー（店員）	来客数の動き	・同じ地区に競合店ができたため、客が分散している。売上も落ちている。	
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・生鮮食品の売行きが悪い。特に魚介類が良くない。	
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・たばこの売上が大きく減少している。低価格の商品が売れており、また本数を減らしている人もおり、節約志向が続いている。	
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数が極端に少なく、売上減になっている。	
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・株式市場では、良くなっているように見えるが、家電量販全体では、上昇傾向までには至っていないのが現状である。	
		乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・例年通りであるが、3か月前と比べるとやはり動きは鈍い。マスコミはアベノミクス効果についてもてはやすが、消費者は至って冷静なようである。	
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車の販売台数が大幅に減少しており、店舗の販売目標台数を大きく下回っている。会社全体でも、目標台数を前年比で大幅に減らしている。	
		その他専門店〔貴金属〕（店長）	それ以外	・若手経営者の集まりでは、口を揃えて企業は減量し、給与もまだ変わらず夏のボーナスも上げられないとの意見が出ている。店舗の様子も今までと変わらず、活気が戻ってくるにはまだ時間がかかる。	
		通信会社（サービ担当）	販売量の動き	・3か月前に比べ新規申込は増えているが、同じ位に解約も増えている。	
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数や客単価の動きが良くない。	
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	それ以外	・来年の消費税増税を控え、原価率アップが悩みの種になってくる。仕入れ原価の値上げがちらほら出てきているが、福祉用具のレンタル事業は、市場性からユーザーへの価格転嫁が困難である。	
		設計事務所（職員）	お客様の様子	・アベノミクスの効果で官庁を中心に工事が出るという話はある。しかし、大きな仕事が出る感じはまだない。民間の需要は、まだまだ冷え切っている。	
		悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・今月は、販売量、仕入金額、来客数、問い合わせ件数等すべてで過去最低を記録している。取扱商品の内容、価格ともに顧客のニーズとずれてきていることは否めないが、それにしても悪化の度合いが急激すぎる。報道にあるような景気回復感は無である。
			スーパー（経営者）	お客様の様子	・中小小売店は非常に悪い。売上がなかなか上がらず、廃業していくところが相次いでいる。
一般レストラン（経営者）	それ以外		・仕入れ費用が今までよりも2%位上がっている。洋酒や外国からの輸入食品が値上がりしている。		
テーマパーク（職員）	競争相手の様子		・まだまだ外国人などは少なく、客が物品を購入しないので、移転する店が増えている。		
美容室（経営者）	それ以外		・客が高齢化しているため、来店頻度が少なくなっている。3月は良かったが、4、5月はかなり下向きになっている。		
理容室（経営者）	お客様の様子		・周りの人達からも良い話は聞かない。		
美容室（経営者）	お客様の様子		・自分でヘアカラーをする客が増えている。		
企業動向	良くなっている	○	○	○	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
関連 (東海)	やや良くなっている	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・販売量は4、5月と前年を上回り、消費マインドの改善気運が感じられる。一方で、実際に店頭で商品が売れているという実感はまだまだなく、本格的な景気回復には、今しばらく時間が必要と思われる。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量はやや増える一方で、原料価格が高くなってきている。
		化学工業（人事担当）	受注価格や販売価格の動き	・一時期に比べて高級品を購入しようという消費者が増えている。ただし、ほとんどのサラリーマンは給与がそれほど増えておらず、消費行動は大きく変わっていない。
		化学工業（総務秘書）	取引先の様子	・業績の会話の中で明るい見通しが多い。厳しいのは輸入材料の円安ぐらいで、全体としてビジネスの引き合いが活発になっている。
		一般機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・円安の効果で、今まで設備投資を見合わせていたブラジル・中国などの新興国EMS（電子機器受託製造サービス）ユーザーが、購入を決断するケースが多い。また、円高の頃は反応が薄かった在庫機値引きセールでも、受注が増えている。
		電気機械器具製造業	取引先の様子	・情報通信インフラ整備のための設備投資が、ゆっくりではあるが計画段階から実行段階へ進みつつある。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・海外の受注量が、緩やかではあるが上昇してきている。為替が円安に振れているので、利益も改善している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・円安基調が続き安心感が出ている。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	取引先の様子	・円安の影響で取引先の業績が良いと聞いている。また、当社からの出荷も増えている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産開発業では、マンション・戸建共に順調な売行きである。
		輸送業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・消費財、生産財ともに荷動きが良くなっている。円安に伴う輸入の減少も、世間で言われているほど発生していない。むしろ物量は増加傾向である。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・例年ゴールデンウィーク以降は、国内の荷動きが低調に推移するが、今年は前年を上回る実績で推移しており、荷動きからは景気回復感が強い。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・輸出貨物が安定的に漸増している。
		輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・荷物の動きは非常に多くなっている。人員不足により、時給を上げて募集をしている。
		輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上の伸びを前年と比較すると、前年は4.0%、今年は11.3%で、7.3ポイントの伸びとなっている。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・大手自動車メーカー関連事業で、残業や夜勤も増えてきており、比較的、景気が回復してきている。以前に比べれば見通しが立ってきて、良い流れに向かっているという声が多い。
		金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・取引先の自動車部品メーカーの生産が増加している。
		不動産業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・来客数やマンション販売戸数が増加傾向にある。
		企業広告制作業（経営者）	それ以外	・求人数に明らかな変化がある。採用枠の拡大は景気回復の兆しである。
		公認会計士	それ以外	・輸入車など一部の高級品を扱う会社のなかでは、売上増加がみられるようになった。しかし、多くの中小企業では、円安による輸入材料の価格高騰による経費増加が先行し、業績悪化の傾向がみられる。
経営コンサルタント	競争相手の様子	・都心部を中心に、不動産の物色が続いている。5億、10億クラスの高額なマンションは、もう売り物件がなくなっている。物色の動きはオフィスや店舗に及んでおり、不動産の需給は改善傾向にある。		
会計事務所（職員）	取引先の様子	・製造業、建設業関係では受注が増えているようだが、日用品、食品関係など生活関連業種では、相変わらずデフレが続いており安値販売競争がみられる。特に、食品は、その日その日が勝負となるので安売り販売は避けられない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
雇用 関連 (東海)		会計事務所(社会保険労務士)	それ以外	・例年は3月で一段落する道路工事が、4月以降も続いている。土木工事会社の話では、仕事が結構出ている。工事代金が支払われ企業の設備投資や従業員の給与、ボーナスに反映されるには、もう少しかかるかもしれないが、見通しは少し明るくなってきている。	
		その他サービス業[ソフト開発](社員)	受注量や販売量の動き	・基幹業務に関するシステム開発の依頼は、進捗が遅延しているため先延ばしの方向であるが、周辺システムの開発依頼が、先月に比べて増えつつある。	
	変わらない	紙加工品[段ボール]製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・販売量は前年と変わらずで推移している。3か月前と受注量は変わっていないが、これ以上悪くはならないであろうという状況である。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・円安、株高等の良い材料はあるが、実態として変化はない。受注量、販売量ともに横ばいである。	
		出版・印刷・同関連産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・株価上昇は、エンドユーザーの消費意欲を向上するまでには至っていない上に、最近の株価の不安定な動きで、見通しがつかない。消費行動が拡大しないと、広告効果の増加にも繋がらない。	
		鉄鋼業(経営者)	受注量や販売量の動き	・大企業に関する指標は上がっていると聞いているが、現在の仕事量、受注量は全く増えていない。当社では受注量が前年比で20%ほど下がっていて、中小企業の仕事量は逆に減っていると感じている。	
		金属製品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・先のプロジェクト案件の引き合いは多いものの、目の前の仕事量確保には苦勞しそうな感じがしている。	
		電気機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・取引先の従来からある製品は売れないが、当社のオリジナル製品が売れ始め、景気としてはあまり変わっていない。	
		輸送用機械器具製造業(品質管理担当)	受注量や販売量の動き	・客先の生産レートが、3か月前から上向いている。	
		建設業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・地元町内で下水道整備が進み、一般家庭の切替えて、清掃業務の受注が減ってくる。	
		輸送業(エリア担当)	それ以外	・取引先の企業では、残業時間の制約が厳しくなったり、定時以降のパソコンの使用が禁止になったりしている。必要経費を切り詰めて、業績の回復を狙っている。	
		金融業(企画担当)	取引先の様子	・円安、株高とともに個人投資家の投資意欲はおう盛で、その資産効果により、消費にも引き続き意欲的である。	
		不動産業(経営者)	取引先の様子	・金融機関の対応は柔軟になってきたものの、実際に回復傾向にあるとは考えにくい。	
		不動産業(管理担当)	受注量や販売量の動き	・世間でアベノミクスが騒がれているほど、事務所の引き合いはない。景気の上向きは実感していない。	
		広告代理店(制作担当)	取引先の様子	・新規で広告を依頼する企業はあまりなく、個人消費に比べて企業側の消費はまだ低い。	
		新聞販売店[広告](店主)	受注量や販売量の動き	・折込広告は前年並、流通業はアップであるがサービス業の落ち込みが懸念される。	
		行政書士	受注量や販売量の動き	・貨物の動きが変わらない。	
		その他サービス業[広告印刷](従業員)	受注量や販売量の動き	・商品の問い合わせ等は増えてきた気がするが、実際の受注にまでは結び付いていない。	
		その他非製造業[ソフト開発](経営者)	受注量や販売量の動き	・外注先もライバル企業もまざまざの状態であり、一時期のような暗い顔ではない。株高先行で気持ちは和らいでいるかもしれないが、問題はこれから先である。	
		やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業(社員)	受注量や販売量の動き	・受注量は全般的には減っていないが、最量販製品で問題が生じてストップしている。現在、対策試験品を出して奪還を図っているが、まだ目処が立っていない。
			金属製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・販売量・価格ともに低下している。
		悪くなっている	—	—	—
	雇用 関連	良くなっている	—	—	—
	(東海)	やや良くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・株高、NISA(少額投資非課税制度)の影響があり、証券業界を中心に金融業界の求人需要が高まっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		人材派遣会社(社員)	雇用形態の様子	・事務管理系では、正社員の中途採用の求人案件が増えている。
		人材派遣会社(営業担当)	周辺企業の様子	・新聞やニュースの影響を受けて、取引先が明るい見通しを立てている様子がうかがえる。
		アウトソーシング企業(エリア担当)	求人数の動き	・自動車生産は上向き傾向で、合わせて求人数も増えている。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子	・前年同月比で、正社員の求人が増えてきている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は増加しているが、求職者数は減少している。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規求職者数が若干ながら減少しているなか、求人数はほぼ横ばいの状況にある。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人数は、3か月前と比較すると14%増加している。製造業、卸小売業が増加している。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・求人数は多少増加しつつある。
	変わらない	人材派遣会社(経営企画)	周辺企業の様子	・技術系人材のニーズは、東海＝好調、関東＝不調の状況で、期変わりとともに関東が回復すると読んでいたが、予算削減が継続している。
		人材派遣会社(経営者)	求人数の動き	・求人はあるがピンポイント的なもので、それに合う人材がない状況が続いている。
		人材派遣会社(営業担当)	それ以外	・日経平均が乱高下し安定していない。アベノミクスの効果は、地域の中小企業や消費者にまでは出ていない。
		新聞社〔求人広告〕(営業担当)	求人数の動き	・一進一退である。
		新聞社〔求人広告〕(営業担当)	求人数の動き	・有効求人倍率が改善していない。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・前年同月比で求人数は増加しているが、この3か月は微増である。また、製造業での増加があまりみられないので、全体としては、まだ変わらない状況である。
やや悪くなっている	民間職業紹介機関(営業担当)	雇用形態の様子	・派遣法改正の動きにより労働市場の動きは活発に見えるが、契約社員やパートとしての採用が多く、正社員市場は、まだまだ活況とは言えない。	
	民間職業紹介機関(営業担当)	雇用形態の様子	・依然として求人内容の改善がみられず、地方の中小企業は苦戦している。	
悪くなっている	人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・3ヶ月前が良すぎたのか、例年に比べても悪くなっている。	
	人材派遣会社(支店長)	求人数の動き	・派遣求人数は、季節要因を除いても前年比10%強は減少しており、やや悪化の傾向がみられる。また、派遣中のスタッフ数は、4月から5月にかけて1%減少している。	
	悪くなっている	—	—	—

6. 北陸(地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所)

(—：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向	良く なっている	—	—	—
関連 (北陸)	やや良く なっている	一般小売店〔精肉〕(店長)	単価の動き	・単価の高い商品がより動くようになった感じがする。
		一般小売店〔鮮魚〕(従業員)	販売量の動き	・地域差はあるが販売量はほぼ前年並みで推移するようになってきた。ただ、業務用の卸売が堅調なのに対し、一般消費者向けの小売部門が伸びてこない。あくまでも主力は業務用だが、小売部門の低迷の要因が分からない。
		一般小売店〔書籍〕(従業員)	来客数の動き	・アベノミクスの効果が疑問だが、来客数はここ数か月の中でも多く増えている。
		百貨店(売場主任)	それ以外	・株価の影響からか、宝飾品や美術品など高額商材の動きがようやく地方にも出てきている。
		百貨店(営業担当)	単価の動き	・今まで落ち込んでいた高額のプラタポルテゾーンの売上が増加するショップが増えてきた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・現在、テレビや新聞などでいわれているアベノミクス効果というのは、地方ではまだまだみていないように思えるが、ゴールデンウィーク以降、気温の上昇とともに夏物の動きが良いので、客も買い控えているようにはみえない。また、今年の夏の節電対策を考える客が多いように思われ、インナーやパジャマのコーナーでは、既に半袖やノースリーブなどが良く売れていて、前年同月並みという感じできている。
		スーパー（店長）	単価の動き	依然買上単価は低いままで、他社との競争も進んでいる状況であり、食品スーパーにおいては、客の買上状況をみる限り、世間が騒ぐほど景気の上昇は感じていないが、前に比べるとやや良くなっている。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・当店は、体育館や展示場などイベントが開催される施設の周辺に位置する店舗であるが、気温の急上昇も大きな原因となり、前月あまり恵まれなかった土曜と日曜の天気は今年良く、来客数の伸びにつながっている。
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・今期待されている景気回復の傾向が、先月まで全くみられなかったものが前年同月比102%とようやく良い傾向になりつつある。内的要因の全面改装後、初の前年同月比越えであるが、この増加分の2%が景気回復によるものか改装によるものかと考えると、改装した割には同比率が悪いという段階にある。
		衣料品専門店（総括）	お客様の様子	・気温の上昇とともに夏物の売行きが上がり、来客数自体は増えているが、あくまでも気温による需要であり、景気が良くなったかといえはやや良くなっているという評価が妥当である。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車や中古車の販売台数が、少しではあるが1月に比べ増加している。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・エコカー補助金のあった前年同月に比べると、販売台数は若干減少しているものの、最大の需要期を過ぎた4月以降も受注及び販売ともに計画台数を確保しており、アベノミクス効果が需要を喚起しているように感じている。
		その他小売 [ショッピングセンター]（統括）	来客数の動き	・ゴールデンウィークは分散型であったため、最大ピークの山は前年同月に比べると低かった。ただし、前後を含めた月間をトータルで見ると、「駐車場入庫台数」及び「来客数」ともに、前年同月を越えている。客単価は依然として前年同月を下回るものの、来客数でカバーしている。
		一般レストラン（スタッフ）	それ以外	・今のところ、景気的には多少良くなったと感じられる程度である。ただ、新聞やマスコミなどで高額品が動いているなど景気にプラスの要因が聞かれるようになってきたので、今後も含めて、時間が掛かるかもしれないが、身の回りでも上がっていくような気配が感じられる。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年同月比で102%、宿泊人数は同106%、宿泊単価は同98%となり、企画募集と外国人が好調であった。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊、レストラン、宴会各部門ともに、前年同月比で増加している。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・動いているのは一部の客だけである。しかし、販売額的には前年同月を上回っている。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・単価の上昇がみられる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後半は、天候に恵まれ観光施設に多くの人が集まった。ホテルなどは満杯で、タクシー利用も多くあった。また、港に豪華客船が2度入港し、2000人ほどが下船したためタクシー利用が多く、様々な面で経済効果があった。
		タクシー運転手	販売量の動き	・ビジネスの客が少し多くなってきている。
		通信会社（職員）	それ以外	・地域企業で決算内容も良好な先が目立ったこともあり、どのイベントも盛り上がる傾向にあり、消費意欲も活発なことがうかがえる。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・最新の携帯電話などが発表、発売となり、今までにない施策で客の興味を集めている。また、今まで最新モデルへの変更をちゅうちょしていたユーザーも購入しやすい環境が整えられているため、今までとは違う客層も来店するようになった。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		テーマパーク (職員)	来客数の動き	・前年同月と比べると、国内の一般団体は依然2けた以上減少する厳しい動きとなっているが、海外からのインバウンドの客が前年同月比で200%水準となっている。また、個人の客も前年同月並みの動きとなっており、トータルで2けたのプラスになっている。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・価格帯でのバラツキが大きい。直近の動きをみると低価格商品の引き合いが多い。一方、高級住宅の消費税率の引上げに対する駆け込み需要は現在あまりみられない。ただし、大型案件の増改築やリフォームは順調に動いている。
		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・消費税率の引上げの影響で客が動いている。望まれる価格帯は高いものと手頃なもの両極端になっている傾向がある。
		住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・消費税率の引上げや住宅ローン金利上昇が考えられ、住宅を取得したいという駆け込み需要が加速している。
	変わらない	商店街(代表者)	お客様の様子	・気候の変動が大きいので、春物の動きが弱いまま暑くなったので、一気に夏物へ目がいつているが、購買にはなかなか結び付かない。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・依然として天気の悪い日は来客数が悪い。まだまだお金を使おうという雰囲気ではなく、足元が悪い日は買物などは控える傾向が引き続き強いように思う。
		一般小売店〔事務用品〕(役員)	販売量の動き	・今月は当社の決算月であるが、例年ゴールデンウィークのある月ということより、あまり数字は見込めていない。したがって、今年度も前年同月比から考えると、例年と変わらず売上を上げたと思っている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・ここ2~3か月、商品の販売量に変化は無い。
		スーパー(総務担当)	来客数の動き	・食品の売上は、前年同月を確保できそうである。しかし、ポイントセール回数を増やして集客した結果であり、景気が良くなった印象は無い。
		スーパー(総務担当)	お客様の様子	・現状、飲料、酒、パン、菓子などの嗜好品はやや不振気味であり、ディスカウント店に流れている状況であるが、食料品のうち、生鮮、日配品などの生活必需品は、前年同月並みで推移している。
		スーパー(統括)	お客様の様子	・前年あたりからドラッグストアが食品を扱ったり、コンビニエンスストアの高速道路サービスエリア出店などに伴う異業種間の競争があり、ごく一部のカテゴリがバッティングしている。そのなかで、客の買物動向に関しては、少しでも安くということと、より近いということと、営業時間ということを加味して買い分けられており、スーパーは厳しい状況が続いている。
		コンビニ(店舗管理)	来客数の動き	・タバコの売上が前年同月比で減少しており、それと同様に来客数も減少傾向がみえる。一方、客単価はまずまずであり、売上ではほぼ前年同月並みといった状況である。
		衣料品専門店(経営者)	お客様の様子	・客から景気の良い話は聞かれず、売上も前年同月を確保することがなかなか難しく、同業者からも同様な話を聞いている。
		家電量販店(店長)	販売量の動き	・今でもテレビの販売数量は、前年同月比で4割低下している。不足分は、エアコンなど省エネ機種で売上をカバーしている。
		家電量販店(管理本部)	販売量の動き	・ここ数か月、販売量の前年同月比がほぼ同一である。
		乗用車販売店(経営者)	お客様の様子	・原発の問題など地域経済の状況が原因なのか、購入に対して様子見の客が多くなった店舗もある。
		乗用車販売店(経理担当)	販売量の動き	・乗用車の販売量は、5月は前年同月比で91%、今年2月の販売量は同95%と3か月前と比較すると、低下の度合いはわずかにとどまっている。
		自動車部品販売店(従業員)	単価の動き	・今月は3月の春タイヤ需要の前倒しの反動が依然続いており、また、カーナビゲーション単価下落の要因と重なり、買上単価が前年同月から大きく低下している。前年同月の新車販売の好調による用品販売需要増の反動も大きい。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経営者)	販売量の動き	・単価の安いガソリンスタンドの販売量が多くなってきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔医薬品〕（総務担当）	来客数の動き	・競合店の進出地域を除き、来客数は前年同月並みで推移している。買回り品にも大きな変化は無く、制汗剤、害虫駆除剤など季節品が動き始めた。健康食品、ダイエット関連は前年同月を下回っており、買物動向には堅実さが見受けられる。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・今年に入ってから相変わらず、個人利用の伸びと法人利用の低下は変わらないが、外国人の利用が徐々に増えている。好調の鉄板焼き部門では、高額の能登和牛や国産アワビが例年に比べ30%近く多く出ている。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・ゴールデンウィークの連休以降の客の動きが悪い。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・例年出掛ける人が多い月であったが、アベノミクスという言葉が独り歩きし、実態は決して良くなく、売上は前年同月と比較すると7割程度と想定される。地元の機械部品商社も取引先の客はあまり良くないと聞いている。二分化された格差社会がますます広がっている気配を感じる。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・4月以降、台湾、香港からのインバウンドの客は増えているが、国内の団体客は減少しており、売上は前年同月並みになっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・ゴールデンウィークは期待をしていたが、売上高は前年同月並みで終わった。その後も前年同月並みで推移している。仕入原価は、円安とともに全般的に上昇しているが、価格転嫁すると売れなくなる。平均すると売価は低下、来客数はやや上昇となっている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・競争環境が一段と厳しさを増すなかで、テレビやインターネット契約の新規獲得件数が鈍化傾向にある。最近の円安傾向が一部製品の値上げとなり、家計の余裕を圧迫している可能性がある。
		その他レジャー施設（職員）	お客様の様子	・入会者は前年同月と同様で、この時期としては少ない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・4月は来客数が前年同月を大きく下回ったが、5月は前年並みで推移している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・消費税率引上げ前の駆け込み需要が増えてくると思っていたが、現状では特別増えてくる様子は無い。この2～3か月間、問い合わせや展示場来場者数など動きはあるものの、成約数はそれほど増えていない。
やや悪くなっている		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・特徴的だったのは、3～4月からみると単価が落ちてきている。たとえば、母の日のプレゼントでも前年は3000円前後の単価だったのが、今年は2500円程度に落ちている。また、その買物さえもかなり慎重になっている。3か月前からの流れと少し変わってきた。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・1か月を通して所属する商店街の人通りが減少していると感じた。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・連日、株高や円安、高額品が売れだすなど報道されているが、身近にいるほとんどの人達は、ガソリン高、医療費上昇、税金の上昇などにより、ぼやいている人ばかりである。零細企業の人の家庭の支出が緩む日が来ることを望んでいる話ばかりである。
		住関連専門店（店長）	お客様の様子	・株価などが上がり景気が回復したようなことをいわれているが、実際の給料が上がっていないため、耐久消費財などは一番敬遠されやすい。したがって、購買には結び付いていない。
悪くなっている		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近隣への競合店の出店があり、来客数が大きく減少している。また、客単価の低下が1年以上継続している。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・3～4月と世間的には物入りの時期でもありその余波があり、物が今までに増して動いていない。消費者の財布のひもは固いままである。
		競輪場（職員）	販売量の動き	・比較対象月の2月がグレードレース開催月だったこともあるが、1日当たりの売上平均額が20%減少した。
企業動向関連 (北陸)	良く なっている やや良く なっている	—	—	—
		食料品製造業（役員）	受注価格や販売価格の動き	・価格自体はまだ下落傾向とデフレ状況にあるものの、100円均一商材よりも、むしろ販売価格の高い物の売行きが良くなっている。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・円安もあり、受注面では純輸出関連で引き合いも増え期待感が強いが、足元では前年同月を少し上回っている程度の状況が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内市場は、国が進めた「ものづくり補助金（ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金）」申請が決まってきており、設備需要が伸びると予想している。
		建設業（経営者）	それ以外	・3月は年度末工期の公共工事の完成に向け多忙であったが、4～5月は手持ち工事量が少なく代休の消化に努めた。しかし、営業利益面では3月工期の好採算の工事が完成計上されたため、4月の月次決算は例年よりも良かった。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・アベノミクスへの期待により株価と為替相場が回復し、その期待感と同時に企業のマインドもやや上昇している。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・客の直近の業況からすると、いずれも前年同期比でマイナスの材料がほぼ消えたという状況にあり、景気判断については、常態もしくは良い方向に向かっているものと判断される。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者に聞いたところ、忙しくないとする業者は半分いるものの、一方で、動き始めているとする業者も半分くらい存在する。
		司法書士	取引先の様子	・近年ほとんど無かった事業用資金の融資に関する設定が多かった。
		税理士（所長）	受注価格や販売価格の動き	・客の方で、製造業も工事業も、受注単価が以前よりも利益が上がりやすい価格になりつつある気配がある。飲食店関係においても、客1人当たり単価や売上も少しずつ良くなってきているように客の数字をみているとうかがい知ることができた。したがって、何となくやはり良くなっているのではないかというのが実務を行っていても感じられる。
	変わらない	繊維工業（経営者）	取引先の様子	・特に受注状況は変わらないため、良くなる状況はまだ先であると思う。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅市場の方は動いているといわれるが、当社の関連商品の動きに影響するほどの受注量は無い。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・産地全体の状況としては、特殊商品や低価格商品の生産を行っている一部のメーカーを除いては、依然として厳しい状態が続いており、人員縮小や時短などの話も耳に入っている。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・技能工の人手不足で労務費が上昇しているなか、一部に依然と採算度外視で、異常と思われる見積入札する業者が見受けられ、厳しい受注価格競争が続いている。
		輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・国外向けの物量の動きは良くなっている感じは見受けられるが、国内向けの物量の増加傾向は見受けられない。
		新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・住宅関連のチラシ出稿量が多少前年同月を上回ってきているが、本来のものではない。
	やや悪くなっている	—	—	—
悪くなっている		—	—	—
雇用関連 (北陸)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・専門職や技術職の求人数が増えてきているため、求職者とのミスマッチが多くみられた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年同月をクリアした。少なくとも前月より良い状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求職者数の動き	・求人者数の動きについては思ったほど伸びてはいないが、これまでとあまり変わりがないかやや良くなっているように感じている。
	変わらない	人材派遣会社（役員）	求人数の動き	・新卒採用されたばかりで新規需要は少ない。短期間の欠員補充での需要に対する人材も、スキル不足で成約に結び付きにくい。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・3か月前と求人数の動きはほとんど変わらない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は全体で前年同月比17.7%増加と伸びている。しかし、内訳をみると、主に技術者を募集する建設業で同56.5%増加、募集する時間帯が幅広い宿泊業や飲食サービス業が同61.4%の増加となっているものの、県内の主要産業である製造業では同21.7%減少していることから、良くなっているとは言い難い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・一部求人数が増加している産業もあるが、製造業など減少している産業も多い。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人材紹介や派遣とも求人数が前年同月に満たず増えていない。緊急雇用的な求人案件も減少している。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年同月比では特に変化がみられない。
	やや悪くなっている	—	—	—
悪くなっている	—	—	—	

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (近畿)	良く なっている	その他専門店〔宝石〕（経営者）	来客数の動き	・今回の景気の良さは、今後株価がよほど変化しない限り持続する。
		都市型ホテル（客室担当）	来客数の動き	・日本人、外国人共に個人旅行が好調で、売上も前年比で110%となっている。来月には阿倍野地区で商業施設の開業が控えており、梅田地区と共に注目される。
		通信会社（社員）	販売量の動き	・5月の販売量（契約数）においても最高値をマークしている。今年になって純増数がアップしており、目標値を20%以上クリアしている。
	やや良く なっている	一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	来客数の動き	・高額商品の購入も幾分は増えている。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	販売量の動き	・景気に関しては良くなりつつあるのかも知れないが、電気料金の値上がりや原料高の深刻化などで、本格的な回復の動きはみられない。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・先月と違って明るいムードであり、景気が少しずつ回復している。
		百貨店（売場主任）	販売量の動き	・株高や気温の上昇に伴い、衣料品を中心に好調な推移となっている。輸入ブランド品の値上げ後の販売減も、今のところは見受けられない。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・富裕層を中心に、資産効果により高額品が好調に推移している。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・月前半は苦戦したものの、中旬から後半にかけて気温が上昇したほか、バーゲン商品の展開もあって回復している。客は依然として不要不急の商品の購買には慎重であるが、景気回復の期待もあるのか、以前よりも購買に積極的な姿勢がみられ、動きの良い商品が増えている。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・店全体では、宝飾品や高額時計の売上が伸びている。婦人服においても、客単価の推移をみると前年比で約1%上昇している。
		百貨店（企画担当）	単価の動き	・先月に引き続き、高額商品の動きが良い。特に特選ブランド、時計の動きが良い。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・来客数が前年を上回り始め、特に衣料品の動きが出てきているが、高額品はまだ動かない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・梅田地区に客が集まっているが、店頭での買上は固定客を中心に大幅に増えている。また、優良固定客による美術品の買上が、点数、金額共に増えている。
		百貨店（店長）	来客数の動き	・店舗への来客数が前年より増えており、売上もほぼ前年並みを維持している。
		百貨店（商品担当）	販売量の動き	・入店客数が回復傾向で、売上も衣料品、食料品を中心に少し改善している。天候、気温の季節変化が順調に推移していることも、その一因である。
		百貨店（服飾品担当）	単価の動き	・母の日のギフト商材は客単価がやや上昇傾向にある。アクセサリやハンドバッグなどの高額商材が母の日当日によく動き、母娘での来店による購買もよくみられた。
		百貨店（商品担当）	単価の動き	・引き続き外商関連では高額品の動きが良く、単価の高い物が売れている。
		百貨店（外商担当）	単価の動き	・円安、株高が続いていることが富裕層の購買意欲を高めており、高額な時計は非常に良く売れている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（マネージャー）	単価の動き	・一時期、不要不急といわれた輸入時計の売上が前年比で35%増と好調である。また、ここへきてやっと寝具などのリビング雑貨が好調に推移し始め、売上が前年比で18%増となっている。富裕層から中流層まで、来客数も増加し始めている。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・4月は気温が低く、旬の商品を中心に非常に需要が冷え込んだが、5月はゴールデンウィークの天候も良く、後半からは気温も前年並みに戻ったため、4月のマイナスを含めて一気に季節物が伸びた。ただし、百貨店のように高額商品が売れているわけではなく、客はあくまでも必要な物をしっかりと買っているというレベルである。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・衣料、住居関連商材の売上が、夏らしい天候や気温も重なり、好調に伸びている。食品は相場安の農産物が苦戦しているが、それ以外は堅調である。
		スーパー（社員）	来客数の動き	・先月までは低い気温や天候不順によるマイナスの影響が大きかったが、今月に入り、天候も安定して気温も高くなるにつれ、平日の来客数が伸びてきている。景況感の良さも、客の購買を後押ししているように感じる。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・月の後半に気温が上がったため、飲料水やデザートがプラスワンで売れている。
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・高級おにぎりなどのプレミアム系高額商品の売上が好調で、客単価が上昇傾向にある。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	お客様の様子	・スーツやジャケットなど、欲しい物や必要な物が会話のなかで出てくるようになってきた。また、極端なクールビズファッションへの反対意見も聞こえてくる。
		衣料品専門店（販売担当）	単価の動き	・少し単価が上がり始めている。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・5月からの電気料金値上げの影響もあり、節電型エアコン、冷蔵庫の動きが良くなっている。
		乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・まだ売上に反映されていないが、自動車購入の引き合いが多い。消費税の増税前に購入を検討する客が、潜在的に増えていることが実感できるようになっている。
		住関連専門店（店員）	販売量の動き	・季節商品の販売実績が伸びている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・4、5月は来客数、客単価共に前年を上回っている。また、全国のほかの地域と比べても差はなくなっており、景気上昇の期待感や、客単価のアップ策が奏功している。
		その他飲食 [コーヒーショップ]（店長）	来客数の動き	・4、5月は、前年比で2～5%程度ではあるが、来客数の伸びがみられるようになっている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・日帰り、宿泊共に予約状況が好調である。
		観光型旅館（経営者）	お客様の様子	・少し入込の動きが早いように感じる。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・株価は一時的に大幅に下落したものの、3～4か月前からは上昇しており、景気は良くなっている。ただし、サラリーマンの給与はまだ上がっていない。実体経済とのギャップが少々あるなど、まだ本格的な景気回復ではない。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・収入は宿泊、宴会、食堂共に前年を上回っており、客単価も若干ながら各部門共に上がり始めている。一方、食材の値上がりも軒並み始まっており、そのほかの外注経費の値上げ要請も出てきつつある。消費者の動きをみると単価の値上げは難しく、タイミングを見計らっている状態である。
		都市型ホテル（総務担当）	単価の動き	・日本料理店やフレンチレストランなど、高級店舗の来客数が増加し始め、客1人当たりの販売単価が上昇傾向にある。
		都市型ホテル（マネージャー）	来客数の動き	・宿泊部門は、ゴールデンウィーク明けも外国人旅行者の利用が引き続き好調であり、国内のビジネス客も堅調であった。宴会部門は、若干ではあるが売上が前年を上回り、レストラン部門も高額店舗を含め、全店舗で前年を超えている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・夏のボーナスの支給額アップで、夏の家族旅行の受注増につながる。
		旅行代理店（広報担当）	お客様の様子	・第1四半期の旅行需要は伸び悩んでいるが、そこで行かなかった客が、早々に夏休みの旅行申込を既に行っている。その申込内容も、前年よりも予算を少し上げるなどの動きがみられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・以前に比べて、夜の人出が若干増えた感じを受ける。特に、週の後半においては三宮近辺で人が多く、日曜日も多くの人出が見受けられる。
		タクシー運転手	お客様の様子	・前月に続き、流し営業での客の乗車機会は、遠距離客は増加していないものの、近距離客は確実に増えている。また、企業関係のハイヤー予約も増加傾向にある。
		通信会社（経営者）	お客様の様子	・アベノミクス効果により、心理的な景況感が向上している。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	お客様の様子	・株価が上昇し、円安が進んでいることで、経営者の表情が以前とは全く違う。まだまだ確信はできないが、期待を持って経営している。
		住宅販売会社（総務担当）	販売量の動き	・消費増税の影響で展示場への来客数が微増となり、イベントの集客も具体的な建築予定のある客が増えてきている。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	来客数の動き	・5月の住宅展示場への来場者は、前年比で約1割増となっている。
	その他住宅〔情報誌〕（編集者）	販売量の動き	・新築マンション業界では、当初計画していた集客、販売目標を上回る動きとなっているほか、物件によっては対応できる数以上の集客となっている現場もあることから、広告投下の縮小や停止の動きが出ている。これは、消費税率アップ前の駆け込み需要の動きと、景気上向き感の相乗効果によるものである。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街では春の催しも大型店や百貨店に比べて不調に終わり、効果を出せていない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・消費目的の客の来店は増加しているが、来客数全体を増やすことが課題である。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	販売量の動き	・先月同様、腕時計や掛け時計の動きが良くない。また購入の話が出てきたとしても、他店との値比べがあったり、携帯電話で写真を撮ったりと、インターネットでの購入を視野に入れた動きが目についた。時代が変わったことを痛感しているが、修理や電池交換などを必要としている客がいることはありがたい。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	来客数の動き	・来客数が増えてきているわけではないが、来客者の様子をみると、購買意欲は以前のように低くないと感じる。
		一般小売店〔花〕（店長）	お客様の様子	・急に暑くなり、来客数が減少している。
		一般小売店〔雑貨〕（店長）	販売量の動き	・売上が全く伸びず、3か月前と同じである。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	それ以外	・周囲の店が次々に閉店している。小さな店は、今が一番大変なようである。
一般小売店〔酒〕（社員）		お客様の様子	・製造業に関しては、新聞などでは給与の増額の報道もみられるが、中小企業にはまだその恩恵が感じられない。ただし、販売数量や単価の改善はみられないが、悪くもなっていない。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・入店客数が前年比でマイナスとなっているので厳しい。もう少し入店が増えてくれば売上も増えるが、梅田地区や6月の阿倍野地区での商業施設のオープンを考えると、どこも厳しい。	
	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・まだまだ経済状態が不安定で、先の見通しが立たない。	
	百貨店（企画担当）	単価の動き	・入店客数は減少傾向が続くなかで、平均単価は上昇している。売上はほぼ前年並みで推移しているが、特選ブティックや時計などの高額品が好調に動いている反面、ボリュームゾーンの服飾については動きが鈍い状況が続いている。景気が上向きに転じたとは判断するのは難しく、しばらくはこの傾向が続くのではないかとみている。	
	百貨店（サービス担当）	お客様の様子	・今月は、先月と同様に状況の変化はないが、新しい商業施設の開業を控えた周辺環境の整備やクリアランスセールで、来客数が増加している一方、購買単価は低下している。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（販促担当）	来客数の動き	・昨今の株価上昇に象徴されるアベノミクス効果は、高額品、外商顧客を中心に広がってきている。ただし、梅田地区に代表される更なる商業施設の増加により、ゴールデンウィークに開業が重なったことも相まって、来客数は大きく影響を受けている。
		百貨店（売場マネージャー）	来客数の動き	・高額品の購入はまだ続いているものの、ファッション関連の購入は数量、単価共に好調とはいえない状況にある。また、神戸（三ノ宮、元町）における人の流れは、梅田地区や神戸での商業施設の開業もあり、来客数の減少がみられる。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・気温上昇により、食料品以外は良くなる兆しが出てきているものの、食料品関連は苦戦が続き、予断を許さない状況である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は回復傾向であるが、単価が上がらず、業績は横ばいか、やや悪化している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・中旬から気温が上昇し、衣料品を中心に季節品の動きが活発化しているが、食料品や日用消耗品といった必需品の動きは変わらない。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・不安定な株価、住宅ローン金利の上昇など、良いニュースは少ない。関西はボーナスが増える会社も少なく、消費が上向く材料は少ない。梅雨入りも昨年より早く、景気も天候もどんよりといった感じである。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・株価の動きが不安定になっているが、もともと株高効果はスーパーなどには波及していなかったため、影響は感じられない。ただし、今後の動き次第では、心理的に悪影響を与える可能性がある。
		スーパー（広報担当）	販売量の動き	・今月中旬以降、急激な気温の上昇で季節品の動きが活発になり、売上全体は回復傾向にある。ただし、食料品の1品単価は前年割れの状況が続いており、日々の消費は依然としてシビアな感がある。
		スーパー（企画）	単価の動き	・1品単価は下落が続いているが、買上が伸び、客単価が戻ってきているように感じる。
		スーパー（管理担当）	販売量の動き	・来客数に大きな落ち込みはみられないが、購買点数が伸びてこない。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・客の買い方をみていると、広告初日に安く価格を出した商品やナショナルブランドの安い商品には開店からでも並ぶが、それを買うとすぐにレジに行くなど、ほかの物を買って足す動きは少ない。
		スーパー（開発担当）	お客様の様子	・来客数は前年と変わらず、売上も前年と比べて変わらない。
		コンビニ（店長）	来客数の動き	・気温が大きく上下し、暑かったり寒かったりする日が続いたので、人の動きにも影響が出ている。
		コンビニ（広告担当）	来客数の動き	・アベノミクスで株価が乱高下するなか、百貨店では高額品の購買効果が出ているが、一般小売店ではまだ効果は感じられない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・4月の後半から5月にかけて販売量が増えなくなってきており、単価の低い物しか売れない。前年を2～3割程度割り込んでいる。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・アベノミクスのスタートは良かったが、勢いがなくなってきた。財布のひもが固くなった気がする。
		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・受注台数は前年並みであり、来場数も週によってむらがある。
		乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・政府の景気対策による効果が、テレビや新聞などで連日報じられているが、実際にはほとんどの人がその効果を体感しておらず、様子見の人が多い。
		住関連専門店（店長）	それ以外	・選挙の時期は消費者が動向をうかがうためか、販売量がいったん落ちる。ただし、世間の政治への期待感が強くなっていると感じるため、現状は維持できる見込みである。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	販売量の動き	・販売量は前年比で変わらない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	単価の動き	・円安といわれる状態が続いているが、その状況に応じて販売価格を上げるのは難しく、消費者の意識も宝飾品には向いていないように感じる。
		高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ランチ客の動きは先月に比べて落ち着いてしまったが、ディナーは変わらず、予約で埋まる日の多い状態が続いている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		一般レストラン(経営者)	競争相手の様子	・今月は特に客の入りが悪いとよく耳にする。ゴールデンウィーク後が特に悪いと、各店主が口をそろえている。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・飲食店は天候に左右されやすいが、今月は天候も落ち着いていたため、近くの商店街も人通りが増えている。夜も少人数の宴会が増えている。
		一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・来客数の推移は安定的になっており、特段の増減がみられる状況ではない。
		一般レストラン(経理担当)	来客数の動き	・夜の宴会は好調に推移しているが、一般客の動きが鈍い。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・5月は団体客がゼロの状態であり、1人で来店してくる馴染みの客にとどまっている。
		旅行代理店(経営者)	販売量の動き	・昨年とは打って変わって海外旅行の受付が伸び悩み、国内旅行の受付が前年を上回って動いている。特に、件数では韓国をはじめとする漢字表記の4地域が大きくマイナスとなっている。それ以外の増加で何とか受付金額は維持している。
		旅行代理店(店長)	単価の動き	・安く旅行に行きたいという傾向は変わらない。富裕層はどんどん高い料金でも行くが、一般客の景気は変わっていない気がする。
		タクシー運転手	競争相手の様子	・企業の出入りの業者が少ない。
		観光名所(経理担当)	来客数の動き	・3月のリニューアル効果が出ており、前年を上回る来場者となっているが、この状態から更に増えることはない。
		競艇場(職員)	単価の動き	・3か月前から単価の動きは同水準で推移しており、増えも減りもしないという動きを繰り返している。
		その他レジャー施設[イベントホール](職員)	お客様の様子	・イベント開催数はほぼ変わらず、来客数にもほとんど増減がない。レストラン、売店などの売上もほとんど変化がなく、人気アーティストのグッズも通常どおり売れている。
		その他レジャー施設[飲食・物販系滞在型施設](企画担当)	来客数の動き	・引き続き、海外からのインバウンド客の集客が好調である。
		美容室(店長)	来客数の動き	・売上が前年比で7～8割と厳しい状況が続いている。
		その他サービス[ビデオ・CDレンタル](エリア担当)	販売量の動き	・タイトルの影響もあるものの、CD販売の前年比はかなり悪い。レンタルのほか、書籍などの売上でもよくカバーする状況が続いている。
		住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・大手の販売実績が伸びているとの報告は聞いているが、残念ながら自社の状況は何も変わっていない。
		住宅販売会社(経営者)	単価の動き	・以前と相場は変わらず、目立った需要の増加もない。
		住宅販売会社(従業員)	それ以外	・アベノミクス効果で、株価、為替は一時的に急速な改善をみせたが、各企業が積極的な経済活動を行うようになったわけでもなく、特段の変化はない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介](経営者)	販売量の動き	・不動産の取引価格などをみると、上昇傾向で過熱気味であるが、身の回りの景気が上昇しているようにはみえない。
	やや悪くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・梅田地区での商業施設の開業以来、当エリアの人出は相当増加しているが、売上は厳しい。当初の予測どおり、オーバーストアによる競合激化が始まった感がある。
		一般小売店[菓子](経営企画担当)	販売量の動き	・5月現在と2月の売上前年比を、各地区別に上位5店舗の平均でみると、関西は5月が87.5%で、2月が91.2%、関東は5月が98.1%で、2月が91.2%、中部は5月が89.1%で、2月が85.5%、中国は5月が99.5%で、2月が90.1%となり、各地区合計の平均は5月が90.8%で、2月が90.0%となっている。先月と同様に悪い状態が続いており、好転の兆しさえみられない状態が続いている。回復傾向に転じることはもちろん、前年並みに回復することさえ難しいように感じる。
		スーパー(経営者)	単価の動き	・今月初旬のゴールデンウィークが終わり、客の財布がかなり軽くなっているのか、単価の安い物しか売れない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・来客数の前年比は96%で推移しており、下げ止まり感がない。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数は低迷している。プロモーションをかけた場合も、同じ客の来店回数が増えるだけである。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・今月は気温の変化が激しく、また後半になるとムードが少し下向きになっている。必要な商品を必要な量だけ購入するという、賢明な買物行動がみられる。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	お客様の様子	・初夏、夏物のカタログを発刊したが、ファッション商品を中心に顧客の反応が鈍い。
		一般レストラン（店員）	競争相手の様子	・近隣に競合店が出店し、価格競争が起こっている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・来客数や客単価が前年を若干下回っており、3か月前との比較でも、特に客単価は良くなっていない。
		競輪場（職員）	単価の動き	・3か月前の客単価は9,920円で、今月は9,770円となっている。アベノミクスの効果は、一部投資家や輸出企業にしか恩恵がなさそうで、一般の消費者には円安や物価上昇の悪影響が徐々に出てくる。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・タワーマンションなどの高額マンションと廉価なマンションの販売状況は非常に良いが、5千万円前後の中間層をターゲットとする物件の販売状況が悪化してきている。
		悪くなっている	—	—
企業動向関連 (近畿)	良くなっている	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・ゴールデンウィーク期間については、梅田地区や神戸などの大型商業施設の開業もあり、都心主要駅の物販、飲食店舗は軒並み売上好調となった。さらに、母の日も例年にない売上を記録したが、これは絆消費が継続している影響とみられる。
	やや良くなっている	食料品製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・依然として販売価格の低い物を中心に動いているが、販売量の回復で生産量も増加してきている。食品業界は景気にあまり左右されないといわれているが、景気が良くなると、数か月遅れで上向きになる傾向がある。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	受注量や販売量の動き	・医学系の国内会議や国際会議が活発に動いている。それに伴う資料作成が多く、受注量も増加している。また、新年度予算において、住宅産業の戸建、マンション業界でも販促物が好調に動いている。一方、弱電業界は円安にはなっているものの、販促の動きはまだ鈍い状態が続いている。
		化学工業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・輸出製品の販売数量が先月と同水準であり、国内の販売数量も減少していない。
		金属製品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・建築関連の出荷はやや低調なものの、自動車関連は順調である。
		電気機械器具製造業（経営者）	それ以外	・企業間の取引の実態は急に変わらないが、円安は利益の増加につながるほか、見積価格も下げられるので、商談は進んでいる。
		電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・住宅、マンション向けの照明器具や、学習机、書斎家具の出荷量が昨年を超えている。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	それ以外	・円安と株価上昇の好影響が出ている。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ようやく少しずつではあるが、消費増税前に住宅を建てたいという顧客が出てきている。
		輸送業（商品管理担当）	受注価格や販売価格の動き	・5、6月は母の日と父の日があるせいか、販売量が増えている。
		金融業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・アベノミクスによる経済成長の影響が取引先に出ている。全体的に受注増加となっている。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	取引先の様子	・取引先では取引高が増えている。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・インターネット媒体、紙媒体共に、広告売上は前年を明らかに超えてきている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・アベノミクスという言葉を経営者からよく耳にする。輸出を行っている製造業のクライアントは、円安（為替差益）のお陰で見通しが明るいという。一方、小売業のクライアントは景気が上向いているといわれているが、実感はなさそうである。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	コピーサービス業（店長）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に右肩上がりでも推移しているが、若干勢いがなくなったようにも感じる。
		食料品製造業（営業担当）	取引先の様子	・気温の上昇により飲料水の販売が増えるかと思ったが、3か月前と比べてあまり変わらない。梅雨の時期が終われば期待はできる。
		食料品製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・デフレ傾向はまだ続き、円安による原材料の高騰の影響も収益面にすぐ出ている。
		繊維工業（総務担当）	それ以外	・消費動向が上向いているとは思えず、給料の増加よりも物価の値上がりが先のように、不安感を抱いている。
		繊維工業（団体職員）	受注量や販売量の動き	・1～3月は前年と比較しても非常に悪かったが、5月に入り多少の動きは出てきている。ただし、原材料価格の高騰や電気料金の値上げなどのコストアップ要素も多く、価格転嫁も難しいことから、景況感は良くない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	取引先の様子	・食品メーカーは原料が値上がりし始めているようで、1個当たりの量を減らすなどしている。一方、輸出メーカーでは販売量は増加していないが、収益面で円安効果が出ている。
		プラスチック製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新商品が動き出しているが、利益率が改善されていないので、実質値引きの感がある。
		金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・市場は適度な円安となり、海外案件などの引き合いが出てきているが、今の段階では荷動きなどに変化はない。
		金属製品製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が落ちてきている。建築土木関連は、新規の大型物件がない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社の顧客は原子力発電所関連が多いが、この分野は現在停滞している。この影響で、新たな引き合いが低調である。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・一般消費者向けの商品はアベノミクスの影響が早く出るが、産業界での設備投資となると、顕著に景気の良さが表れるまでには時間がかかる。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	受注量や販売量の動き	・依然として量販店の店頭には客足が少なく、荷動きは鈍い。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・円安の影響で、自動車関連の受注にはやや回復傾向がみられるものの、海外での現地生産や販売が今後加速する点を考慮すると、あまり多くは期待できない。全般的にみれば、まだまだ企業の積極的な設備投資は出てきていない。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注に関しては堅調に推移しているが、伸びているという感覚はない。ただし、仕事をする上で、客や協力企業などの会話や雰囲気からは、少しずつであるが良くなっている感覚がある。
		建設業（経営者）	取引先の様子	・円相場や株価は動き続けているが、实体经济は不透明である。民間の設備投資もまだ活発な動きはない。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・配達件数に変化はない。
		輸送業（営業所長）	取引先の様子	・新規案件の話も出てきているが、長期的な案件が多く、業績には反映しない。
		通信業（管理担当）	それ以外	・市場の価格は以前と変化がない。
		不動産業（営業担当）	取引先の様子	・消費税率が上がる前にマンションや建物を建築する動きが増え、土地の需要はおう盛になっている。一方、土地を買いたいという客は増えているが、賃貸の需要がないなど、実需が乏しい。
		広告代理店（営業担当）	取引先の様子	・ショッピングセンターでは、4、5月のゴールデンウィークに集客が増えたが、その前は気温の低下で売上が減少していたため、全体的には変わらない。
広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・新年度に入って以来、広告出稿に大きな変化はみられない。		
経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・関西のクライアントが多く、特に電機メーカー関連が圧倒的に多い。その結果として、良くも悪くもなく、変化がない。		
その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・まだ、世間的には動きは変わらない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ビル管理についてはあまり景気に左右されない部分があるため、さほど変化は感じない。不動産の売買については、低い利回りであっても流通しているように感じる。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	競争相手の様子	・株高や円安で景気は上向いているといわれているが、我々を取り巻く環境には変化がない。
	やや悪くなっている	化学工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・円安による原材料価格の高騰が進んでいるが、販売価格への転嫁が困難なため利益が圧迫されている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注、販売共に減少している。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・折込広告の件数が極端に落ち込んでいる。毎年良くない2月の件数を下回っている。	
悪くなっている	○	○	○	
雇用関連 (近畿)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・4月に入ってから雇用関係は落ち着いてきた。ほとんどの会社はアベノミクスが本物かどうかを見極め、様子をみていた感じであるが、この春から始まるうとしていたIT関係の案件も、3か月の予定が秋までに延長となっている。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・物流業からは春夏物商品の動きの鈍化で受注が減っているが、製造業からは食品関連を中心に受注が増加してきている。受注全体が増えていることもあり、求職者数も増えてきている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・新聞広告の推移をみると、梅田地区での商業施設のオープンや、アベノミクス、株高などが要因で良くなっていると感じる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	求人数の動き	・当社が取り扱う求人広告の動きは、引き続き堅調である。
		職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・雇用形態を常用雇用とする企業が増えている。
		民間職業紹介機関（大学担当）	採用者数の動き	・5月1日現在の大学生内定率は53.0%と、前年の同時期（45.8%）よりも7.2ポイント上昇している。モニター調査であるため、平均値よりも高い数値となるが、確実に回復基調となっている。
		学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	・前年に比べて、求人依頼の件数や業種の範囲が広がってきている。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・アベノミクスの金融政策で株高及び円安局面となり、一般の消費者心理は好転したが、株価の乱高下による今後の影響が懸念される。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・今一つ活発な動きがない。やはり大手電機メーカーの収益が落ち込んでいることが影響している。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	周辺企業の様子	・予算をかけてまで新たに採用する企業が減少傾向にある。また、人材を採れないなら採れないで、景気の見通しも立たないため、そのままの条件でいくケースが多い。景気が変わらないというよりも、むしろ停滞している感がある。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・新聞の求人広告量からみると、停滞している。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	周辺企業の様子	・株価が上がり、大規模な商業施設がオープンするなど、一見すると景気が回復しているようであるが、関西の周辺企業の動きがどんどん活性化している感覚はない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数については、医療・福祉、宿泊、飲食サービス業では引き続き前年比で増加しているが、製造業や建設業からの求人は減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・直近の新規求人数は15か月連続で前年を上回った。製造業が2か月ぶりに増加に転じたほか、正社員求人が増加傾向にあり、新規求職者数は引き続き減少傾向にあることなどから、現状の景気はやや良いという感触であるが、特に上向いている感覚はない。
民間職業紹介機関（職員）		求人数の動き	・日雇い建設部門の求人数は、相変わらず労働者不足（特に職人）に直面しているが、衰えてはいない。	
やや悪くなっている	アウトソーシング企業（社員）	求職者数の動き	・今回、求人を行っているが、求職者が全く集まらない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	悪く なっている	—	—	—

8. 中国（地域別調査機関：公益社団法人中国地方総合研究センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)	良く なっている	乗用車販売店 (店長)	来客数の動き	・5月は毎年来場者数が減少するが、今年は前年の125%で推移している。20代後半から60代以上の客がまんべんなく来場している。
		その他小売 [ショッピング センター] (運 営担当)	来客数の動き	・今年の大型連休は高近短の傾向が強くと、市内近郊からの来場客が多く、高単価の買いまわりにつながった。前年と比べても数字は大幅に伸長した。
		都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・今月はひろしま菓子博という大型イベントがあり、宿泊・レストランが好調であった。
		住宅販売会社 (営業担当)	競争相手の様子	・業界として全体的に売上が前年より増加しており、客の反応や動きも含めて市場が動いていると感じる。
	やや良く なっている	商店街(代表 者)	来客数の動き	・天候が安定して人出が多い。
		一般小売店 [靴] (経営 者)	販売量の動き	・天候や株価の影響で前年よりも売上が大幅に伸びているが、油断できない。
		一般小売店 [茶] (経営 者)	来客数の動き	・3～4月の売上は前年を下回る厳しい状況であったが、出雲大社大遷宮で多くの観光客が入ってきており、5月に入って良くなる傾向が出てきた。
		一般小売店 [印 章] (経営者)	お客様の様子	・新しい会社設立の印鑑注文が増え、高級印材の動きも良い。
		一般小売店 [紙 類] (経営者)	来客数の動き	・観光客の客単価が上がっており、景気が良い。
		百貨店 (営業担 当)	単価の動き	・気温上昇時期が早くなったことにより、夏物の稼働が今月に山場を迎えている。
		百貨店 (売場担 当)	来客数の動き	・百貨店がなくなった地域から来る客が確実に増えている。
		スーパー (店 長)	販売量の動き	・来客数は伸び悩んでいるものの、気温上昇に伴って、涼味食品や飲料、夏物衣料の売上が増加し、買上点数も増えてきている。
		スーパー (店 長)	お客様の様子	・食品中心ではあるが、販売点数が増加傾向にある。衣料も夏商品が動き始め、先月より持ち直してきている。
		スーパー (総務 担当)	来客数の動き	・来客数、買上点数ともに増加傾向にあり、売上も伸びている。
		スーパー (販売 担当)	来客数の動き	・前年同時期と比較して客数は好調に推移しているが、その波は緩やかになりつつある。また、ゴールデンウィークを境に、客単価、販売量はやや下降気味である。
		家電量販店 (企 画担当)	お客様の様子	・高付加価値品や生活必需品ではない趣味・嗜好品といわれる商品を求める客が増えている。
		観光型ホテル (支配人)	販売量の動き	・円安の影響で外国人旅行者の増加がみられ、全体の売上を伸ばしている。
		都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・山陰地区については、広島までの高速道路開通や出雲大社大遷宮の効果もあり、当月は宿泊客数が前年比10%増と伸びている。
		都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・海外からの宿泊客が増加し、レストランの来客数も増加している。
		タクシー運転手 通信会社 (企画 担当)	販売量の動き お客様の様子	・売上目標の達成率が高くなっている。 ・新サービスへの関心度が高まっている。
		テーマパーク (業務担当)	来客数の動き	・連休中の天候が良く、松江自動車道の開通もあって、来園者が前年に比べ増加した。
		ゴルフ場 (営業 担当)	競争相手の様子	・景気は上向きと思われるが、まだサービス業に金を使う客は少ない。少しずつであるが、旅行社からのエントリーも動き出した。
		設計事務所 (経 営者)	お客様の様子	・中古、新築住宅に限らず、客の購入意欲が改善しているため、問い合わせが増えている。
		設計事務所 (経 営者)	それ以外	・官庁からの入札件数が、以前と比べて確実に増えてきた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
変わらない		設計事務所（経営者）	販売量の動き	・先月、今月と連続して受注が増加している。いずれも戸建て住宅やリフォームの物件で、消費税増税前の駆け込み需要と思われる。
		住宅販売会社（販売担当）	お客様の様子	・連休中のイベントで客の反応がよく、積極的な発言と購入意欲が感じられた。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者は増えつつあるが、まだ買上単価は上がらない。	
	商店街（理事）	来客数の動き	・景気が良くなっているという報道はあるが、客の様子では実感がまだなく、消費につながらない。	
	商店街（代表者）	来客数の動き	・季節的な要因を抜きにしても、世情で言われているような景気回復はみられない。来街者と店の来客数も増えた形跡はない。	
	商店街（代表者）	お客様の様子	・5月の連休、フラワーフェスティバル、ひろしま菓子博の開催等で、市内中央部の通行客は大変多く、飲食関係は例年以上に好調な売上であったようだが、高額品等の売上は、2～4月に比べて低調であった。	
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	お客様の様子	・連休後から来客数と客単価が下がり、やや低調なムードになっており、飲食店からの注文量もやや少なかった。月の後半は暑い日が多く、夏向き商品と飲料水関係は好調であった。全体的には数か月前と変わらない。	
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・売上はほぼ前年並みの97%であるが、4～5月は伸び悩んだ。3月に春物が売れて回復したかに思えたが、寒さが戻った4月に伸びが止まり、そのままの状態が5月に入った。飲食はほとんどの店舗が前年を超えたが、アパレル関係が伸び悩んでいる。	
	百貨店（営業担当）	単価の動き	・催事の際に高額商品の動きが良かった。	
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・美術品、宝飾品といった高額品の売上は相変わらず順調である。株価高騰による含み益増加という客の声も多い反面、5月前半は前年を下回る気温で推移したため、婦人服を中心に衣料品の売上低迷の要因ともなっている。	
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・5月中旬以降、気温が上がり、UV関連の化粧品、帽子、パラソルが好調に推移している。ハンドバッグは動きが鈍いものの、アクセサリは全般に好調であり、前年並みの売上の見込みである。	
	百貨店（購買担当）	お客様の様子	・食品、日用雑貨については、季節の変わり目で売上が良かったが、ぜいたく品と言われる洋服などについては、客の財布のひもが固い。また、近郊に大手スーパーができたが、それほど影響はない。	
	百貨店（販売担当）	販売量の動き	・売上が期待したほど伸びていない。客単価は前年を上回っているが、来客数が非常に少なく、前年を大きく下回っている。一方で宝飾品や時計等の売上の伸びは非常に良い。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・客単価に変化はない。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・ここ3か月、来客数は前年の98%、販売点数も98.5%で推移している。	
	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が引き続き前年に届かない。	
	スーパー（業務開発担当）	単価の動き	・来客数は変わらないものの、客単価が低下している。野菜の単価下落も一因のように思われる。	
	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・買上点数及び客単価は前年並みになっているが、競争の激化により来客数の減少が続いている。	
	スーパー（管理担当）	来客数の動き	・来客数は前年並み、客単価は前年割れの状況は変わらないまま推移している。	
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・売上、来客数ともに前年をクリアしているが、客単価が先月、先々月と比べて10円ほど低下している。	
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・単価は上がってきたが、来客数があまり伸びない。		
衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・クールビズでワイシャツとスラックスの需要は高いが、スーツは前年同様、厳しい状況が続いている。来客数も増えていない。		
家電量販店（店長）	販売量の動き	・天候不順でエアコンの販売量は、前年キープが難しい状況である。		
家電量販店（販売担当）	販売量の動き	・ボーナスと夏商戦まで状況は変わらない。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		乗用車販売店 (副店長)	それ以外	・円安、株高により輸出型企業には追い風となっているが、実態が伴っておらず売上にはインパクトが薄い。
		乗用車販売店 (営業担当)	販売量の動き	・前年と比べると、販売量はほぼ横ばい傾向である。
		その他専門店 〔和菓子〕(経営者)	販売量の動き	・景気が変動するような大きな要素がない。
		その他専門店 〔布地〕(経営者)	お客様の様子	・ゴールデンウィークが終わって来客数が減少し、このところ少し持ち直してきたが、客の財布のひもは固い。
		その他専門店 〔海産物〕(経営者)	来客数の動き	・松江自動車道開通、出雲大社大遷宮効果で、やっと来客数が増えてきており、売上は前年並みを維持できた。
		その他小売 〔ショッピングセンター〕(支配人)	単価の動き	・マスコミが、アベノミクスによる円安や株価上昇を、景気が上向きと報道する心理的な効果は継続している。しかし、生活必需品の消費行動では、まとめ買いや衝動買的な買物はみられず、価格による選別や必要な物以外は買わないという購買動向は変わっていない。
		高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・家族連れ、個人の利用が多い日もあるし、そうでない日もあるので、どちらとも言えない状況である。
		一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・人の動きはまだ少ない。
		一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・来客数は微増であるが、使用金額や客単価は低下傾向で、売上は微減の状態である。
		一般レストラン (エリア担当)	来客数の動き	・ひろしま菓子博の恩恵で観光客が大幅に増加し、来客数も増え、消費も多く良かったが、ひろしま菓子博が終わると以前の状態に戻った。
		一般レストラン (外食事業担当)	単価の動き	・3月ごろより歓送迎会が増え、4月は入園入学で需要が高まり、5月はゴールデンウィークが天候に恵まれ、客単価が上がり、好調に推移している。
		スナック(経営者)	来客数の動き	・株価の上昇や商店の売行きなど、ニュースでは景気が良くなっている感じはあるが、実際の自分の店の売上は変わらない。
		その他飲食 〔サービエリア内レストラン〕(支配人)	来客数の動き	・ゴールデンウィークまで客は多かったが、その後は極端に少なくなっている。増えそうな雰囲気もなく、先行き不安な状況である。
		都市型ホテル (企画担当)	来客数の動き	・ホテル内のレストラン客数は増加傾向にあるが、宿泊客、宴会利用客については極端な増加はみられない。市内周辺での集客を促すコンベンションやイベント開催などが減少していることも影響している。
		旅行代理店(経営者)	お客様の様子	・アベノミクスで株価は上昇しているが、店舗の売上には変化がない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・客からいい話は聞かない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・山口市の景気は良くなった気はしないが、大都市からの観光客は増えたのでイーブンである。
		通信会社(営業担当)	お客様の様子	・新規加入促進策として大型施設でのイベント・販売促進告知・訪問営業などを試みているが、効果は見受けられない。
		通信会社(広報担当)	単価の動き	・物品単価を下げると品物が動く状況であることから、それほど景気が良くなり、消費が進むという状況にはないと思われる。
		テーマパーク (管理担当)	来客数の動き	・前年のマイナス5%強で来館者が減少している。物販は単価の上昇で売上は維持しているが、伸び悩んでいる。
		競艇場(職員)	販売量の動き	・売上、来場者ともに横ばいである。
		美容室(経営者)	競争相手の様子	・景気は変わらない。
		美容室(経営者)	単価の動き	・新しいメニューを客に提案しても普段通りの注文しがなく、客単価が上がらない。
		その他サービス 〔介護サービス〕(介護サービス担当)	お客様の様子	・客やその家族との話のなかで、景気の変化がうかがわれるような話は一切聞かれない。ここ一年くらいを振り返っても何も変わらない。
		設計事務所(経営者)	お客様の様子	・節約ムードに変化はなく、ニュースで言われているような好況感はどこにもない。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・受注は順調に伸びてきている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・アベノミクスで景気のいい話が聞かれるが、販売業者として感じるのは、そういったことは一切ないということである。いまだにデフレ傾向が続いているし、客の購買意欲は下がっている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・デフレからの脱却ができておらず、円安でガソリン等も高値安定の傾向にある。
		一般小売店〔酒店〕（経営者）	販売量の動き	・連休疲れか、連休明け後は料飲店の売上が激減しており、例年に比べても悪い数字である。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・ブランド物は売れているが、全体の販売量の動きが良いわけではない。
		スーパー（販売担当）	競争相手の様子	・競合店の広告回数が増え、目玉商品の価格が抑えられているので、当店への来客数に影響がある。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・景気は上向きと言われているが、あまりその影響を感じない。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ニュース等で景気のいい話を耳にするが、地方ではあまり変わらない。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・5月の販売状況は前年の90%となっており、エコカー補助金の反動がみられる。
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・自動車備品業界の売上は、1月以降前年割れとなっている。世の中でいわれるアベノミクスによる景気回復には程遠く、気分だけは明るかったが、楽観視してはられない状況になりつつある。
		住関連専門店（営業担当）	来客数の動き	・週末、土・日の来客数が減少している。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	単価の動き	・個人消費は全く上向かない。休日が多すぎて地元での消費が少なく、レジャーなどを通して消費が流出している感がある。
		その他専門店〔ファッション雑貨〕（従業員）	販売量の動き	・景気が上向きと耳にするが、当店の来客数と販売量は低迷している。
			悪くなっている	スーパー（店長）
コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き			・売上、来客数が前年割れであった。ゴールデンウィークの販売予測も下まわり、月後半の天候回復も追い風にならなかった。
自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き			・売上が前年を下回っている。来客数も減少している。
企業動向関連 (中国)	良くなっている	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新車種が立ち上がるので、受注量が増加している。
		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・急激ではなく緩やかな出荷増である。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・か性ソーダを中心に、販売量は前年同月比並みに回復基調にあるが、顧客との値上げ交渉は難航しているため、回復とは言い難い状況にある。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・二次加工品製造部門は、競合相手の製品不良によりシェアが大幅上昇した客先がある。この対応で製造個数増加となり、当面、増産体制をとっている。その反面、新規の引合いが低調で、他部署を応援している部門もある。
		非鉄金属製造業（経理担当）	取引先の様子	・輸送用機器関連で国内増産の動きがある。
		金属製品製造業（総務担当）	取引先の様子	・得意先において受注が増加する見込みが強まり、協力を要請するため得意先の役員が来社した。それを受けて、他工場へ異動させていた人員を戻し、増産体制を整えた。
		電気機械器具製造業（総務担当）	それ以外	・仕入れ材料価格が上昇気配であるものの、それ以上に引き合いがある。仕入れ価格の上昇分を吸収でき、増産・増益につながることを期待している。着実に空気は良くなっている。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・中国でのノックダウン生産向けの仕事が急回復してきている。製品によっては初期販売目標を継続的に大きく超えているものがある。
		輸送業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・4月は好調であった輸出の動きは、5月も鈍いが上向き傾向にあると感じる。
		輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・個人市場が回復傾向に向かっており、前年割れから脱出した。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		金融業（自動車担当）	取引先の様子	・県内完成車メーカーの新車販売が好調で、協力部品メーカーの受注は前年比プラスで推移している。コスト削減で収益率も増加している。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・ここ数年パッとしなかった海運業関連の売上が増加している。要因として、公共工事に係る砂や砂利を運ぶ量が増えてきたことが考えられる。公共工事関連の業種はこれまでより良くなってきている。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と大きな変化がない。
		繊維工業（統括担当）	取引先の様子	・景気が良くなっている状況をまだ実感できない。
		化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・現時点では円安による原燃料高を価格に転嫁できておらず、素材関連の製造業は景気回復の実感がまだない。
		鉄鋼業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・自動車の荷動きは堅調だが、それ以外の分野で目立った大型物件がなく、総じて需給にタイト感はない。市況の上昇スピードも鈍い。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・景気は悪いまま推移している。住宅建築に関して消費税増税前の駆け込み需要はあるが、大手住宅メーカーに注文が集中し、地場の建設業が関与できる案件は少ない。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・中小企業向け通信機器などの設備投資を抑える傾向が続いており、受注が伸び悩んでいる。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・地元企業の経営者から景気回復に対する期待の声はあるものの、実際に業況が上向いているとの話はあまり聞かない。過去数年間、売上が前年同月でマイナスであった企業で、小売業やサービス業の企業の売上の下げ止まりの兆候はみえてきており、おおむね横ばいの景気が継続している。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数・成約件数は、ほぼ横ばいで推移している。
広告代理店（営業担当）		取引先の様子	・取引先の様子から、景気は少し落ち着いてきているようである。アベノミクス効果が取引先にはまだ出てこないとの話題が多くあった。	
やや悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・1月と4月を比較すると水揚げ数量1,058t、水揚げ金額1億9,300万円の減少であった。4月単月の前年比では、水揚げ数量が430tの減少で前年の67.1%、水揚げ金額が8,040万円の減少で前年の80.4%であった。	
	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・OEM商品や当社商品が棚から外されることが増えており、業績に大きく響いている。	
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・急激な円安傾向で、海外から材料を輸入して国内販売している当社にとっては、非常に不利な状況となっている。	
	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・現在の手元工事をこなすのに手いっぱい、新規受注にブレーキをかけているのが原因であるが、今後のまとまった物件がみえてこない。専門工事業者に関しては、同じく手持ち工事の手いっぱいであり、人件費、資材費の上昇が予想されるため、仕事はあれども手が出せない。	
	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量が前年と比較して少なくなっている。	
	通信業（営業企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・客からの設備投資に関する提案依頼の流れが5月に入り停滞しており、コスト削減による見直しの相談が増えつつある。	
	悪くなっている	—	—	—
雇用関連 (中国)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・比較的堅調な医療・福祉・販売といったサービス業以外でも求人数の増加が目立ってきている。特に、自動車関連の製造業、住宅・建設関連、金融分野で顕著である。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・アベノミクス効果が、地場の中小企業の採用拡大まで浸透しているとはまだ言い切れないが、期待感を持っている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	求人数の動き	・非正規求人割合が高まっているものの、3月の有効求人倍率は、製造業の求人増加により、1.13倍で2か月ぶりに上昇し、米国の大手金融機関の破たん前の水準に近づいた。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	求人数の動き	・4月の新規求人に占める正社員求人の割合は、3か月前に比べ1.2ポイント上昇している。
		職業安定所(雇用開発担当)	求人数の動き	・業種別にみるとばらつきはあるものの、総じて求人は増加傾向にある。
		民間職業紹介機関(職員)	採用者数の動き	・海外強化、新会社設立、企業買収等といった事業拡大のための採用が増えている。
		民間職業紹介機関(人材紹介担当)	周辺企業の様子	・主に自動車産業の業績回復と並行して、中小関連企業の設備投資や人材確保が表立ってみられる。また、年初の経済対策が実態として感じられる。
		学校〔大学〕(就職担当)	求人数の動き	・求人をする会社数が増加している。
		学校〔短期大学〕(学生支援担当)	求人数の動き	・例年に比べて求人がやや多くなってきている。
		その他雇用の動向を把握できる者〔労働機関〕(職員)	求人数の動き	・求人は、補正予算での公共事業受注増を期待して募集をしている建設業や、好調な漁獲量を背景とした水産食料品製造業での大幅増が、求人全体を底上げし、有効求人倍率は前月比を3か月連続で上回って推移した。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	周辺企業の様子	・アベノミクス効果で景気の上向き感はあるものの、周辺企業の採用活動においては、いまだ様子見の企業が多い。
		人材派遣会社(営業担当)	求人数の動き	・当地域の主要産業である自動車と自動車部品製造業では、新型車の生産等で明るい話題が多い。しかし、派遣の依頼に関しては報道ほどの効果はなく、横ばい状態である。
		人材派遣会社(営業担当)	求人数の動き	・製造業の事務系、内勤系の仕事の求人は、特に少なく感じる。
		求人情報誌製作会社(採用支援担当)	求人数の動き	・引き続き、2014年新卒の企業の採用数は、前年度より確実に増えている。当初から増やしていたところに加え、追加で弊社に電話をかけてくるような、新規に取り組む企業がちらほら存在する。
		職業安定所(産業雇用情報担当)	求人数の動き	・新規求人数は3か月前と比べて13.9%増加しているが、パート求人が21.9%増加したことによるもので、数字ほど景気が良くなっているとは感じられない。
	やや悪くなっている	—	—	—
悪くなっている	—	—	—	

9. 四国(地域別調査機関: 四国経済連合会)

(—: 回答が存在しない、○: 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	商店街(事務局長)	来客数の動き	・天候にも恵まれ、ゴールデンウィークは多くの人出があり、月を通してにぎわった。一部の高級品に好調な動きがみられるが、全般的には消費マインドの高まりほどは実態が追い付いていない。
		商店街(代表者)	お客様の様子	・個人消費が右肩上がりになるには可処分所得の増加が最も有効である。アベノミクスが消費マインドを刺激しつつあるので株式市場の動向を注視したい。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・絵画や時計など高額商品の売行きが良好である。
		百貨店(営業担当)	販売量の動き	・来客数や売上は、あまり上向いていないが、高額商品が売れ始めており、景気は良くなっていると感じる。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・4月ごろの低迷から少しは脱しているのかもしれないが、野菜の単価安などによって、今一つ実感が無い。
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・売上は微増している。ただし、ポイントカードやクーポンを利用するなど消費者の節約志向は続いており、メリハリが鮮明である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		コンビニ（商品担当）	販売量の動き	・客単価は若干下がっているが、販売数量が増加しており、トータルではプラスである。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・これまでは来客数が前年並みでも購入客数は前年を下回る事が多かったが、最近では購入客数が増えている。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・宿泊客も宴会等の客も増えてきた。客が、お金を使おうかなという傾向が少しずつ見えてきた。
		旅行代理店（支店長）	お客様の様子	・景気回復への期待感から、旅行を検討している客が増えている。
		通信会社（企画）	お客様の様子	・引き続き、高額商品やオプションの引き合いが増えている。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来場者数が前年より増えており、来月の予約状況も前年より増えている。3か月前と比べても来場者数が伸び、景気が上向いてきていると感じる。
		設計事務所（所長）	販売量の動き	・高齢者向け住宅の設計依頼が増えてきた。
	変わらない	一般小売店〔生花〕（経営者）	販売量の動き	・母の日関連商品は好調で前年より注文件数が多かった。しかし月の後半になると人通りも少なく、単価が安い商品の販売中心で、動きが悪かった。
		スーパー（企画担当）	来客数の動き	・生活必需品に関しては以前より生活防衛意識が高まっていると感じる。
		スーパー（企画担当）	単価の動き	・小麦やマヨネーズなど、メーカーが値上げを発表した商品の前倒し需要が出てきている。来客数は前年並みであるが、購入単価がやや上昇した。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・消費マインドは株価の動きに左右されるが、円安によるマイナス面の影響が出ている。消費税増税や電気料金の値上げも予定されており、消費が上向く環境は整っていない。
		コンビニ（総務）	単価の動き	・客単価は3か月前と変わっておらず、個人消費は依然厳しい。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ゴールデンウィークに期待していたが、前年より少し売上が減った。平日に好調な日もあったが、ゴールデンウィーク中の減収分を補えなかった。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・来客数の伸びは前年を下回っている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・消費税増税に関する意識はまだ感じられない。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・4月以降の販売は前年を下回っている。目玉車がない事もあり、販売は落ち込んでいる。客から消費税増税の話も出てきており、販売が難しい状況が続いている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・歓送迎会シーズンであった前月の反動に加え、大型連休の影響を今年も受けた。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・アベノミクスと言われているが、地方には全く関係ない状況である。客単価は低いところでとどまっている。宿泊客も好況感を持って来ているわけではない。
		タクシー運転手	お客様の様子	・1年を通して2月と5月はタクシー業界の売上の低い月なので変わらないと感じる。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・常連客は定期的に来店しているが、新規の客は少ない。
	やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏物の出足もまずまず良く、ゴールデンウィークはかなりにぎわったが、母の日以降は通行量、来街客とも大きく減っている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	販売量の動き	・大型店やネット販売を利用する消費者が多く、小規模な小売店は厳しい。
		一般小売店〔書籍〕（営業担当）	お客様の様子	・消費者はまず高級品や株式の購入にお金を使い、続いて生活必需品を購入し、書籍は一番後回しという雰囲気を感じられる。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・登録車ベースで前年同月比91%と春の最必要期を過ぎて盛り上がり欠けている。競合他社から6月に新型軽自動車が発売予定となっているため、その車を見てからといった商談が多く、なかなか成約に至らない。
		乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・5月の売上は前年を割っている。ただ後半になって予想していた以上に登録数が増えており、景気は底堅く感じる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・お遍路の仕事が昨年の半分ぐらいしかなく、街に人が少ないことに加え、長距離利用の乗客も少ないので売上は良くない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		競艇場（職員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの売上は曜日の並びも影響し、前年比11.4%減であった。5月全体の売上は前年比12.9%増となっているが、前年は今年に比べて開催日数が8日間少なかったことを考えると、実質は売上減少になった。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・来客数、客単価共に低水準で推移している。
	悪くなっている	○	○	○
企業 動向 関連 (四国)	良くなっている	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・前向きな投資の検討が進められている。
	やや良くなっている	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・取引先からの経常的な受注量は低調であるが、スポットでの受注が増加している。しかし受注価格は低下傾向にある。
		一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・円安により、北米に加えて中東での大口商談が増え始めた。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・太陽光や機械設備、電気設備とも受注は好調で引き合いも多い。これから先は予想できないが、今のところ潤っている。
		通信業（部長）	取引先の様子	・昨年同時期と比較して受注数は若干増加傾向である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・株価上昇により消費者心理が改善している。近隣の新築マンションの売行きも順調で、完成前に完売した。富裕層以外の層にも景気が上向いている感覚がある。
		不動産業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・東京や大阪の業者から、多くの問い合わせや物件探しの依頼がある。以前にはなかった兆候である。
		公認会計士	取引先の様子	・前年と比べて赤字の関与先が減っている。若干、景気は回復しつつあると感じる。
	変わらない	農林水産業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・商品によってばらつきはあるものの、流通量が多いため市況は軟調である。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・大幅な円安によって原材料等の輸入価格が上昇し、コストが増大している。そのため値引き交渉を行っているが、なかなか受け入れられてもらえない。
建設業（経営者）		取引先の様子	・公共事業費が増えたことから発注量も増え、一見良くなっているが、仕事は本格的に稼働していない。地域や業種によって偏りがあり景況感はまだ良くない。	
建設業（経営者）		受注量や販売量の動き	・公共事業は増えてきているが、まだ足りない。	
輸送業（経営者）		取引先の様子	・会社としての好況感の実感は無い。株価が乱高下していることが怖い。	
電気機械器具製造業（経理担当）		受注量や販売量の動き	・国内の落ち込みは想定範囲内だが、輸出が想定より落ち込んでいる。	
やや悪くなっている	輸送業（営業）	取引先の様子	・荷主の要請で集荷時間を遅くしたことが大きな負担になっている。また、荷主の再編が加速しており、低コスト輸送業者へのシフト等も起きている。燃料価格上昇が経営を圧迫している。	
	悪くなっている	○	○	○
雇用 関連 (四国)	良くなっている	○	○	○
	やや良くなっている	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・株価上昇などにより大企業だけでなく中小企業にも恩恵が少しずつ浸透してきていると感じる。
		求人情報誌（営業）	求人数の動き	・引き続き県内企業の求人数は増えている。これまで採用を控えていた中小企業が中途採用するなどの動きも見られるが、まだ様子見の企業の方が多い。
	変わらない	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規常用求職者のうち無業者が平成24年5月以降、11か月連続で減少している。求職申込を行った人のうち、希望する仕事がない、企業が求める知識や能力に自信がないなどの理由から一旦、求職活動を断念していることが要因となっている。ただ在職者、退職者についても新規求職者は減少している。
		民間職業紹介機関（所長）	採用者数の動き	・アベノミクスで景気浮揚が期待されているが、企業が採用人数を増やす動きはまだ見られない。大半の企業が景気上昇を体感出来るまで、様子見といったところか。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	やや悪くなっている	人材派遣会社 (営業担当)	採用者数の動き	・求人数が減っており、景気が良いとは思えない。
		職業安定所(職員)	それ以外	・4月の月間有効求人倍率は0.80倍で、3か月前と比較して0.13ポイント低下している。
	悪くなっている	—	—	—

10. 九州(地域別調査機関:公益財団法人九州経済調査協会)

(-:回答が存在しない、○:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	コンビニ(エリア担当・店長)	来客数の動き	・4月中旬から気温が高いせいもあり、来客数が増えている。前年と比較して、気候にもよるが少しずつ来客数が伸びる。梅雨が長雨だと少し分からないが、客単価も上がっている。
(九州)	やや良くなっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・来店数も増えて、客は買おうという意思にもとづいて物色している。購入につながる様子が十分うかがえる。実際に売上点数も増えている。良い方向に少しずつ上向いている。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・最近アーケードの中を往来する客の数が増えたような印象がある。
		商店街(代表者)	来客数の動き	・5月に入り一気に気温の上昇とともに夏物衣料の動きが良くなった。母の日セールも単価はさほどでもないが売上高の増加を後押しした。
		百貨店(営業担当)	単価の動き	・買上単価が3か月連続で前年を上回っている。また、自社クレジットのシェア及び対前年伸長率が3か月連続で前年を上回っており購買意欲は戻りつつある。しかし、現金を手元に残す堅実な姿勢は継続している。
		百貨店(営業統括)	単価の動き	・継続して宝飾・美術・呉服等の高額商品の動きが活発化している。
		百貨店(売場担当)	競争相手の様子	・今月は前年実績を超える見通しだ。2月に比べるとやや良い。突出しているのは絵画と宝石で、3、4月は絵画が前年比430%、宝石が同132%、今月は絵画が前年比175%、宝石が同195%であった。衣料品では、紳士服がやや良いが、婦人服は若干良くない。単価をみると非食品は1品単価が前年比109%、客単価が同110%と伸びている。
		スーパー(店長)	販売量の動き	・母の日の進物件数は前年比110%と伸長した。生花ギフトの単価も前年より上昇したが、衣料品中心に需要は落ち込み、月前半は前年を割り込む。月後半は、前年より気温が高い日が続く衣料品の売上が2けたの伸びとなり、月累計で前年比100.1%まで上がる。
		スーパー(店長)	競争相手の様子	・競合店ができて1年がたち、前年比は先月からみて4%程度改善している。厳しいのは青果相場で前年比92%となっている。精肉、鮮魚は競合店の影響で前年比98%、先月からみて4%程改善している。競合店がディスカウンターに改装してから1年になるので、6月から前年比100%を超える数字が期待できる。
		スーパー(総務担当)	それ以外	・月の前半は、気温の影響もあり春夏物の動きがあまり良くなかった。中旬以降は気温の上昇に伴い衣料品、住居用品、食料品とも前年を上回っている。
		コンビニ(店長)	販売量の動き	・販売量、客数共に多い。
		衣料品専門店(チーフ)	お客様の様子	・今年のクールビズ期間は、前年よりも1か月前倒しで行われているため、客の購買意欲の高さが見受けられ、単価も上昇している。
		衣料品専門店(取締役)	お客様の様子	・端境期の2月と比べると5月は物が動いている。さらに、マスコミ報道による気分的なものや、一部の株等でもうかった方、もしくはボーナスが増えると約束されている方等の買物もある。
		その他専門店[コーヒー豆](経営者)	販売量の動き	・前月に比べると来店客数は若干の減少がみられるが、1人当たりの購入量が増えており、結果、売上増加につながっている。
		その他小売の動向を把握できる者[土産卸売](従業員)	来客数の動き	・ゴールデンウィークを挟み、県外からの観光客も増えてきた。そのため販売数量が増え、販売単価も上昇してきた。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他小売 [ショッピング センター] (広 報担当)	来客数の動き	・5月は春物クリアランス、初夏物の拡大時期であつたにもかかわらず、気温が上がらず衣料品を中心に苦戦した。一方、食品を中心に客数は増加傾向にある。アベノミクスの効果として将来への期待感もある。
		都市型ホテル (販売担当)	来客数の動き	・宿泊者数が少しずつ伸びている。中国や韓国の方々が少し増えている。
		都市型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・5月は団体、個人、インターネット予約共に伸びている。
		旅行代理店(企 画)	お客様の様子	・国内旅行は、5月は受注人数で前年をわずかに割ったが、6～8月は110%以上の伸びをみせている。一方、海外旅行は、人数で対前年を10%以上割っている。ただし、8月の取扱人数は前年割れしているが、取扱額は前年を上回っている。夏のボーナスを期待して、少し高価な旅行を申し込む傾向がみられる。また、ファミリー層の受注も110%以上の伸びを示しており、夏の旅行受注に向けて期待が持てる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・昼間の動きは以前よりも良くなってきているが、夜はさっぱりである。プラス、マイナスで少し良い。
		通信会社(業務 担当)	販売量の動き	・5月は中旬以降、新商品により市場が活性化し、販売が好調で、人気商品の品薄感もあるものの、平日、週末共に来店客数と売上台数ともに増えている。
		その他サービスの 動向を把握で きる者[介護 サービス] (管 理担当)	来客数の動き	・季節要因により客の入院が減少し、全体の顧客増につながっている。
		設計事務所(所 長)	来客数の動き	・円安、株高の影響なのか、様々な計画や企画等の話を持ち込んでくる客が多くなっている。
		設計事務所(代 表)	来客数の動き	・問い合わせが増えてきている。
		住宅販売会社 (従業員)	販売量の動き	・新築住宅受注・建売住宅売買棟数が、3か月前は前年比1～2割増だったのが、今月は前年比3割増の見込みである。
		住宅販売会社 (代表)	来客数の動き	・住宅に関してはいろいろな要因があるが、やや上向きである。来客数等の動きもあるが、大工や板金、基礎などの関連業者の仕事が詰まっており、かなり忙しく受注を取っている印象を受けている。
	変わらない	商店街(代表 者)	来客数の動き	・来客の様子をみると雰囲気的には景気が上向きになっているような気がするが、購買には連動していない。特に今月は好天のゴールデンウィークで行楽地へと客の流出が顕著であった。
		商店街(代表 者)	来客数の動き	・商店街の来街客数はそう増えていないし、単価も上がっていない。地方の個人消費の実態はまだまだ相当厳しいというのが実感である。
		一般小売店[青 果] (店長)	それ以外	・宮崎の中央市場の相場は、夏野菜等で県外物も増えたが、販売量が増えて高くなったのではなく県外物の輸送コストで高くなっており、物の動きは変わらない。マンゴーのギフト関係が前年の相場よりも2～3割安くなっており厳しい。
		一般小売店[生 花] (経営者)	販売量の動き	・当店はギフト専門の花屋だが、5月は母の日という一大イベントがあつたのにもかかわらず、他業種が母の日ギフトに参入していることもあり、今一つ売上が伸びておらず、年々母の日の売上が落ちている。
		一般小売店 [茶] (販売・ 事務)	来客数の動き	・円安の悪影響が少しずつ出てきている。新茶の売上も仕入れの値上がりで期待薄となり例年と変わらない。5月に入り新茶で売れる時期にもかかわらず、気温の上昇とともに来客数も販売量も減少している。
		百貨店(総務担 当)	販売量の動き	・ゴールデンウィークが好天に恵まれて、人々が郊外の観光地へ向いたことで、都心部に立地する当施設への来店者数が大幅に前年実績を割っている。母の日以降もアパレル、飲食、サービスなどテナントの売上が大変厳しい状況である。
		百貨店(営業担 当)	それ以外	・店頭の入店客数の前年割れが続いているのに加え、店頭の売上自体が非常に苦戦している状況である。一部、外商の客には少し好転する動きがみられるが、店頭での売上が下回っているという状況である。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		百貨店（店舗事業計画部）	販売量の動き	・季節性の高い婦人ファッションや雑貨商品は、本当に必要なものを必要な時期になって買う顧客が大半である。シーズンを先取りする顧客が少なく、好天が続くき気温が上がって安定してきてようやく動き出しており、流行の取り入れ方も慎重にみえる。
		百貨店（営業政策担当）	販売量の動き	・直近の九州主要百貨店の来客及び売上状況は、リモデルなどの特殊与件を除くと、概ね前年実績割れの傾向が多い。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・今年の春については、気温が安定せず衣料品を中心に動きが悪かった。5月に入り、気候も安定し動きも堅調になってきたものの、機を逃した売上を取り戻すまでには至っていない。提案商品への反応は鈍く、必要性が生じてから買うという客の動きは変わらない。
		スーパー（経営者）	販売量の動き	・アベノミクス等で景気が良いように言われているが、実際には何も変化がない。ガソリン代をはじめ日用品の値上げで、景気は後退気味のようなイメージがある。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・数か月前と比較しても相変わらず低価格志向が強い。多少の工夫では単価は上がらず、単価を上げれば買上に敏感に影響する。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・買上点数が増えているにもかかわらず、客の買上単価が下がっているのが現状である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・消費者の低価格志向は依然として根強いものがあり、競合他社もかなりギリギリのところまで価格を下げており厳しい状況が続いている。客数自体は若干回復傾向にあるが、その分単価の下落は続いている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・福岡地区は比較的落ち込みは少ないが、北九州地区は前年に対する落ち込みが大きい。全般的には野菜が安値で販売額が減少している。
		スーパー（業務担当）	販売量の動き	・梅雨入りして数日が経過したが、例年この時期に急速にトレンドが上向いてくる半袖衣料や炭酸飲料等の季節商材の動向が弱い。平年値と比較しても数%の低下しており、売上の底上げにつながらない状況が続いている。
		コンビニ（経営者）	お客様の様子	・いまだに目的買いばかりの商品だけで、プラスアルファのついで買いが客の購買動向からみられない。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・ゴールデンウィーク期間中気温が上昇せず、夏物商品がほとんど売れない厳しい状況が続いている。アベノミクスの影響は地方ではほとんどなく、客の賃金が上がっているようには全くみえない。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・先月より微量ながら悪く、3月と同様で販売量はほぼ横ばいである。
		衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・ゴールデンウィークから5月末にかけて、来店はあるが依然財布のひもが固く、売上につながらない。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・下げ止まりというか、来店客数も売上高もそう変化がないようだ。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・何度か下見してから慎重に購入を決める客が目立った。買い方をみていると景気が良くなっている気はしない。売上も前年並みである。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電では、現在核となる商品がない状態で、景気に関して言うと、かなり前から悪い状態での横ばいが続いているというのが実感である。
		家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・AV関連商品に関して、販売量及び単価は上がりつつあり、一時の低迷からは脱しつつあるが、全体的な景気が上向きになっているという感覚はない。
		乗用車販売店（代表）	お客様の様子	・景気が良くなっている様な話題が出ない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今月も新車販売台数が順調に伸びている。特に燃費の良いハイブリットなどのエコカーが人気である。
		住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後半、来客数は回復傾向にあったが、中旬以降はまた減少してきた。5月後半の株価の異常な動きが景気的不安定さを表している。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・特売日や、ポイントカードのポイント3倍などの催しがある日は売上が伸びてきている。購買意欲は出てきているが、できる限り安くお得な日という意識がまだまだ強い。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	お客様の様子	・燃料油の販売量は前年と比較して、さほど変わりはない。連休中に当地を訪問して当店を利用いただいた客の会話及び様子を聞くと、前年よりも旅行に費用をかけているようだ。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		その他専門店 〔書籍〕（地区 支配人）	販売量の動き	・3か月前と比べても販売量の増加は見られず回復の兆しがみられない。悪くなっている傾向に変化がみられないという意味で「変わらない」と判断する。
		その他小売の動 向を把握できる 者〔ショッピング センター〕 （支配人）	来客数の動き	・ランチタイムは変わらないが、夜のディナータイムの来客が減少した。
		高級レストラン （専務）	来客数の動き	・今年はゴールデンウィークが連続していなかったため国内旅行が多かったのか、円安の影響で外国客の増加の影響か、客が増えた。
		高級レストラン （支配人）	来客数の動き	・来客数が横ばい気味である。
		居酒屋（経営 者）	来客数の動き	・店に出入りする業者に聞いても景気が良くなってきたという話は聞かない。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・為替の変動が激しく先の見通しがつかみづらく、価格決定に苦労している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・昼間のタクシー利用の動きが悪く、夜も週末に少し動くだけであまり変わらない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・会社関係の予約状況は大変良いが、一般の日常的な売上が今月は大幅に落ち込み、大変売上が悪かった。
		通信会社（総務 局）	販売量の動き	・地上波完全地上デジタル化以降、新規獲得は低迷しており、さらにインターネット獲得競争激化により解約増加契約数は横ばいで推移している。
		ゴルフ場（従業 員）	来客数の動き	・県外の観光客が定期的に減少している状態で、それに伴ってゴルフ場の入場者数も減っている。また地元客を取り入れるためにプレー代の値引きするなど、なかなか厳しい状況が続いている。
		ゴルフ場（支配 人）	来客数の動き	・5月は天候に恵まれ、入場者数は過去5か年の平均値を確保できる見込みである。しかし、安くなったプレー料金とゴルフ場数過多により、いつでもゴルフができるという余裕から、わずかな雨でも予約は敏感に反応し、当日キャンセルが常態化しており、安定した客数を確保することが難しくなった。
		美容室（経営 者）	販売量の動き	・3か月前はこれから景気が良くなる傾向があったが、5月は今までの景気改善の傾向が止まってしまっている。アベノミクスの影響は一部に出ているが、末端の消費者には少しも浸透していない。
		美容室（店長）	お客様の様子	・テレビや新聞で景気が良くなりボーナスも上乘せ等という話を聞くが、身近ではそういう話は出てこない。
		音楽教室（管理 担当）	来客数の動き	・今はあまり人数の変更はない。
		設計事務所（所 長）	来客数の動き	・特にない。
		住宅販売会社 （従業員）	お客様の様子	・アベノミクスの効果で株価等の証券関係は非常に実体景気が良いようだが、宅建業の住宅販売は、まだ一般まで浸透していない。例えば、給料やボーナスが上がるという話がないので、実際に客がマンションや住宅の購入に踏み切れていないといえる。
	やや悪く なっている	商店街（代表 者）	お客様の様子	・アベノミクスという言葉は大企業に対する言葉であって、我々零細企業には全く関係がない。給与は上がるどころか物の値段のほうが上がり、6月出荷分から食料品でも小麦粉、油、マヨネーズ、シーチキン等の値上げが発表されている。消費者も大変な年になりそうだ。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・高額商品を購入する一部の客の動きは良くなっているが、一般客の消費に対する動きが良くない。特に紳士服では半袖ワイシャツや紳士肌着が良くなる時期だが、実際に購入する客が少ない。
		百貨店（企画）	お客様の様子	・人気の物産催事開催が入店につながっていない。不安定な経済情勢は接客時の話題にも現れ、気温の上昇に伴い夏物衣料品への期待が高まるなか、売上は苦戦気味である。
		スーパー（総務 担当）	お客様の様子	・これまでの低価格商品への動きが緩やかになってきている。他方、中・高額品への動きは活発でもなく、結果、買上点数が減少し、業績が若干悪化している。また、低価格商品だけの集客戦略では客数維持が担保できないため、多様な戦略が必要となっている。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		衣料品専門店 (総務担当)	競争相手の様子	・上場会社の月次の売上高傾向、及び当社が出店しているビルにおける5月の月次の途中経過等をみると、2月に比べて落ち込み幅も大きくなっており、また当社においても例外ではなく、2月よりも前年比でみた場合悪くなっている。
		乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・エコカーの受注は伸びているが、利益が取れる車が伸びず、全体的に受注が前年に対して少なくなっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕 (支配人)	来客数の動き	・競合他社の相次ぐリニューアルによる影響がある。
		高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・先月は良かったが、5月はゴールデンウィーク前後から少し来客数が少なくなり、その後少しは立て直したがやはり厳しい月になった。現政権になって少しづつは景気が良くなっているような感じはするが、やはりまだ今一步である。
		美容室(経営者)	来客数の動き	・3月は卒業式等イベントがある期間は良くなるが、今から梅雨に入ると、おしゃれをしてもあまり関係ない時期になるので落ち込んでいく。
	悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・メディアは景気回復を伝えているが、その影響は大企業及び一部の投資家だけで、末端層では更に景気は悪くなっている。ゴールデンウィークの消費に伴い更に追い打ちをかけるがごとく、消費者は購買を控えている。周りの飲食業、小売店もあまり良い声は聞かない。売上が前年度比でマイナス40%になっている。
	一般小売店〔鮮魚〕(店員)	来客数の動き	・急激な気温の上昇のせいなのか何か分からないが、とにかく来客数が少ない。原因が分からない。	
企業 動向 関連 (九州)	良くなっている	経営コンサルタント(代表取締役)	それ以外	・熊本に関して言うと、今月中旬に第56回日本糖尿病学会というかなり大きなイベントが開催されたこともあって、街なかでは非常ににぎわった状況であったと聞いている。また、住宅展示場を回ったが、駐車場が一杯で入れないほど人が来ており、今までになかった動きがある。
	やや良くなっている	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・5月は4月ほどの勢いはないが、前年に比べてかなり伸びている。特にスーパー、居酒屋関係は順調である。少し期待はずれは、大手加工メーカー向けの素材肉類があまり芳しくないことだ。もう少し時間が必要なのかもしれないが、供給量が多いことが一番の原因である。
		家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3月以降、季節変動はあったものの総体的に前年同月比では、受注額、受注件数共に伸びている。1件当たりの受注額の伸びは数%であるが、受注件数が10%以上伸びた。高級家具の引き合いも若干増えており低価格商品一辺倒から抜けつつある。
		精密機械器具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注量が増えてきて、生産数が上がってきている。
		通信業(経理担当)	それ以外	・このところ地場の企業決算公告が新聞をにぎわしている。株価の乱高下はともかくとして企業そのものの好決算は揺るがないところだ。
		新聞社(広告担当者)	受注量や販売量の動き	・売上のメインである「通信販売」「旅行」が90%台と弱含みで推移しているが、太陽光発電などの「住宅設備」「不動産」が前年を超える出稿量で全体としては100%を上回る見込みである。
		経営コンサルタント(社員)	取引先の様子	・大型倉庫を求めている企業が多くなってきた。
		経営コンサルタント(代表取締役)	受注量や販売量の動き	・顧客からの問い合わせや申込みが増えてきており、企業の投資意欲が上向きつつある。
	変わらない	農林水産業(従業者)	受注量や販売量の動き	・畜産の食肉関係の販売は、大体前年並みで推移している。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・例年より受注量が多く推移している。
繊維工業(営業担当)		それ以外	・受注は増えつつあるが、デリバリーや材料の仕入れ価格の上昇の影響が大きい。電気代の値上げで相当経費をもっていかれそう。景気が良くなっているとは言えない。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注は、現在単価が大変厳しい状態である。円安の影響で中国の予約品等はいくらか減っているようであるが、我々の商品価格には何の影響もない状態である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・特に受注量が多くなっていない、3か月前とほぼ同じ足並みである。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・現在は手持ち工事もあり、年度初めとしては良いが、後が全くみえてこない。新年度の発注予定はあるが、発注時期が不明である。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・円安などからコスト高による収益悪化を懸念する取引先があり、生産水準も概ね横ばいである。一方、百貨店・スーパーでは売上が増加している。また、災害復旧関連工事を含め公共事業が活発化している。雇用面でも中途採用に踏み切る動きがみられる。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・円安に伴う大手製造メーカーの好決算ばかりが目立っているが、中小企業は、商売の大半を輸入品目に頼ったものとなっているため、円安による仕入品目の値上げ負担になってきており、利幅は低迷したままとっている。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・アベノミクスで実行された大胆な金融緩和や緊急経済対策等により、景気動向指数や日経平均株価の推移等から景気は回復軌道に入っているという声を取引先企業の代表者から数多く聞く。また、株高を受けて消費者の期待は急速に高まり、個人消費は改善していると一部で大きく言われているが、実体は、企業の業績改善に至っていないとの声を多く聞く。以上より、景況感はまだまだ厳しいと判断している。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・いろいろと営業努力をしているが、新しいクライアントが増えない。これは同業者に聞いても同じようだ。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	取引先の様子	・福岡県内の市町村の当初予算をみると、土木工事や公共施設の改修工事などの業務に多く計上されているが、発注は地元の同じ市町村にある建設工事の業者が優先されるため、他市町村にある事業所が受注することが難しい状況にあり、入札の指名がなかなか得られない状況にある。
	やや悪くなっている	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量がなかなか上がらない。依然として悪い状態が続いている。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・預かっている荷物の荷動きが非常に悪い。したがってあまり良くない。
	悪くなっている	○	○	○
雇用関連 (九州)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人依頼数が前年比150%と企業の求人意欲が活発である。
		人材派遣会社（社員）	それ以外	・パーティコンパニオンの派遣を行っているが、4月以降コンパニオンの発注が前年比20%増となっている。震災等で控えていた宴会の実施や、コンパニオンを入れる予算が確保できてきたようである。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・派遣依頼をする企業も増えているが、直接雇用を前提に紹介予定派遣や人材紹介を希望する企業も出てきている。企業の業績が良くなり、長期的に人材を入れたいという企業が増えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・株価が上昇している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・中規模開発の発表が相次いでおり、サービス業で動きが出始めている。都市圏での投資が地方都市へも波及してきたようだ。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	・大卒の就職活動が本番を迎えており、内定者に聞くと状況が良いようだ。内容もさまざまな業種、業界にわたり景気の回復感がうかがえる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は、前年同月比で7か月連続増加、新規求職は、4か月連続減少しており雇用状況は改善している。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・ハローワーク紹介の就職件数は前年同月、前月比で13%増となっている。
	変わらない	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・求人数は、3か月前と比べて大きな変化はない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・当社調べの求人取扱に変化がない。
		職業安定所（職業相談）	求人数の動き	・求人数は前年同月比で増加傾向にあるが、増加分の約7割をパート求人が占めているなど、正社員求人の本格的回復には至っていない。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人の動きに変動はない。特に大手企業は動きがありそうになく、地域の中小企業も動きはみられない。
		民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・派遣労働者の大きな需要先である金融機関や情報・通信業界からの注文が伸びず、注文数は前年同期を割っている状態が続いている。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・求人依頼で来訪する企業のうち、いくつかは前年度より求人増の意向を示しているが、景気の動向に結び付くような顕著な動きにはなっていない。
	やや悪くなっている	—	—	—
	悪くなっている	—	—	—

11. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
	やや良くなっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・近隣の高齢者の野菜や惣菜の購入頻度が増えている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・テレビ、雑誌などメディアで取り沙汰されているアベノミクスの効果もあるかもしれない。本格的な不景気と言われ始めたのは5～7年前であったのだろうか、この間、東日本震災等もあり、生活する上でいろいろ節約や我慢をしてきた人も多いはずだが、それが今、アベノミクスに乗って解放されているような印象を受けている。
		通信会社（店長）	販売量の動き	・低価格の新商品の発売が消費者に火をつけたようで、売上が上向きに推移している。売上が価格に左右されていることを考えると、完全に景気回復に向かっているとは考えられないが、現状では大変好調である。
		住宅販売会社（総務・企画分野）	お客様の様子	・商談の中で、消費税増税や金利上昇の話が具体的に出ており、受注スケジュールがより具体的に検討されるようになってきている。そのため、商談への真剣さを感じられ、受注増が期待でき、景気は上向きにあるとみる。
		住宅販売会社（代表取締役）	来客数の動き	・個人住宅用地を求める客や、個人住宅やアパート建築に関する相談が増えている。
	変わらない	百貨店（営業企画）	販売量の動き	・当月の売上は前年比では101%である。前月は気温低下傾向で衣料品が苦戦していたが、今月はやや回復の兆しがうかがえる。ただし服飾雑貨が低調となり、全体では伸び悩む。
		スーパー（企画担当）	販売量の動き	・売上、来客数共に前年並みで推移しており、景気は横ばいである。
		スーパー（販売企画担当）	販売量の動き	・売上の前年比は来客数の前年比より3%減少している。理由としては、競合店の増加や業態を超えての競争が推測される。
		コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数が前年比10%減の状態が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・今月は雨が多く、アイスや氷、乳製品、制汗シートや日焼け止め等の売上が悪く、前年割れが大きかった。天候による来客数減はあるが、単価は前年を超えており、個人の消費意欲は落ちていない。
		その他専門店〔楽器〕（経営者）	来客数の動き	・ゴールデンウィークまでは非常に来客数が多かった。以降は途端に来客数が減っている。日本は景気が上向いているようだが、沖縄観光が上向くのは梅雨明けから夏の祭りシーズンの頃になるとみており、それまでは厳しい状況かもしれない。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	販売量の動き	・3か月前から悪いままで、変化が感じられない。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
		観光型ホテル (マーケティング担当)	販売量の動き	・世間的にはアベノミクスの効果や株価の高騰など良いニュースも耳にはするものの、稼働率の前年比プラス幅は、3か月前からはあまり変わっていない。大きな上向き傾向は感じられない。	
	やや悪くなっている	その他飲食〔居酒屋〕(経営者)	来客数の動き	・連休明けから給料日の間は例年来客数が落ちるが、今年は過去最低で推移している。地元客が平日、特に午後10時以降ほとんど動かず、いろいろなイベントを打っているが反応が薄い。	
		ゴルフ場(経営者)	単価の動き	・単価の低い競合他社の方に流れている。当社としては単価を下げるか上げるか、そのままにするか検討中である。	
	悪くなっている	○	○	○	
企業 動向 関連 (沖縄)	良くなっている	○	○	○	
	やや良くなっている	—	—	—	
	変わらない	窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・公共工事向けは減少しており、民間工事向けもやや減少で、全体ではやや減少している。	
		輸送業(本社事業本部)	受注量や販売量の動き	・同業種内でも受注量が多少増加しているところもあれば減少しているところもあるが、全体的にはほとんど同じ取扱量で、取扱量が大きく増減している取引先はみられない。	
	やや悪くなっている	食料品製造業(総務)	それ以外	・今月は更に円安となり、原料の先物価格も出てこない状況となっている。原油その他も値上げとなり、先行き運賃や包材等の石油由来の材料の値上げも予想され、原価上昇が気がかりである。	
		建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注件数及び受注金額が下がっている。	
		通信業(営業担当)	取引先の様子	・年度の初めから案件受注の遅延が増えている。	
	悪くなっている	—	—	—	
	雇用 関連 (沖縄)	良くなっている	—	—	—
		やや良くなっている	人材派遣会社(総務担当)	求人数の動き	・企業の求人は、ある程度堅調である。
学校〔専門学校〕(就職担当)			周辺企業の様子	・景気が上向きになってきている兆しなのか、一過性のもなのか定かではないが、経験者募集の求人が増えている。しかし適材の人材が少ないという企業の声が多い。新卒の採用枠も前年より増加している。	
変わらない		○	○	○	
やや悪くなっている		—	—	—	
悪くなっている		—	—	—	